

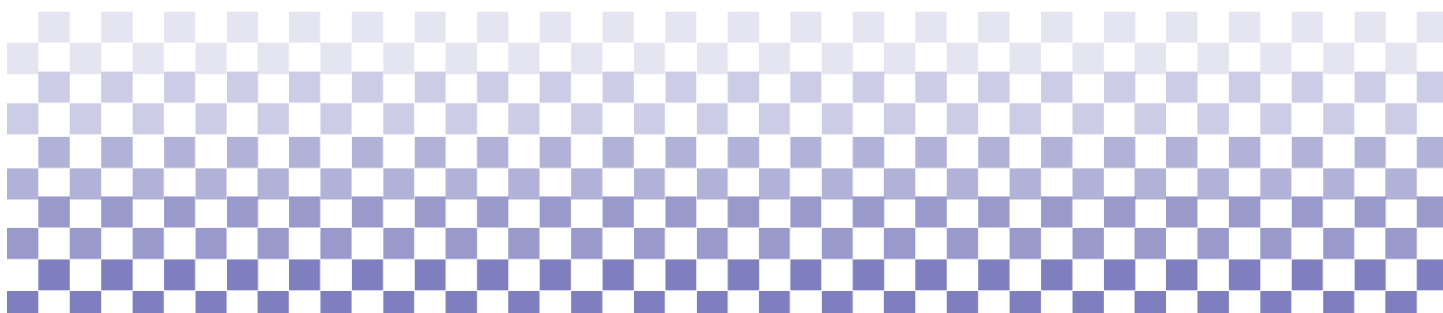
令和元（2019）年度  
専門職学位課程

授業評価報告書

---

令和2(2020)年6月

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科



# 目次

## 令和元(2019)年度 授業科目一覧

### 共通科目

教育課程の編成・実施に関する領域 (第1領域)	1
教科等の実践的な指導方法に関する領域 (第2領域)	3
生徒指導,教育相談に関する領域 (第3領域)	5
学級経営,学校経営に関する領域 (第4領域)	7
学校教育と教員の在り方に関する領域 (第5領域)	9
共通科目選択群	11

### 専門科目

教科領域力	26
発達支援力	41
マネジメント力	56
子ども対応力	65
学習指導改善力	70
教職実践力	76

### 実習科目

教科実践高度化系	84
教職実践高度化系	86

# 令和元(2019)年度 授業科目一覧

★：回答数が3名以下のため、授業評価報告書は未掲載。

No.	科目区分	領域・科目群	科目コード	科目名	回答数
001	共通科目	第1領域	PAAA010E	カリキュラムマネジメントの理論と実践	71
002	共通科目	第1領域	PAAA020E	教科カリキュラムの構成と理論	65
003	共通科目	第2領域	PAAA030E	授業の理論と実践	70
004	共通科目	第2領域	PAAA040E	教育評価の理論と実践	72
005	共通科目	第3領域	PAAA050E	生徒指導の理論と実践	70
006	共通科目	第3領域	PAAA060E	教育相談の理論と実践	63
007	共通科目	第4領域	PAAA070E	学級経営の理論と実践	68
008	共通科目	第4領域	PAAA080E	学校組織マネジメントの理論と実践	59
009	共通科目	第5領域	PAAA090E	今日的な教育課題とその対応 I	59
010	共通科目	第5領域	PAAA100E	今日的な教育課題とその対応 II	57
011	共通科目	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (国語)	10
012	共通科目	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (英語)	4
013	共通科目	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (社会)	4
014	共通科目	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (数学)	3★
015	共通科目	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (技術・工業・情報)	1★
016	共通科目	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (音楽)	2★
017	共通科目	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (美術)	2★
018	共通科目	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (保健体育)	2★
019	共通科目	共通科目選択群	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (国語)	10
020	共通科目	共通科目選択群	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (英語)	4
021	共通科目	共通科目選択群	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (社会)	4
022	共通科目	共通科目選択群	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (数学)	3★
023	共通科目	共通科目選択群	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (技術・工業・情報)	1★
024	共通科目	共通科目選択群	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (音楽)	2★
025	共通科目	共通科目選択群	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (美術)	2★
026	共通科目	共通科目選択群	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (保健体育)	2★
027	共通科目	共通科目選択群	PABA030E	チーム総合演習(教育課題解決のためのプランニング)	37
028	共通科目	共通科目選択群	PABA040E	教職協働実践演習 I (特別支援)	4
029	共通科目	共通科目選択群	PABA040E	教職協働実践演習 I (幼年関連3分野)	4
030	共通科目	共通科目選択群	PABA040E	教職協働実践演習 I (教職系・子ども発達除く)	37
031	共通科目	共通科目選択群	PABA050E	教職協働実践演習 II (特別支援)	4
032	共通科目	共通科目選択群	PABA050E	教職協働実践演習 II (幼年関連3分野)	5
033	共通科目	共通科目選択群	PABA050E	教職協働実践演習 II (教職系・子ども発達除く)	36
034	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (国語)	6
035	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (社会)	1★
036	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (数学)	2★
037	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (技術・工業・情報)	1★
038	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (美術)	1★
039	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (保健体育)	2★
040	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (特別支援)	1★
041	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (幼年関連3分野)	3★
042	共通科目	共通科目選択群	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (教員養成)	16

# 令和元(2019)年度 授業科目一覧

★：回答数が3名以下のため、授業評価報告書は未掲載。

No.	科目区分	領域・科目群	科目コード	科目名	回答数
043	専門科目	教科領域力	PBAA010E	言語コミュニケーション教育(国語)の内容構成演習	11
044	専門科目	教科領域力	PBAA020E	言語文化教育(国語)の内容構成演習	12
045	専門科目	教科領域力	PBAA030E	言語コミュニケーション教育(国語)の教材開発演習	10
046	専門科目	教科領域力	PBAA040E	言語文化教育(国語)の教材開発演習	10
047	専門科目	教科領域力	PBAA050E	言語コミュニケーション教育(国語)の学習指導と授業デザイン	9
048	専門科目	教科領域力	PBAA060E	言語文化教育(国語)の学習指導と授業デザイン	13
049	専門科目	教科領域力	PBBA010E	言語コミュニケーション教育(英語)の内容構成演習	1★
050	専門科目	教科領域力	PBBA020E	言語文化教育(英語)の内容構成演習	4
051	専門科目	教科領域力	PBBA030E	言語コミュニケーション教育(英語)の教材開発演習	5
052	専門科目	教科領域力	PBBA040E	言語文化教育(英語)の教材開発演習	4
053	専門科目	教科領域力	PBBA050E	言語コミュニケーション教育(英語)の学習指導と授業デザイン	3★
054	専門科目	教科領域力	PBBA060E	言語文化教育(英語)の学習指導と授業デザイン	3★
055	専門科目	教科領域力	PBCA010E	社会認識教育(地理歴史)の内容構成演習A	3★
056	専門科目	教科領域力	PBCA020E	社会認識教育(地理歴史)の内容構成演習B	3★
057	専門科目	教科領域力	PBCA030E	社会認識教育(地理歴史)の教材開発演習A	3★
058	専門科目	教科領域力	PBCA040E	社会認識教育(地理歴史)の教材開発演習B	3★
059	専門科目	教科領域力	PBCA050E	社会認識教育(地理歴史)の学習指導と授業デザインA	3★
060	専門科目	教科領域力	PBCA060E	社会認識教育(地理歴史)の学習指導と授業デザインB	3★
061	専門科目	教科領域力	PBCA070E	社会認識教育(公民)の内容構成演習A	2★
062	専門科目	教科領域力	PBCA080E	社会認識教育(公民)の内容構成演習B	2★
063	専門科目	教科領域力	PBCA090E	社会認識教育(公民)の教材開発演習A	1★
064	専門科目	教科領域力	PBCA100E	社会認識教育(公民)の教材開発演習B	2★
065	専門科目	教科領域力	PBCA110E	社会認識教育(公民)の学習指導と授業デザインA	3★
066	専門科目	教科領域力	PBCA120E	社会認識教育(公民)の学習指導と授業デザインB	1★
067	専門科目	教科領域力	PBZA010E	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の構成とカリキュラム	13
068	専門科目	教科領域力	PBZA020E	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の学習指導と授業デザイン	8
069	専門科目	教科領域力	PBDA010E	数理認識教育(数学)の内容構成演習A	4
070	専門科目	教科領域力	PBDA020E	数理認識教育(数学)の内容構成演習B	3★
071	専門科目	教科領域力	PBDA030E	数理認識教育(数学)の教材開発演習A	2★
072	専門科目	教科領域力	PBDA040E	数理認識教育(数学)の教材開発演習B	3★
073	専門科目	教科領域力	PBDA050E	数理認識教育(数学)の学習指導と授業デザインA	4
074	専門科目	教科領域力	PBDA060E	数理認識教育(数学)の学習指導と授業デザインB	4
075	専門科目	教科領域力	PBFA010E	ものづくり教育(技術・工業)の内容構成演習A	2★
076	専門科目	教科領域力	PBFA020E	ものづくり教育(技術・工業)の内容構成演習B	1★
077	専門科目	教科領域力	PBFA040E	ものづくり教育(技術・工業)の教材開発演習B	1★
078	専門科目	教科領域力	PBFA050E	ものづくり教育(技術・工業)の学習指導と授業デザインA	1★
079	専門科目	教科領域力	PBFA060E	ものづくり教育(技術・工業)の学習指導と授業デザインB	1★
080	専門科目	教科領域力	PBZA030E	数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の構成とカリキュラム	2★
081	専門科目	教科領域力	PBZA040E	数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の学習指導と授業デザイン	3★
082	専門科目	教科領域力	PBHA010E	演奏芸術表現教育(音楽)の内容構成演習A	2★
083	専門科目	教科領域力	PBHA020E	演奏芸術表現教育(音楽)の内容構成演習B	2★
084	専門科目	教科領域力	PBHA030E	音楽表現・鑑賞教育(音楽)の教材開発演習A	2★

# 令和元(2019)年度 授業科目一覧

★：回答数が3名以下のため、授業評価報告書は未掲載。

No.	科目区分	領域・科目群	科目コード	科目名	回答数
085	専門科目	教科領域力	PBHA040E	音楽表現・鑑賞教育(音楽)の教材開発演習B	2★
086	専門科目	教科領域力	PBHA050E	演奏芸術表現教育(音楽)の学習指導と授業デザインA	2★
087	専門科目	教科領域力	PBHA060E	演奏芸術表現教育(音楽)の学習指導と授業デザインB	2★
088	専門科目	教科領域力	PBIA010E	造形芸術表現教育(美術)の内容構成演習A	2★
089	専門科目	教科領域力	PBIA020E	造形芸術表現教育(美術)の内容構成演習B	2★
090	専門科目	教科領域力	PBIA030E	造形芸術表現教育(美術)の教材開発演習A	2★
091	専門科目	教科領域力	PBIA040E	造形芸術表現教育(美術)の教材開発演習B	2★
092	専門科目	教科領域力	PBIA050E	造形芸術表現教育(美術)の学習指導と授業デザインA	2★
093	専門科目	教科領域力	PBIA060E	造形芸術表現教育(美術)の学習指導と授業デザインB	2★
094	専門科目	教科領域力	PBJA010E	健康・スポーツ教育(体育)の内容構成演習A	2★
095	専門科目	教科領域力	PBJA020E	健康・スポーツ教育(体育)の内容構成演習B	2★
096	専門科目	教科領域力	PBJA030E	健康・スポーツ教育(体育)の教材開発演習A	1★
097	専門科目	教科領域力	PBJA040E	健康・スポーツ教育(体育)の教材開発演習B	2★
098	専門科目	教科領域力	PBJA050E	健康・スポーツ教育(体育)の学習指導と授業デザインA	3★
099	専門科目	教科領域力	PBJA060E	健康・スポーツ教育(体育)の学習指導と授業デザインB	2★
100	専門科目	教科領域力	PBZA050E	身体・表現・文化を視点とした教科横断型単元の構成とカリキュラム	3★
101	専門科目	教科領域力	PBZA060E	身体・表現・文化を視点とした教科横断型単元の学習指導と授業デザイン	4
102	専門科目	発達支援力	PPAA010E	乳幼児期から児童期の発達心理と保育	9
103	専門科目	発達支援力	PPAA020E	子どもの心理発達の理論と実践	7
104	専門科目	発達支援力	PPAA030E	幼児期から児童期の子どもの発達と支援	5
105	専門科目	発達支援力	PPAA040E	幼児教育の理論と実践	5
106	専門科目	発達支援力	PPAA050E	遊びの原理に立つ幼児教育	10
107	専門科目	発達支援力	PPAA060E	小学校への接続・連携を見通した幼児教育	6
108	専門科目	発達支援力	PPAA070E	子ども家族支援の実際と課題	13
109	専門科目	発達支援力	PPAA080E	家庭教育支援演習	5
110	専門科目	発達支援力	PPBA010E	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインA	4
111	専門科目	発達支援力	PPBA020E	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインB	4
112	専門科目	発達支援力	PPBA030E	特別支援教育における心理行動支援A	8
113	専門科目	発達支援力	PPBA040E	特別支援教育における心理行動支援B	3★
114	専門科目	発達支援力	PPBA050E	特別支援教育における医療・教育の連携A	4
115	専門科目	発達支援力	PPBA060E	特別支援教育における医療・教育の連携B	4
116	専門科目	発達支援力	PPBA070E	特別支援教育における心理学・教育学の連携A	6
117	専門科目	発達支援力	PPBA080E	特別支援教育における心理学・教育学の連携B	4
118	専門科目	マネジメント力	PPCA010E	リーダーシップとコミュニケーション	28
119	専門科目	マネジメント力	PPCA020E	地域の教育課題と教育行政の実務	17
120	専門科目	マネジメント力	PPCA030E	教育法規実践演習	10
121	専門科目	マネジメント力	PPCA040E	学校危機管理の実践	24
122	専門科目	マネジメント力	PPCA050E	学校防災教育の開発	18
123	専門科目	マネジメント力	PPCA060E	学校におけるカリキュラムマネジメントの推進	23
124	専門科目	マネジメント力	PPCA070E	家庭・地域・学校の連携構築	5
125	専門科目	マネジメント力	PPCA080E	学校ビジョンの構築と教職員の組織化	5
126	専門科目	マネジメント力	PPCA090E	教職員の人材育成と校内研修	13

# 令和元(2019)年度 授業科目一覧

★：回答数が3名以下のため、授業評価報告書は未掲載。

No.	科目区分	領域・科目群	科目コード	科 目 名	回答数
127	専門科目	子ども対応力	PPDA010E	子ども理解と支援	27
128	専門科目	子ども対応力	PPDA020E	いじめ・不登校等事例検討	24
129	専門科目	子ども対応力	PPDA030E	いじめ・不登校等チーム支援とコーディネート	23
130	専門科目	子ども対応力	PPDA040E	集団づくりとグループアプローチ	32
131	専門科目	子ども対応力	PPDA050E	道徳教育の理論と実践	11
132	専門科目	学習指導改善力	PPEA010E	教育評価の実際と事例分析	17
133	専門科目	学習指導改善力	PPEA020E	学校教育におけるICT活用と情報デザイン	41
134	専門科目	学習指導改善力	PPEA030E	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	19
135	専門科目	学習指導改善力	PPEA040E	校種間連携に視座した教材・教具の開発演習	10
136	専門科目	学習指導改善力	PPEA050E	学習者の心理とアクティブラーニング	44
137	専門科目	学習指導改善力	PPEA060E	ワークショップ型研修の技法	7
138	専門科目	教職実践力	PPFA010E	学習指導要領と教育課程A	22
139	専門科目	教職実践力	PPFA020E	学習指導要領と教育課程B	18
140	専門科目	教職実践力	PPFA030E	教育実践の事例研究A	21
141	専門科目	教職実践力	PPFA040E	教育実践の事例研究B	18
142	専門科目	教職実践力	PPFA050E	生徒指導実践演習A	18
143	専門科目	教職実践力	PPFA060E	生徒指導実践演習B	17
144	専門科目	教職実践力	PPFA070E	学級経営実践演習A	21
145	専門科目	教職実践力	PPFA080E	学級経営実践演習B	19
146	実習科目	教科実践高度化系	PZAA010P	教科教育課題設定フィールドワーク	23
147	実習科目	教職実践高度化系	PZAA050P	地域プロジェクトフィールドワーク	18
148	実習科目	教職実践高度化系	PZAA070P	基礎インターンシップ(子ども発達支援)	3★
149	実習科目	教職実践高度化系	PZAA080P	基礎インターンシップ(教員養成特別)	13
150	実習科目	教職実践高度化系	PZAA150P	特別支援・通級指導実習	4

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

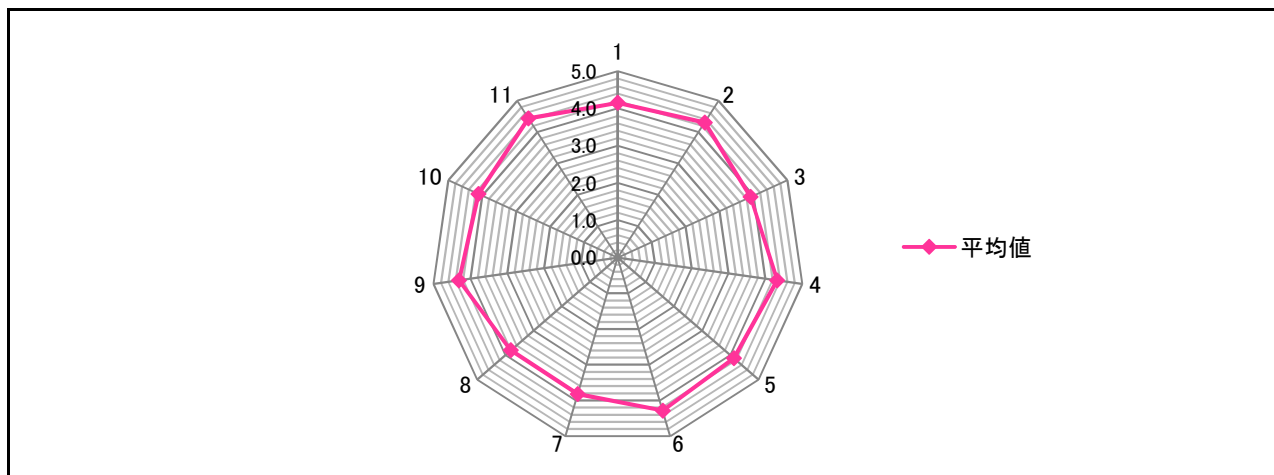
評価実施日 令和元年6月4日

授業科目名	カリキュラムマネジメントの理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 71名
担当教員名	山森直人, 速水多佳子, 湯地宏樹, 金児正史	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない, 無: 未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	22	40	7	2			4.2
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	32	30	8	1			4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	23	24	20	3	1		3.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	34	28	8		1		4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	25	33	11	1	1		4.1
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	32	28	10	1			4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	19	26	20	6			3.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	19	27	19	4	2		3.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	33	29	7	2			4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	25	32	11	3			4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	37	29	4	1			4.4
12								
13								



<分析>

項目10(自分にとって, 満足感を得られた授業であった。)の平均値が4.1であったことを考慮すると, 本授業は受講生にとって総合的な見地からは高評価を得たと判断することができる。とは言え, 項目3(授業の内容は, 分かりやすかった。)は3.9, 項目7(授業の進む速さは適切であった。)は3.8, 項目8(授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。)は3.8で, 平均値が4点を下り, 今後改善の余地がある点であると考えられる。学生の自由記述の意見からは項目3については「授業の構成」「教員間の授業内容のつながり」「用語の難しさ」等に関する問題, 項目7については「時間管理」「授業進度」等に関する問題, 項目8については「宿題の精選」「同じような時期に複数の宿題が重なる点」等に関する問題が挙げられていた。以上の意見をふまえて, 本授業の中心的なトピックである「カリキュラム・マネジメント」の今日的意味合いやその課題とともに, 受講学生(現職教員院生と学卒院生)のキャリアやニーズをふまえて, どのような内容を, どのような方法(宿題の出し方を含め)で提供すべきか, 検討する必要がある。もちろん, 学生の自由記述からは, 専門やキャリアの異なるの学生同士の意見交換・共有の機会, ICT機器の活用, 複数教員による多様な見解の提示などを高評価する意見も多くあり, 上記の課題の解決だけでなく, 本授業で高評価を得た点についても継続的・発展的に扱っていききたい。

本授業は, 大学院改組に伴い, 新しく開設された授業科目でもあり, また, 複数教員が担当することから教員間の授業内容の連続性や一貫性を担保するために, 担当教員全員が原則すべての授業に出席することを前提に授業が展開された。そのため, 授業担当者が互いの授業に参加することで, 教科や専門, 校種を超えた次元で「カリキュラム・マネジメント」について考える機会を得ることができた。

以上の学生によるアンケートの結果とともに, 本授業に参画した経験をもとに, 次年度の授業内容と方法を再構成したい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

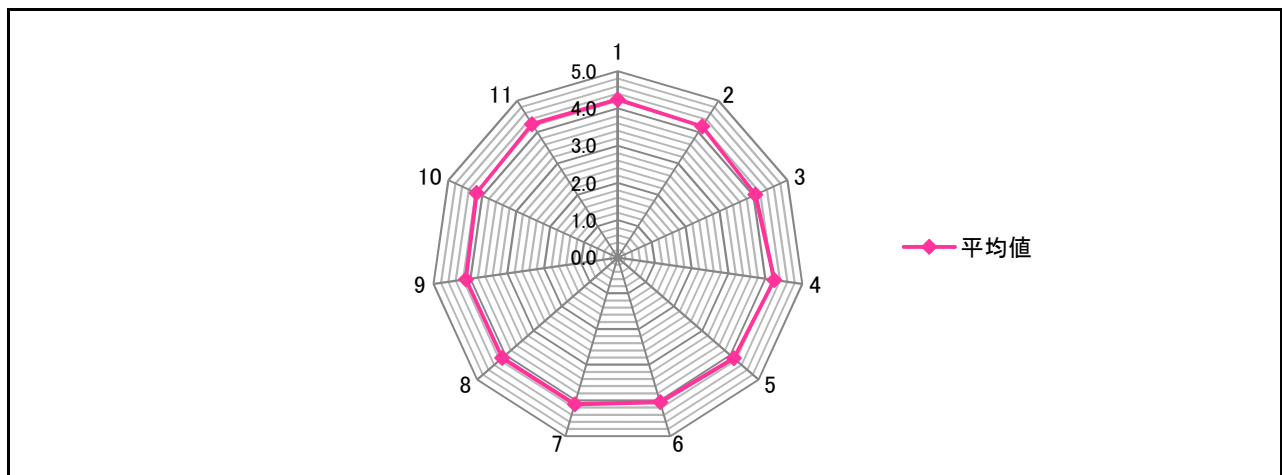
評価実施日 令和 元 年 8 月 6 日

授業科目名	教科カリキュラムの構成と理論	
授業区分	共通科目	回答者数 65名
担当教員名	幾田伸司, 伊藤直之, 秋田美代, 湯口雅史	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	28	28	7	1	1		4.2
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	22	34	8	1			4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	23	27	12	2	1		4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	31	21	11	2			4.2
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	29	20	12	3	1		4.1
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	21	27	16	1			4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	24	27	11	3			4.1
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	23	28	12	2			4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	32	9	1	1		4.1
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	25	28	10	2			4.2
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	29	25	10	1			4.3
12								
13								



<分析>

オムニバス形式で4教科の内容を扱いましたが、概ね肯定的に評価されたようです。コメントでも、専門外の教科の考え方に触れられたことを肯定的に受け止めているものが見られました。また、授業内で意見交流を持てたことについても、視野が広がるとして肯定的に評価されていました。

コメントの中で、課題が少し難しかったというものがありました。初年度でもあり、授業者の側も、院生の既有知識や背景についての想定、教科外の院生も含んで2時間で進められる授業内容や課題の質など、手探りで実施した面があることは否めません。予習用に提示する参考文献や本時内で示す資料等とも合わせて、次年度以降、見直していこうと考えています。



# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

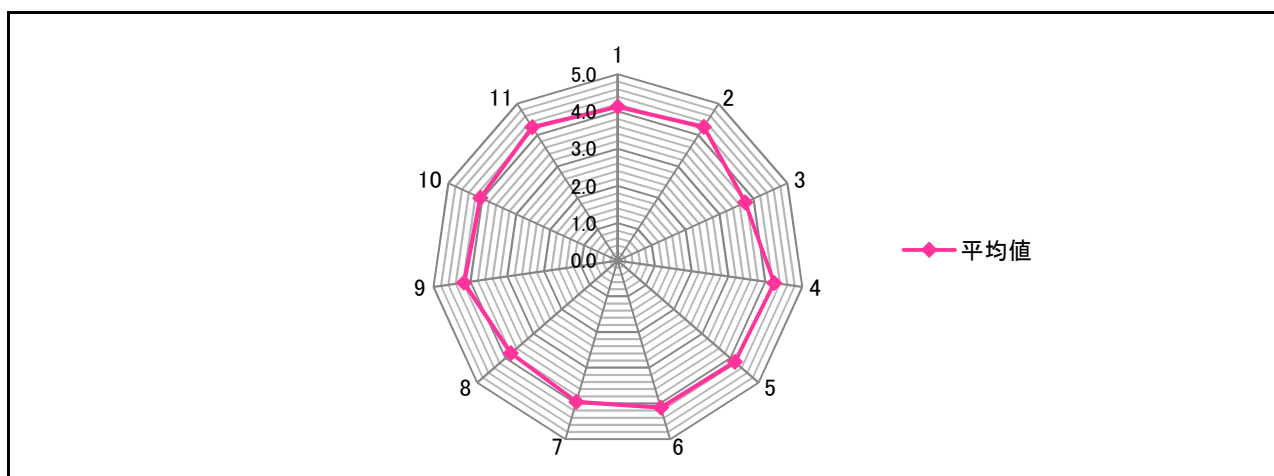
評価実施日 令和 元 年 6 月 25 日

授業科目名	授業の理論と実践				
授業区分	共通科目	回答者数	70名		
担当教員名	梅津正美, 早藤幸隆, 山木朝彦, 泰山 裕				

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない, 無: 未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	21	38	10	1			4.1
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	28	33	9				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	16	25	25	4			3.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	30	28	11	1			4.2
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	25	32	12	1			4.2
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	27	26	15	2			4.1
7	授業の進む速さは適切であった。	21	29	17	2	1		4.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	17	32	15	2	4		3.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	29	10	3			4.2
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	24	31	11	3	1		4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	31	27	11	1			4.3
12								
13								



### <分 析>

アンケート結果は、多くの項目で平均4.0点を超えており、本授業の目標はある程度達成されたものと考えられる。授業研究における理論と実践との関係、研究者と実践者の関わり方、子どもの認知過程に着目した授業設計論と実践例の検討等の内容が、教職大学院の院生のニーズに合致してその意義が認められたことにより、評価項目2・4・5が高い評価につながったものと思われる。しかし、項目3「授業内容は分かりやすかった」、項目8「授業で提示された資料、課題、レポートは適切であった」については相対的に低い評価であった。授業で扱う専門用語等の理解を院生に促す工夫をするとともに、授業運営に係る授業担当者間の連絡を一層密にして、院生に過度の負担感を与えない配慮が必要であると考えられる。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

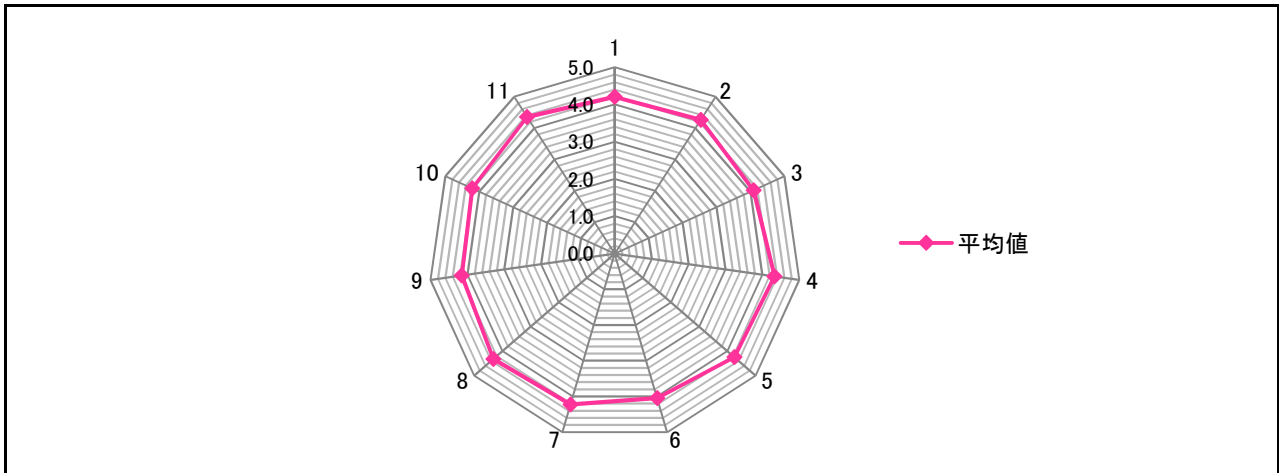
評価実施日 令和元年6月7日

授業科目名	教育評価の理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 72名
担当教員名	山田芳明, 皆川直凡, 佐伯昭彦, 井上奈穂	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	28	35	6	2	1		4.2
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	27	37	8				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	26	31	12	2	1		4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	36	27	7	1	1		4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	32	29	9	1	1		4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	23	32	14	3			4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	30	30	11		1		4.2
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	31	33	8				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	36	11	1			4.2
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	28	33	9	2			4.2
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	34	30	8				4.4
12								
13								



<分析>

アンケートには72が回答しており, マーク式回答項目 I の各問いへの回答の平均は, 最も低い項目で4.0, 最も高い項目で4.4であり, すべての項目で4ポイント以上であった。このことから, 受講者は本授業を概ね肯定的にとらえていると判断できる。中でも, 平均値が4.4と最も高かったのは(11)「この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。」であることは, 本授業での学びが, 授業内にとどまらず, 学び続ける教員としての資質を高めることにもつながっていると考えられる。

なお, 5つの項目で, 選択肢1が1つつあるが, これらはすべて同一の受講者による回答であった。その受講者の項目 II, III, IVの記述式回答には, IIは無回答であり, IIIに対して「よく分からなさすぎる。」、また, IVに対しては「分からんからどうもできません。」と回答されていた。これらのことから, 当該受講者にとっては, 本授業が難しく理解できなかったと判断せざるを得ない。

次に, 記述式回答項目 II, III, IVに対する上記学生を含む72名の回答内容について検討したい。まず, それぞれの項目にしたいて「特になし」や無回答を除く回答数は, IIが47に対して, IIIが18であり, 授業に対して改善を求める意見は少なかった。IIについては, 「専門的な理論を各教科の視点からとらえており, 自分の専門教科以外の見識がよくわかり・・・」「他教科の授業や評価について触れることができた。」といったように, 本授業構成の特性が評価されていた。IIIについては, 「難しかった」「内容が少し難しい」や「わからない人にわかっていることを正しく優しく伝える」ようにして欲しい」といった授業の内容だけではなく教え方について提案をいただいた。この点は改善を要するところだと考える。IVについては「自分なりに考えながら取り組めた」「自分の教科と比較して考えることができた」等, 受講者自身がしっかりと考えながら取り組めたことや, 「役立つ内容だから」「ら専門的な内容を学ぶことができた」等, 内容が受講生の意欲を高めるものであったことがわかった。ただ, やはり「難しい内容だったから」という意見等, 否定的な意見もあるので今後さらに分かりやすい授業を目指さねばならない。なお, 本授業は, 学卒学生と現職教員が受講しているが, アンケートにその別を記載する項目がないため推測の域を出ないが, 本授業が評価を行った経験のある現職教員に焦点が当たってしまい, 学卒学生にとって難しい内容となっていないかを検討する必要性があるかもしれない。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

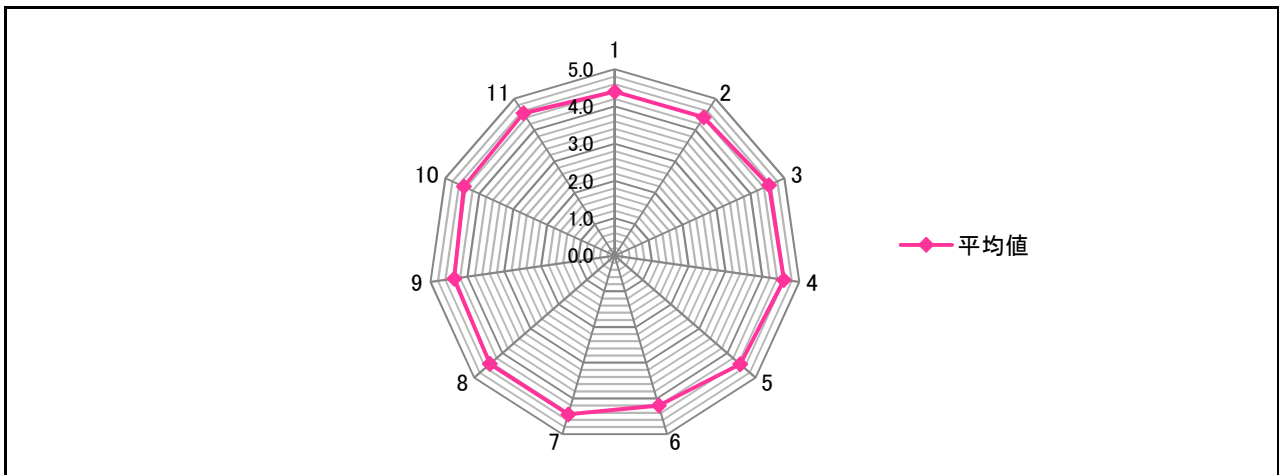
評価実施日 令和元年6月10日

授業科目名	生徒指導の理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 70名
担当教員名	阿形恒秀, 池田誠喜	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	34	30	6				4.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	36	27	7				4.4
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	41	25	3			1	4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	47	17	6				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	39	22	8			1	4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	27	31	11	1			4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	36	30	3	1			4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	38	25	7				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	33	6				4.4
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	40	23	6	1			4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	42	24	4				4.5
12								
13								



<分析>

大学院の改編により, 今年度から教科系の院生も受講するようになったが, 5件法の評価の11項目の平均値は4.4となっており, 昨年までと同じように, 院生は概ね本授業を肯定的に評価していると考えられる。

自由記述からは,

- ・理論的な部分と, 現場の実践的な部分の両方が含まれていた。
- ・実践に役立つ興味深い話が多かった。
- ・具体的なエピソードやビデオ等がたいへん参考になった。
- ・現場に戻ったら実践したいことが多くあった。

などの回答から, 生徒理解を深め, 学校現場の実践につながる実践的な授業内容であると院生が評価していることが伺える。また,

- ・グループでの活動の際にしっかりと話すことができた。
- ・話し合う場面, 考える場面, アイスブレイキング等, 単調にならない楽しい授業だった。
- ・ワークの際に周りの院生と協力して取り組めた。

などの回答から, アクティブ・ラーニングを取り入れた授業方法を院生が評価していることが伺える。

さらに,

- ・もっとたっぷり時間が欲しい。
- ・もっと深く学びたいと思った。

などの意見から, 生徒指導の諸課題に対する院生の学習・研究意欲が高いことが伺える。1単位の授業という制約がある中で精選してどのような授業内容を構成すれば院生のニーズにより合致するのかを, 引き続き検討していきたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

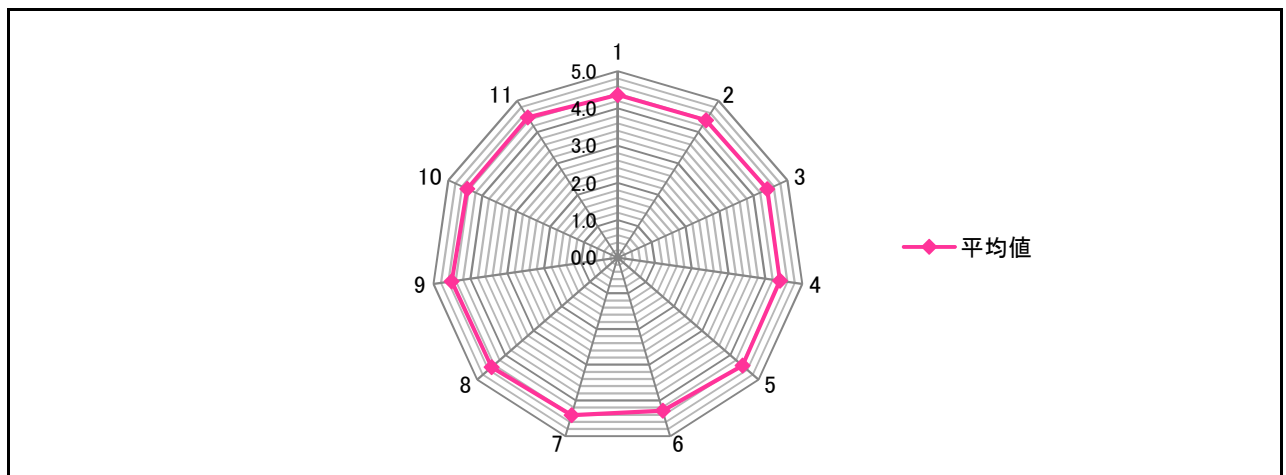
評価実施日 令和元年8月5日

授業科目名	教育相談の理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 63名
担当教員名	小坂浩嗣, 末内佳代	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	29	28	6				4.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	30	27	6				4.4
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	34	21	8				4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	32	25	5	1			4.4
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	32	26	5				4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	29	24	9	1			4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	34	22	6	1			4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	38	18	7				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	36	23	4				4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	34	23	6				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	35	23	5				4.5
12								
13								



<分析>

回答を求めた11項目全体の平均は4.4であった。カテゴリー別では、<シラバスの内容について> 1項目は4.4, <授業の内容について> 4項目は4.4, <教員の授業の進め方について> 3項目は4.4, <授業に対する姿勢について> 1項目は4.5, <授業に対する意義について> 2項目は4.4であった。すべての分析項目において4.4以上の結果を得たことから、総合的に高い評価を得たと考えられる。

全体ならびに項目別の全11項目に4.3以上の高い評価を得た。これは、従来に実践してきた①授業計画を綿密に立て授業者間で内容の摺り合わせをして授業に臨んだこと, ②前半の理論や原理を主にした内容と後半の絵本の紹介や心理・相談室の説明などによる実践的内容との組み合わせによる展開に加え, 紹介事例などを更新して最新の情報を提示したことが評価に繋がったと考える。課題としては, 授業後半には, 教採試験があるため学卒院生へ配慮する必要性が挙げられる。この課題とともに, これまで以上により良い授業を追求していく姿勢と受講生のニーズを聴く謙虚な姿勢をもって, 来年度も授業改善に取り組んでいきたいと考える。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

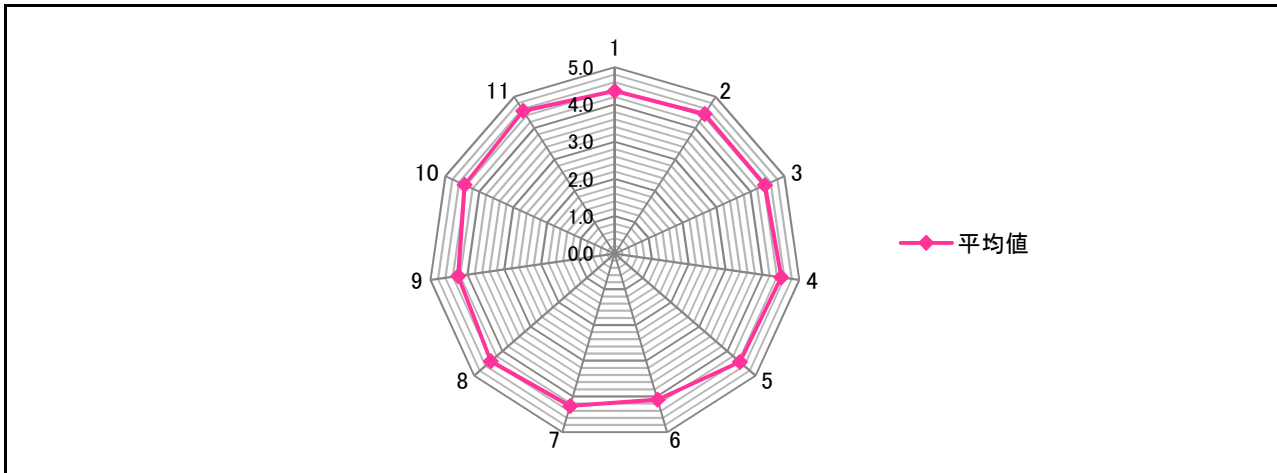
評価実施日 令和元年6月5日

授業科目名	学級経営の理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 68名
担当教員名	久我直人, 阪根健二, 池田誠喜	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	31	32	4	1			4.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	39	22	6	1			4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	35	28	4	1			4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	40	23	5				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	38	22	8				4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	26	24	16	2			4.1
7	授業の進む速さは適切であった。	32	24	10	2			4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	37	23	7	1			4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	28	7	3			4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	37	25	5	1			4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	44	18	6				4.6
12								
13								



<分析>

全ての項目で非常に高い評価を得ることができた(11項目の平均4.4)。  
 その理由として、授業内容において、今日的な教育課題に対応した理論と実践事例を系統的に配置したことが挙げられる。特に、実践事例を多く取り上げると共に、事例に内包される教育理論を明示し、実践を理論的に読み解く思考を促したことが、受講者の理解と納得につながったと考える。また、プレゼンテーション資料を活用し、事例と理論を可視化したことも「わかりやすさ」という点において高い評価につながったと考える。  
 また、授業方法において、事例に対する個々の考えや疑問を問いかけ、応答的なやりとりの場を意図的に設定することにより受講者の能動性を引き出した。また、毎回の授業後に、授業評価(受講者の感想、疑問、改善要望)をとり、受講者のニーズに応えながら授業を展開したことも、高評価につながったと分析する。  
 項目「11」の評価は、4.6という非常に高い評価が得られた。  
 その理由として、授業評価の自由記述、毎時間の授業感想等の記述内容より、次の点を指摘できる。  
 1つ目は、学級経営にかかる実践事例に基づく授業を展開し、理論的な枠組みで再整理したことによって、受講者自身の実践についての省察を促す機会となったこと。そのことで受講者自身のこれまでの実践を再整理することができたのではないかと推察する。  
 2つ目には、実践事例に内在する教育的価値を理論的に明示することによって、現在、学校が抱える課題に、直接的に役に立つ内容であったこと。  
 3つ目には、今日的な教育課題を象徴する事例を取り上げ、その課題を生み出した要因要素を構造的に明示したことが挙げられる。  
 また、受講者からの要望として、プレゼン資料をすべてハンドアウトできるようにしてもらいたい、という声が複数あった。今後、資料の提供の仕方等についても検討したい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

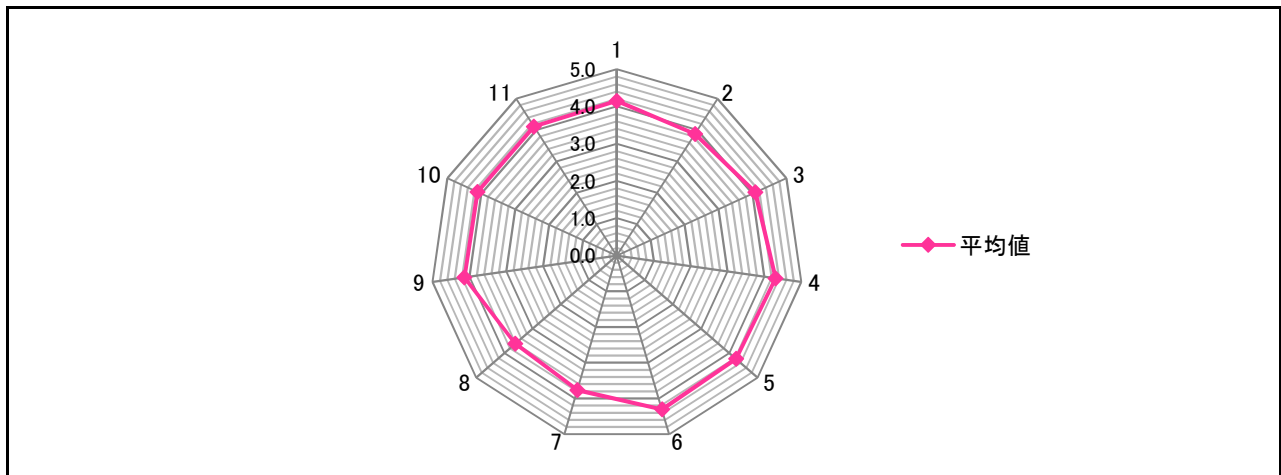
評価実施日 令和元年7月31日

授業科目名	学校組織マネジメントの理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 59名
担当教員名	久我直人, 芝山明義, 大林正史	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	18	35	4	1	1		4.2
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	12	31	14	1	1		3.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	18	31	8	1	1		4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	27	27	2	2	1		4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	25	26	6	1	1		4.2
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	26	27	5		1		4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	16	21	16	4	2		3.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	12	24	15	4	4		3.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	21	27	10		1		4.1
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	21	28	8		2		4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	21	28	8		2		4.1
12								
13								



<分析>

全ての項目で一定の評価を得ることができた(11項目中8項目で4.0以上であった)。その理由として、授業内容において、今日的な教育課題に対応した理論と実践事例を系統的に配置したことが挙げられる。特に、学校組織マネジメントにかかる実践事例を多く取り上げると共に、事例に内包される教育理論を可視化し、組織化しにくい学校の組織化のメカニズムを理論的に組み上げる思考を促したことが、受講者の理解と納得につながったと考える。さらに、学校ビジョンの形成等、具体的なマネジメントの作業課題を通して、学校を俯瞰することが受講者の学びにつながったと考える。

また、授業方法において、事例に対する受講者の質問に答える等、応答的なやりとりの中で授業を展開したことや、具体的な作業課題について、グループワークを通して、院生同士の交流の場を設定したことも、受講者の能動性を引き出し、評価につながったと分析する。

3人の授業者が、それぞれの視点で学校組織特性や学校の組織化の在り方、学校文化の醸成の仕方等にかかる知見を提供することにより、共通科目としての幅広い学びの提供を試みた。そのことによって、多面的に学べた、という感想が得られたが、つながりが持ちにくいという意見もあった。

なお、要望として多く挙げられたのが、演習(グループワーク)にかかる時間配分(授業時間以外でのグループワークの設定等)について、授業内で完結するような設計を求める意見が複数寄せられた(ストレート院生の教採準備への配慮についての求めもあり)。

今後、授業展開にかかる時間配分等について再検討し、次年度の授業設計に生かしたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

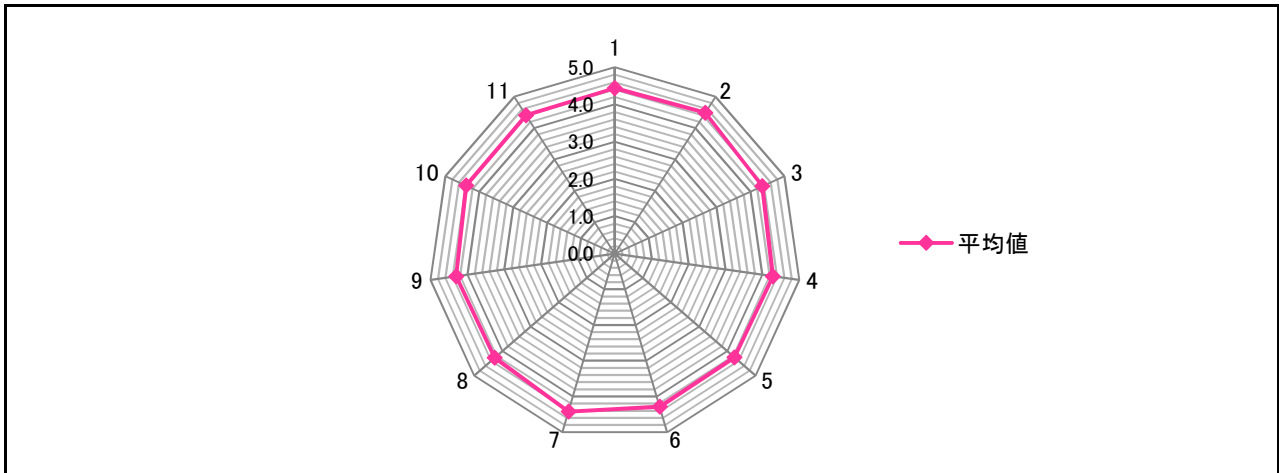
評価実施日 令和元年6月7日

授業科目名	今日的な教育課題とその対応 I	
授業区分	共通科目	回答者数 59名
担当教員名	塩路晶子, 浜崎隆司, 田村隆宏, 湯地宏樹, 木村直子	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	29	27	3				4.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	32	24	3				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	27	27	4	1			4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	26	24	9				4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	25	24	10				4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	27	24	6	2			4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	29	26	4				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	24	28	6	1			4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	31	5				4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	31	20	8				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	32	19	8				4.4
12								
13								



<分析>

本授業は、幼年期を中心とした子どもの発達をふまえて、今日的な教育課題について説明し、その対応を取り上げるものである。必修科目ということもあり、各教員が専門知識を分かりやすく概説し、多様な受講生の学びにつながったと評価された。ビデオ教材やブックレット教材を用いたことも高く評価された。アクティブ・ラーニングとしてディスカッション等を行ったが、自由記述にも、興味を持って参加し、他の受講生の意見を聞いて、自分の考えを広げたりすることができ、主体的に取り組んだ旨の記載がある。

今後の課題としては、多くの講義内容を8回の講義の中で、さらに効率よく提示するための工夫が必要と考える。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

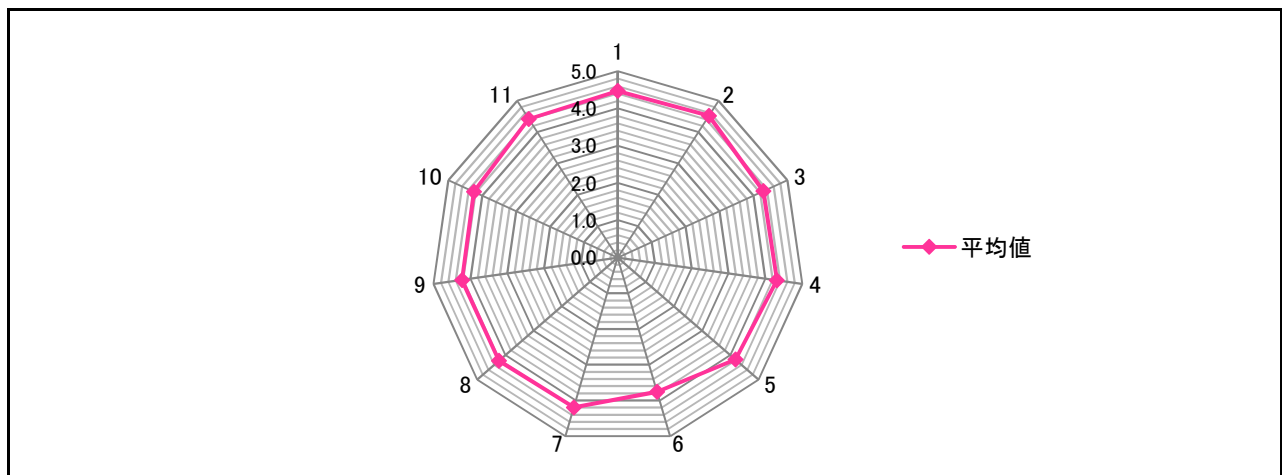
評価実施日 令和元年8月1日

授業科目名	今日的な教育課題とその対応Ⅱ	
授業区分	共通科目	回答者数 57名
担当教員名	伊藤弘道, 大谷博俊, 井上とも子, 高原光恵, 小倉正義, 栗飯原良造	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	30	25	1	1			4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	33	21	3				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	28	19	9	1			4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	33	13	7	4			4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	25	22	5	5			4.2
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	14	18	22	3			3.8
7	授業の進む速さは適切であった。	20	29	7	1			4.2
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	25	22	8	2			4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	21	28	8				4.2
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	27	21	6	2	1		4.2
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	35	12	9	1			4.4
12								
13								



<分析>

アンケート[I]の結果であるが、平均値として4点台の項目が多く、概ね問題ない授業内容であったと考えられた。以下アンケート項目[Ⅱ]以降の自由記載欄の結果について述べる。授業に関して良かった点として、特別支援教育に関して、教育学・心理学・医学と多領域の観点から総合的に学べたことがあげられ、改善要望としては、授業内容・課題レポート内容の教員間での重なりを認めることがあげられていた。また、授業内容については事例紹介など、より現場に即した実践的なものを希望する意見が一部認められた。ただ、多くの院生のアンケート結果の自由記載欄は白紙であり、上記内容は一部の意見であることに留意が必要である。今回の結果を参考に今後の授業改善に日々努めていきたい。



# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

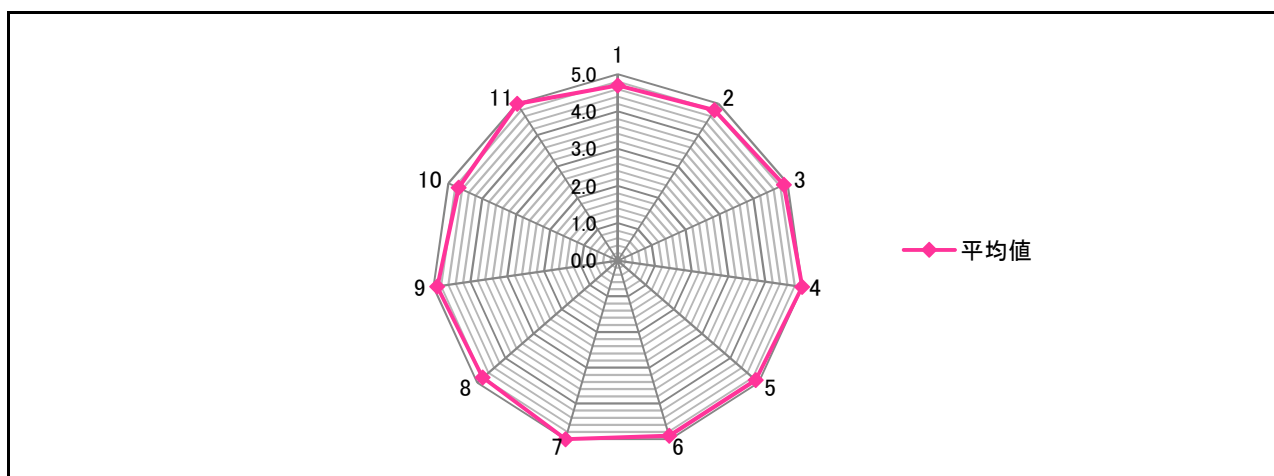
評価実施日 令和 元 年 6 月 10 日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習 I (国語)				
授業区分	共通科目	回答者数	10 名		
担当教員名	幾田伸司, 小島明子, 原 卓志, 村井万里子, 余郷裕次, 黒田俊太郎				

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない, 無: 未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	3					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	2					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	9	1					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	10						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	1					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	10						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	8	2					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7	3					4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10						5.0
12								
13								



### <分 析>

概ね高い評価を得られたと思います。実習科目を視野に入れて、現職教員の院生に指導してもらいながら、学卒院生が授業づくりに取り組むという内容で進めましたので、専門性(4)、主体性(9)、今後への意識づけ(11)など、自身の取り組み方に対する自己評価が高かったのはよかったですと思います。

授業づくりを中心にしたので、受講生の達成感があったようですが、こうすればよかったという反省もたくさん残ったようで、その点が満足度を少し下げたようです。ですが、こうした不満足感は、授業者の側から見れば前向きな姿勢として肯定的に受け止めたいと考えています。なお、シラバスについては、来年度以降より分かりやすくなるように修正する予定です。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

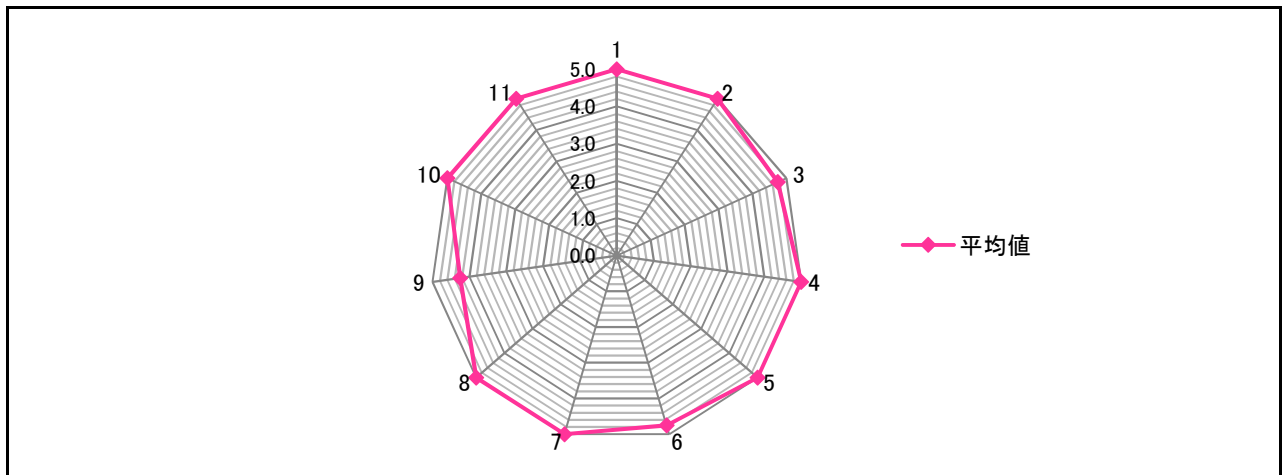
評価実施日 令和元年6月6日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習 I (英語)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	山森直人, 太田直也, 戴下克彦, 佐藤美智子, 畑江美佳, ジェラード マーシェソ, 眞野美穂, 喜多容子		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3					4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



<分析>

全体的に平均値が高かったことから, 本授業は受講生にとって好評だったと考える。特に自由記述からは, よかった点として, 異校種の学習指導要領を理解したり授業映像を視聴したりしたこと, 英語の発音について学べたこと, 複数の担当教員から専門分野の話を聞くことができたこと, が挙げられていた。また, 改善点としては, このような授業がもっとあればよいとの意見があった。今年度より新しく開講された授業科目であり, 英語科教育実践分野の学生について理解を深めるべく, 同分野の教員全員が原則毎回授業に参加した。今年度は履修者全員が現職教員院生であったが, 次年度より学卒院生も履修するため, 今回のアンケート結果と授業経験をもとにさらに授業内容・方法を発展させたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

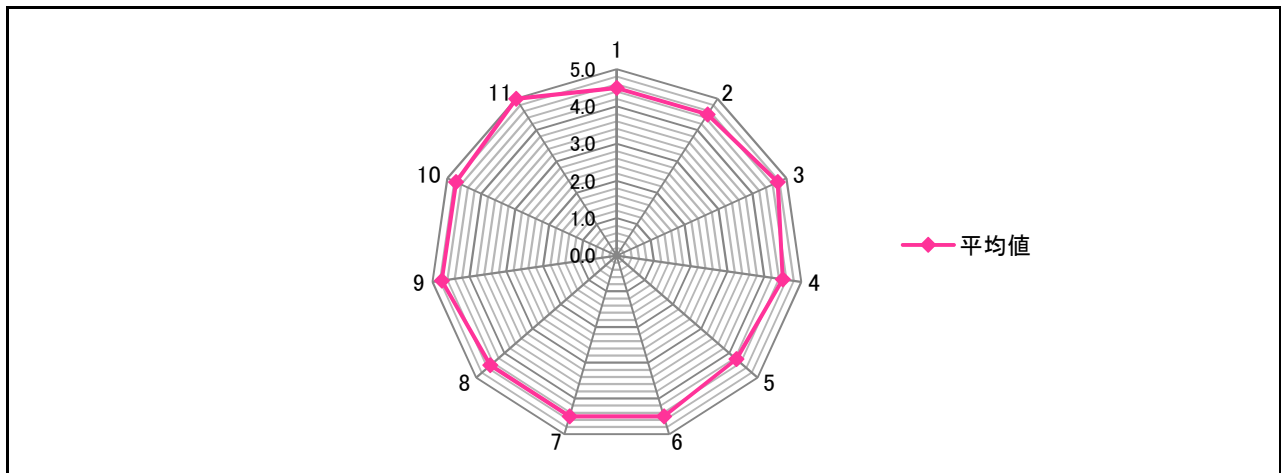
評価実施日 令和元年6月17日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習 I (社会)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	青葉暢子, 梅津正美, 立岡裕士, 原田昌博, 麻生多聞, 伊藤直之, 井上奈穂, 畠山輝雄, 町田 哲		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	2					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	2					4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	1	1				4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	2					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



<分析>

授業評価の平均は最低が4.3であり授業の内容は概ね適切であった。なかでも、質問11の「もっと学びを広げたり深めたりした」は全員が5「そう思う」と答えており、学生の知的好奇心を満足させる内容だったと評価できる。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

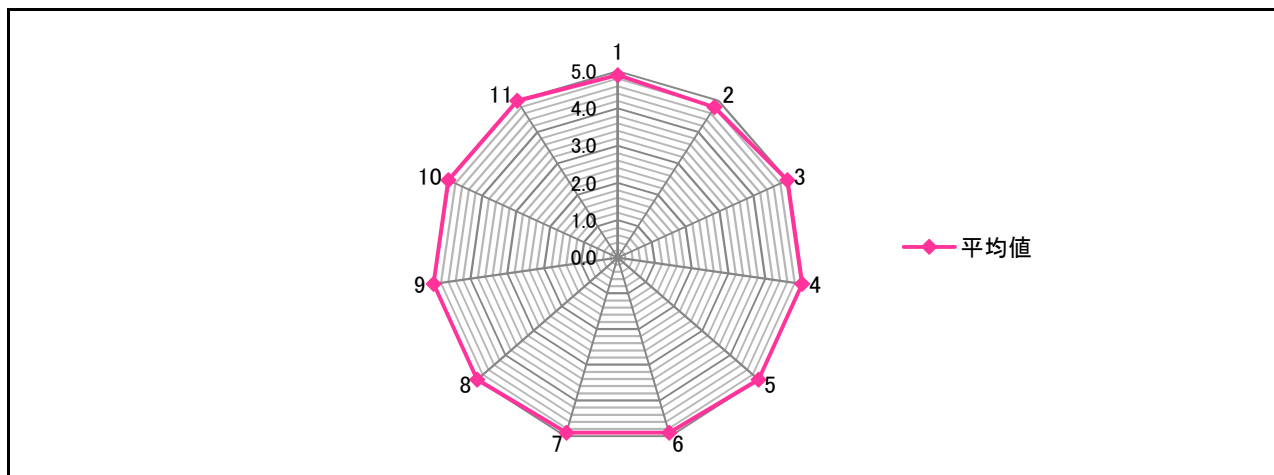
評価実施日 令和 2 年 2 月 14 日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(国語)				
授業区分	共通科目	回答者数	10名		
担当教員名	村井万里子, 小島明子, 原卓志, 余郷裕次, 幾田伸司, 黒田俊太郎				

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	1					4.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9		1				4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	10						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	10						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	1					4.9
7	授業の進む速度は適切であった。	9	1					4.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	10						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9					1	5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9					1	5.0
12								
13								



### <分析>

初めての授業であったが, 満足度は高かったことが数値からはうかがえる。自由記述に書かれたものとしては, 以下のとおりである。

#### <少人数での指導>

- 専門的な内容をしっかり話し合えて教えていただいた。
- 一人一人が発言できる機会が設けられていたので, 話し合うことが自然にできるようになった。
- 少人数のため, とても丁寧にご指導いただくことができた。
- 先生のご助言やお話から, 自分の現状を改めてしることができたため, 学びの多い時間であった。
- いろんな議論とそれに対する極めて適切な投げかけ, 助言によって言い尽くせないほど多くの学びが得られました。
- 自分の中の国語や, 発問について向き合うことができた。
- 個別にとても丁寧に指導していただけたところがとても良かった。
- 質問がしやすく, 自分の研究テーマについて深く考えることができた。
- 絵本についての知識がついた。
- よく, 発表することができた。

○あまり発言できませんでしたが, 考え積極的に取り組めた。いろんな

#### <主題・専門の深化, 実習及び最終報告書への関連, 要望>

- 治部の課題を見つけることができ, 少しずつだが前に進めている気がする。毎回新しい発見でいっぱいです。
- 4月以降の置籍校での実習・研究に生かすため, 真剣に取り組んだ。
- 最終成果報告書に向けて, 課題や実習で行いたいことについて考えることができた。
- 先行研究を調べることで, テーマについて深く考えることができた。
- ゼミでの学習が中心だったので, 何回かゼミどうしの交流をもたせてもらえれば, さらに視野が広がったかもしれないと思う。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

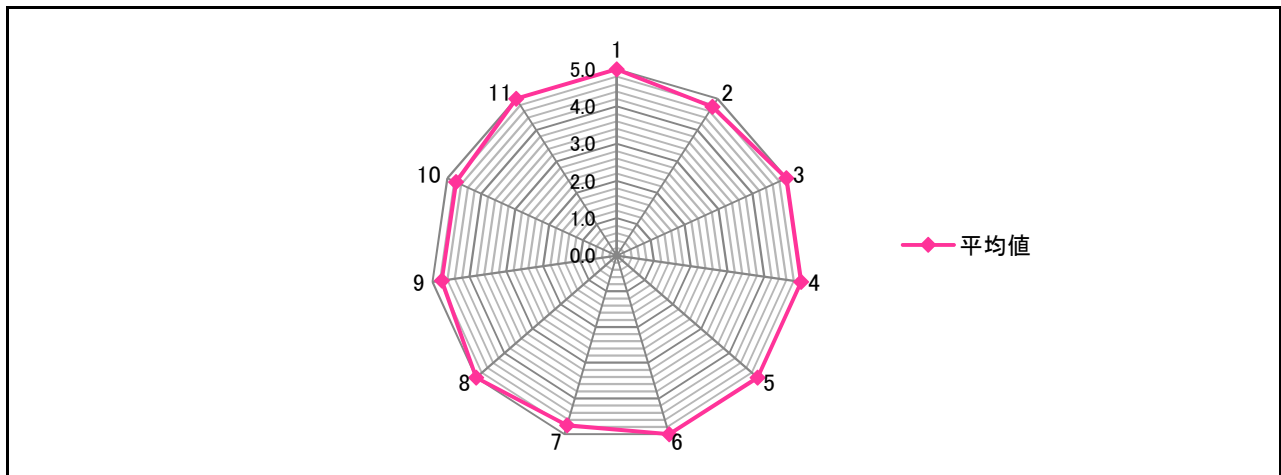
評価実施日 令和 2 年 2 月 27 日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(英語)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	山森直人, 太田直也, 戴下克彦, 佐藤美智子, 畑江美佳, ジェラード・マーシェロ, 眞野美穂, 喜多容子		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



<分析>

全体的に4.5や5.0という高い数値を得ていることから, 本授業の内容や方法等は受講生より高評価を得たと判断できる。自由記述からは, よかった点として, 教育実習の研究課題や計画について, 複数教員からコメントがもらえたこと, 研究課題が明確になったことなどが挙げられている。また, 改善点としては, 本授業の時期についてが挙げられ, 後期後半は学部授業(特に英語の教員免許の取得にか関わる授業)の試験期間と重なったため, 研究課題や計画に関わる検討や発表の時期について配慮する必要がある。今回の受講者は現職大学院生のみで, 次年度は学卒大学院生も加わるため, 授業の内容や方法についても, 学生のニーズをふまえて改め検討する必要があると考える。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

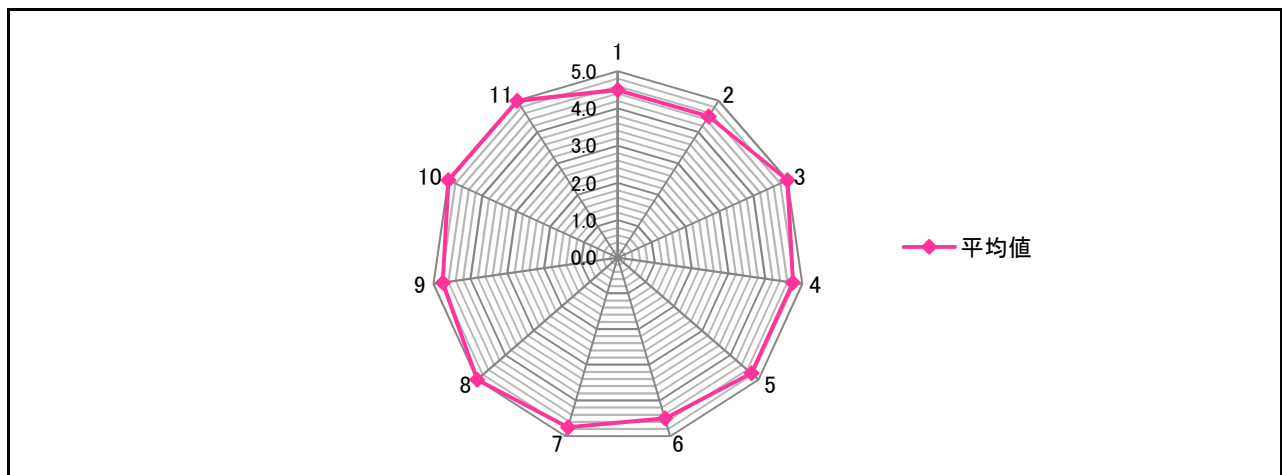
評価実施日 令和 2 年 2 月 27 日

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(社会)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	原田昌博, 青葉暢子, 梅津正美, 立岡裕士, 麻生多聞, 伊藤直之, 井上奈穂, 畠山輝雄, 町田 哲		

## 1 アンケート[Ⅰ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	2					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	2					4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



### <分 析>

本授業は、社会科教育実践分野の教員がそれぞれの専門性を生かしつつ、指導学生を中心に受講生に教科教育を実践するための基礎的・専門的な知識や方法を修得させることを目的としている。今年度は受講生が4名であった。全体的に見て、各質問項目ともほとんどが「5」と評価しており、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。質問10で全員が「5」と評価している点からも、受講生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。受講生のアンケートでは、「自分自身の理解度を把握しながら受けることができた」、「少人数による授業だったので、授業の分析など有意義だった」など好意的な評価がみられた。来年度はさらに内容の精選を図り、受講生の授業実践に資する授業を目指したい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

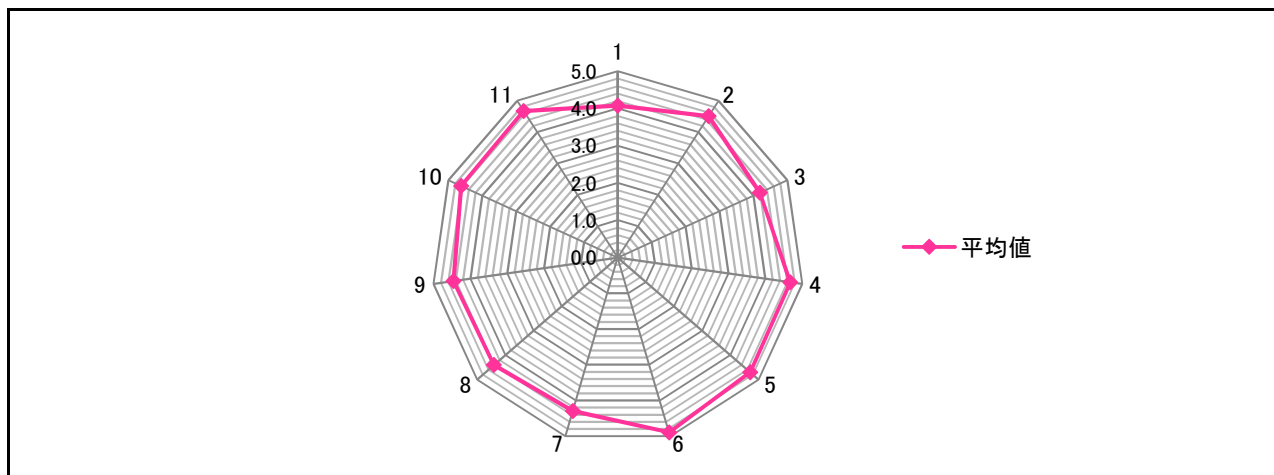
評価実施日 令和元年11月22日

授業科目名	チーム総合演習(教育課題解決のためのプランニング)	
授業区分	共通科目	回答者数 37名
担当教員名	金児正史 他, 教職実践高度化系教員17名	

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	15	14	5	2	1		4.1
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	23	11	2	1			4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	13	19	2	2		1	4.2
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	25	12					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	26	11					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	33	4					4.9
7	授業の進む速度は適切であった。	20	10	5	2			4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	22	9	5	1			4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	25	7	3	1	1		4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	27	7	2	1			4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	26	10	1				4.7
12								
13								



## <分析>

今年度新たに教科系および教職系の教職大学院に在籍する現職教員院生が共に学ぶ授業として, チーム総合演習が開講された。授業で学生がどのように感じていたのかが気になる所だったが, 11項目のそれぞれの平均値を見ると, 4.1から4.9となっており, 学生による授業評価は高い。シラバスに沿って教師の専門性を高めるアクティブラーニングが実施されていたと考える。

しかし, 8項目で評価の数値の散らばりが大きい。特にこれらの8項目においては評定2や1をつけた学生がいることについては注意を払う必要がある。

学生のアンケート自由記述を見ると, 以下のようなコメントが多い。高い評価をされた部分は維持しつつも, 講義の構成にあたっての改善点も明確にコメントしてくれている学生もいる。来年度に向けた大切な指針を手に入れられたと考えている。

### <ポジティブな意見>

- ・チームになって様々な視点から, 学びを捉えることができた。
- ・課題そのものが, 主体的, 積極的に取り組むものに設定されていた。
- ・勉強になる内容だった。 ・チームとは何かを学んだ。 ・積極的に地域に出て, いろんな交流ができた。
- ・人の話を聞くことの大切さを改めて実感できた。 ・学校をつくるというテーマにたくさんの学びがあった。
- ・互いに認め合うことの大切さを身につけることができた。 ・議論する中でチームの文化ができていった。
- ・異校種実習の多岐にわたるダイナミックな授業だった。

### <ネガティブな意見>

- ・自分のしたいこと, 出来ることを見つけられずに苦しい時間だった。 ・班のメンバー構成人数が多すぎた。
- ・負担が大きい講義だった。 ・自分の専門の講義の課題や研究に費やすための時間を削ることになったのが残念だった。
- ・教職系と教科系の人では, 学ぶ目的が違うのではないかと感じた。 ・期間が長い。 ・省察カードが大変だった。
- ・授業目標は欲しかった。 ・発表時に参考文献を載せることや理論に基づいていくことをはじめに伝えてほしかった。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

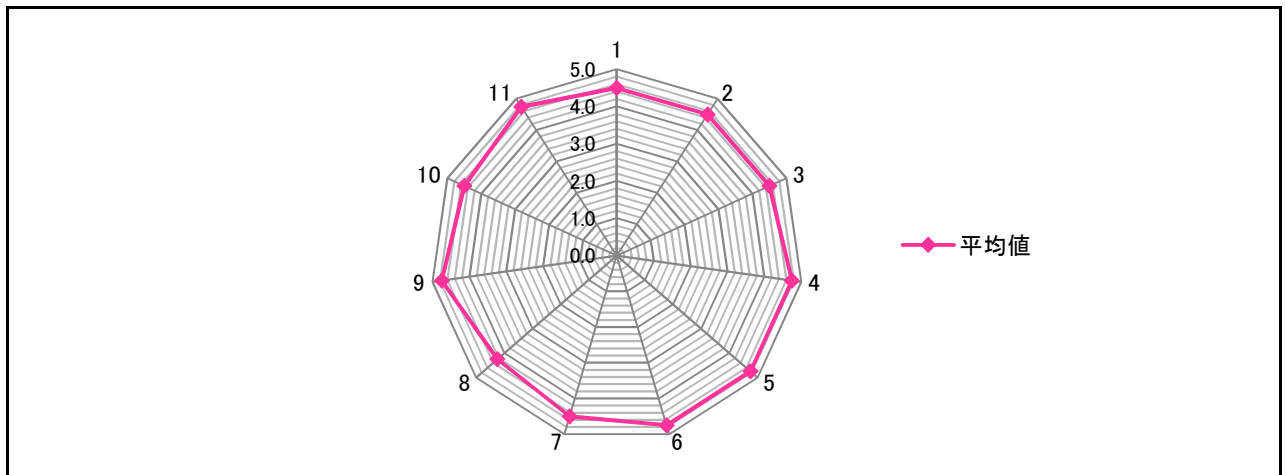
評価実施日 令和元年6月4日

授業科目名	教職協働実践演習 I (特別支援)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	井上とも子, 大谷博俊, 伊藤弘道, 高原光恵, 尾関美和		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	2					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	2					4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	2					4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	3		1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	3					4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	2					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8
12								
13								



<分析>

アンケート[I]の結果から、全ての項目の平均値は4点台であり、概ね満足が得られた授業であったと解釈できる。項目7の授業の進む早さについて「3」があり、これだけでは、早すぎるのか、遅いと感じているのかが定かではない。しかし、来年度授業を進めるに当たっては、学生の反応をとらえながら確認しながら進めるように気をつけていきたい。アンケート[II]の自由記載欄の結果からは、演習の中で、積極的に協議できたことや話し合う中で得られたものの大きさについて述べられおり、個々の取り組み関しても満足している事が読み取れた。何より、アンケートIの項目4、評価平均値4.8にもあるように、また、自由記述でも書かれているように、特別支援教育に関する専門性を高めることができた授業であったことは、喜ばしい。今後も自ら、能動的に調べる、考える、意見を出す、再度調べる、まとめる等の過程を通して、自ら学んでいく主体的学びを身につけていってほしい。今回の結果を参考に今後の授業改善に日々努めていきたい。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

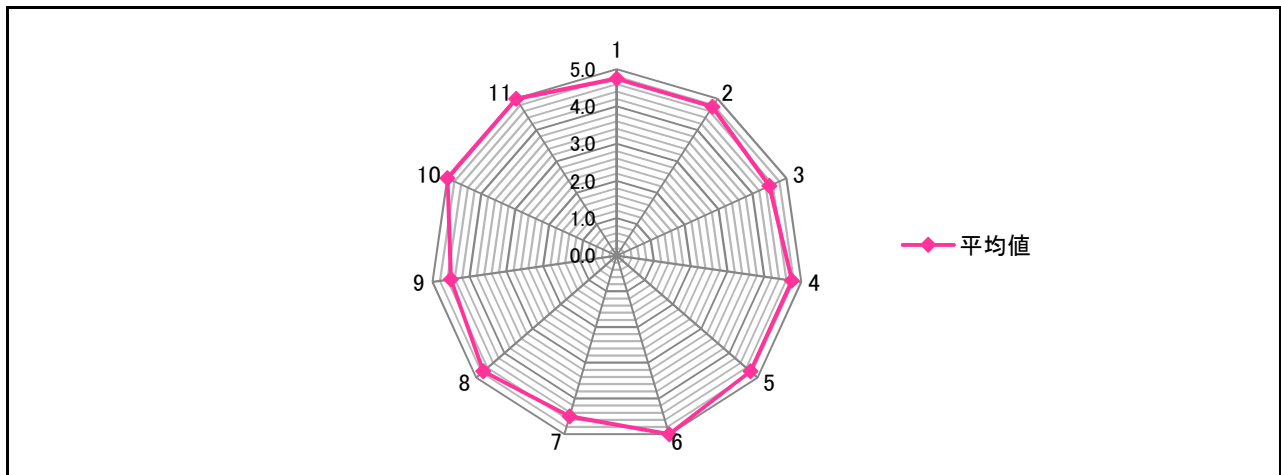
評価実施日 令和 元 年 6 月 10 日

授業科目名	教職協働力実践演習 I (幼年関連3分野)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	塩路晶子, 田村隆宏, 浜崎隆司, 湯地宏樹, 木村直子		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	2					4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



<分析>

本授業は、教職協働力を育成することを目的としており、学卒学生が中心となり、現職院生と協働して保育実践に参加観察し、子ども理解を深めたり、教材研究を行ったりして、指導案の作成に取り組んだ。現職院生は、学卒学生とのかかわりからリーダーシップを、学卒学生は現職院生とのかかわりからフォロアーシップを修得することを到達目標としていたが、自由記述の中でも、異なる立場の院生同士のディスカッションを通して自らの課題が明らかになったり、現職院生から保育の知識・技術についての学びがあったとの記載があり、おおむね達成されたといえよう。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

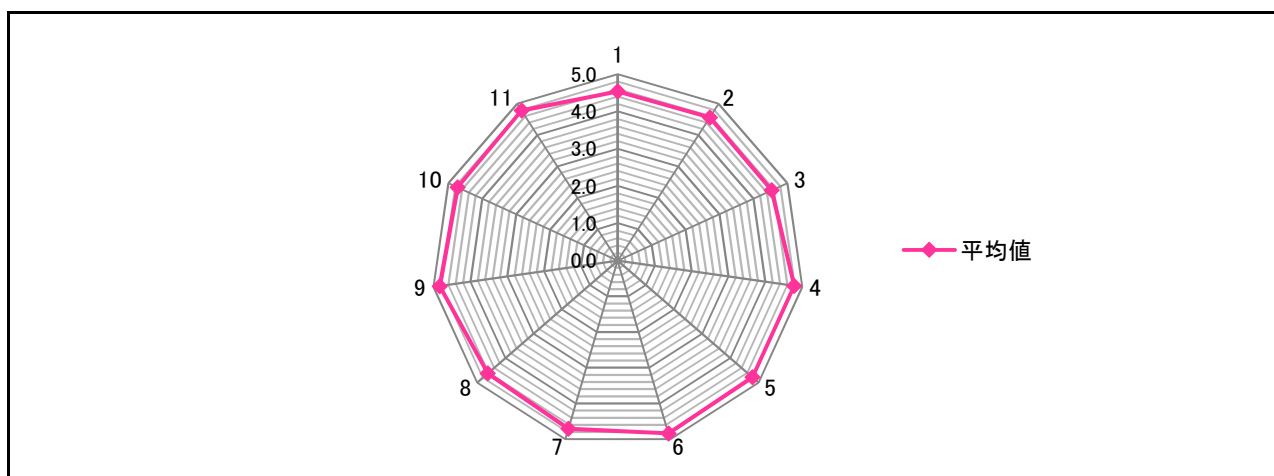
評価実施日 令和元年6月10日

授業科目名	教職協働実践演習 I (教職系・子ども発達除く)	
授業区分	共通科目	回答者数 37名
担当教員名	中妻佳代 他, 教職実践高度化系教員23名	

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	23	11	3				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	24	10	3				4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	25	7	5				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	33	1	2	1			4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	33	1	2	1			4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	33	2	2				4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	29	5	3				4.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	28	4	5				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	32	2	2			1	4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	29	6	2				4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	32	2	3				4.8
12								
13								



## <分析>

本講義では, 授業づくりとその振り返りを通して, 受講生である学卒院生には「授業設計, 授業実践, 振り返り等に関する基礎的な能力を培うとともに, 授業実践の成果と課題を明確にできること」, 現職院生には「学卒院生の授業づくりを支援することを通して, 若手教員の力量向上を支援する力を形成すること」をねらいとしている。総括すると, 全ての質問項目において平均値が4.5以上となっており, 概ね目標は達成されていると考えられる。

特に, 項目「授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった」「授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった」「授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」「この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい」の平均値は4.8と高いものであった。自由記述からは「模擬授業をしたり見たりするというので, 自ら調べたり協働的に課題に取り組んだりした」「現職の先生方と検討しながら授業づくりを深めた。とても考え, たくさん教えていただいた」「学卒院生の視点でのアイデアや工夫, 支援の仕方が学べて参考になった」「授業だけでなく, 空いている時間にも話し合いを行った」「どうしたら学卒院生が授業についてのポイントが理解できるか等, 一つの授業をよりよくするために, 同じ目標に向かってチームで頑張ることができた」等の意見が多数見られた。今後も今講義での学びを活かし, 受講生がそれぞれの立場で, 主体的・意欲的に授業設計・授業実践に取り組めるものと期待する。

一方, 「シラバスで示された授業の趣旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった」「授業の内容は, 分かりやすかった」の項目の平均値は4.5であった。自由記述からは「現職院生の役割がもっと明確になるとありがたい」「時間の取り方がグループによって少し違っていたようだった」「改善した授業を行う時間があるともっといい」といった意見もあった。また, 平均値の高い項目においても低い評価をつけた院生がいる。これらの点について, 今後も検討・改善を行い, よりよい講義となるようにしていきたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

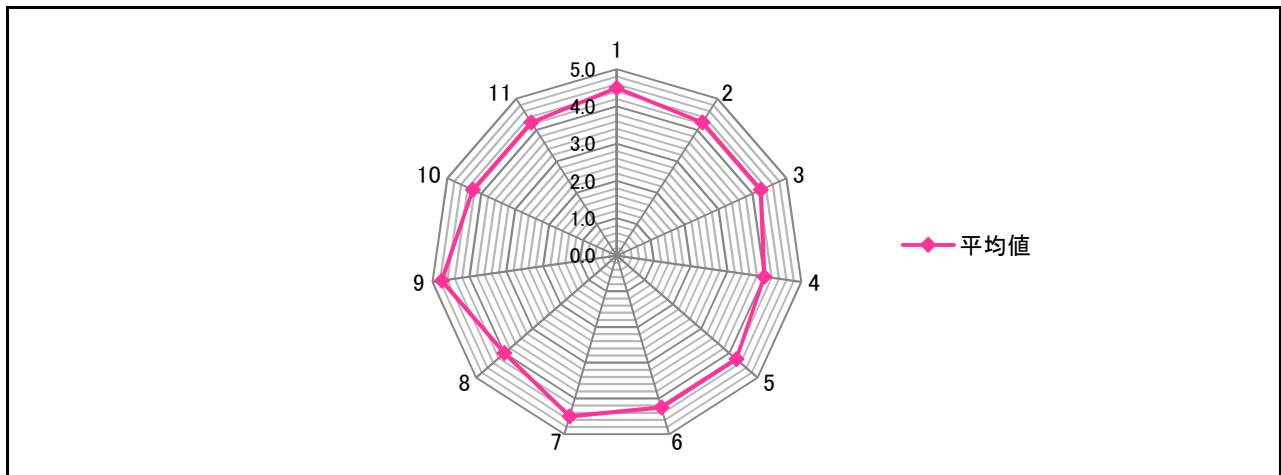
評価実施日 令和 2 年 2 月 18 日

授業科目名	教職協働力実践演習Ⅱ(特別支援)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	大谷博俊, 伊藤弘道, 高原光恵, 井上とも子, 尾関美和		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	2					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	1	1				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	1	1				4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	1		1			4.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3			1			4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	1	1				4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	3		1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	2	1				4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	1	1				4.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	1	1				4.3
12								
13								



<分析>

設問Ⅰの項目9、受講者の授業に対する取り組みは、4名中3名が最高評価の「5」であり、明確に肯定している。そして、後の1名も「4」と評価していることから、受講者の姿勢は非常に良好であったと考えられる。設問Ⅱの回答によれば、「話し合い」、「実習の振り返り」といったグループワークの導入がこのような姿勢に繋がったと推察される。また、設問Ⅳでは、少人数であった点に言及されており、各人の学修者としての自覚を一層促したようである。

設問Ⅰの項目4と8の平均値が、他の項目に比して低いが、「4.0」であり、肯定的な評価と解することができるのではないだろうか。しかしながら、設問Ⅰの項目8については、設問Ⅲの回答に、毎週続くレポートに対する負担感が記されていることから、レポートの課し方には一考を要する可能性もある。一方、設問Ⅰの項目4については、該当する記述はなく、先の評価理由を推測することができなかった。本評価結果を参考にしながら、次年度の授業に臨み、授業改善のための検討を続けたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

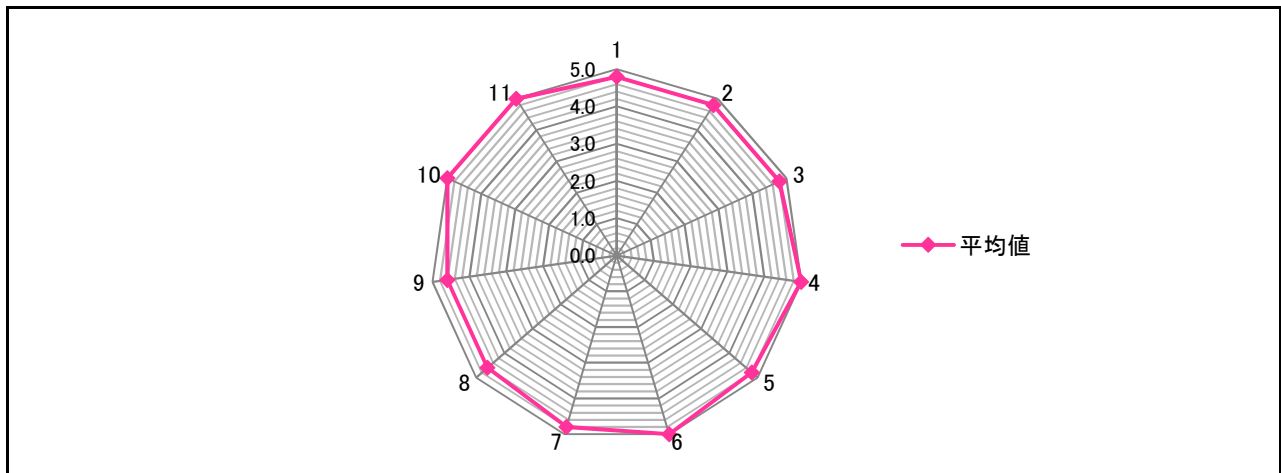
評価実施日 令和 2 年 2 月 10 日

授業科目名	教職協働実践演習Ⅱ(幼年関連3分野)	
授業区分	共通科目	回答者数 5名
担当教員名	塩路晶子, 田村隆宏, 浜崎隆司, 湯地宏樹, 木村直子	

1 アンケート[Ⅰ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	2					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5						5.0
12								
13								



<分析>

本授業は、教職協働実践演習Ⅰを引き継ぎ、これからの学校教育で重要となる教職協働力を育成することを目的としていた。受講生は、自らの基礎インターンシップ等を振り返り、他の受講生とディスカッションを行い、学卒院生、現職院生それぞれが、来年度の実習に向けての計画を立てる観点を見いだした。すべての評価項目が4.6以上の高い値であり、授業の目的はおおむね到達できたと考えている。

## 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

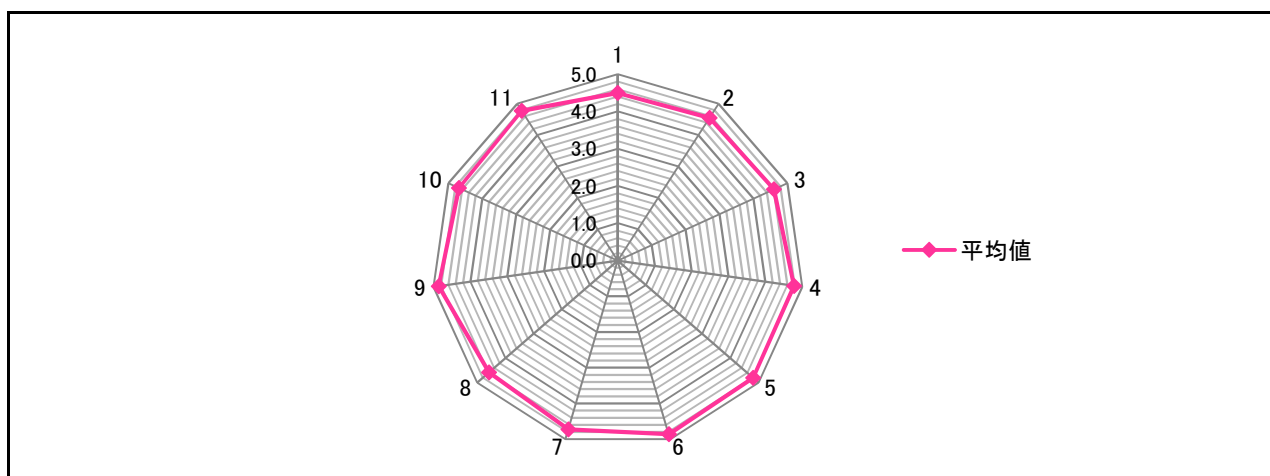
評価実施日 令和 2 年 12 月 23 日

授業科目名	教職協働実践演習Ⅱ(教職系・子ども発達除く)	
授業区分	共通科目	回答者数 36名
担当教員名	中妻佳代 他, 教職実践高度化系教員23名	

### 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	22	10	4				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	24	8	4				4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	25	8	3				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	30	4	2				4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	30	5	1				4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	33	1	2				4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	29	4	3				4.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	26	5	5				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	32	3	1				4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	28	5	3				4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	29	6	1				4.8
12								
13								



### <分 析>

全ての質問項目において平均値が4.5以上となっており, 良い評価である。本授業は受講生にとって満足のいくものであり, 目標は達成されていると考えられる。

特に項目6, 9の評定値の平均は4.9, 項目4, 5, 11の評定値平均は4.8と高いものだった。自由記述からは「自分の気付かない視点やアプローチをしてくださるので勉強になった」「自分の改善点を見つけることができた」「院生に分かりやすいのはどんなアドバイスか考えることができた」「年齢の離れた院生の考えや感覚を知ることができ, 授業づくりの熱意も感じ刺激になった」等といった前向きな意見が多数見られた。今後一層, 主体的・意欲的に他者と協働しながら授業実践・省察に取り組めるものと期待する。

一方, 「時間がもう少し長いと検討しやすい」「専門性が活かせる配置にしてほしい」といった意見を参考に, 次年度に向けてさらに工夫改善を重ねたい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

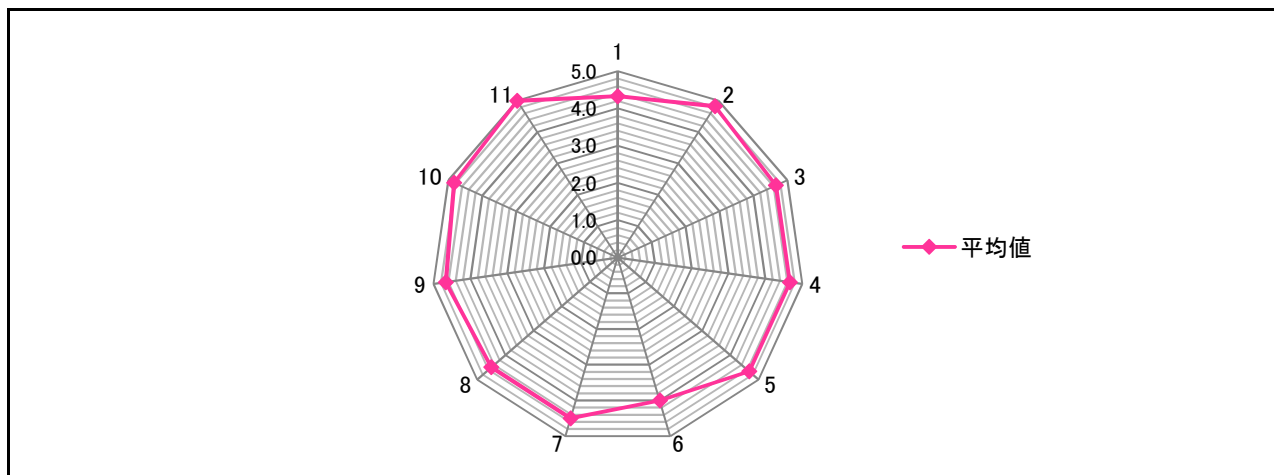
評価実施日 令和 元 年 6 月 7 日

授業科目名	教職基礎力開発演習 I (国語)				
授業区分	共通科目	回答者数	6 名		
担当教員名	余郷裕次, 小島明子, 原 卓志, 村井万里子, 幾田伸司, 黒田俊太郎				

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	4					4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	2					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	2					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	2					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2	2				4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	3					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6						5.0
12								
13								



### <分 析>

学部卒業生を対象とした授業として、特に、将来国語科教員をして教職に就くための基礎力を養成することを目指した。評価の平均値を見る限り、基礎力を養成するドリル的な内容であったにもかかわらず、高評価であった。特に、「11 この授業をきっかけに、もっと学びを広げたり深めたりしたい。」は5.0の評価を得た。受講生のコメントにも、さらに受講したいとの声があった。

これは、基礎的ドリル的な内容であっても、学問に裏付けられた本質的な内容によって、探求意欲が引き出されたものとして評価できる。今後も、努力を重ねたい。

しかし、「6 シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。」の評価平均値は、4.0で相対的に低い値にとどまった。これは、国語科の古典文学の読解力養成といったアクティブラーニングに不向きな授業内容であったことにもよるが、今後工夫したい点である。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

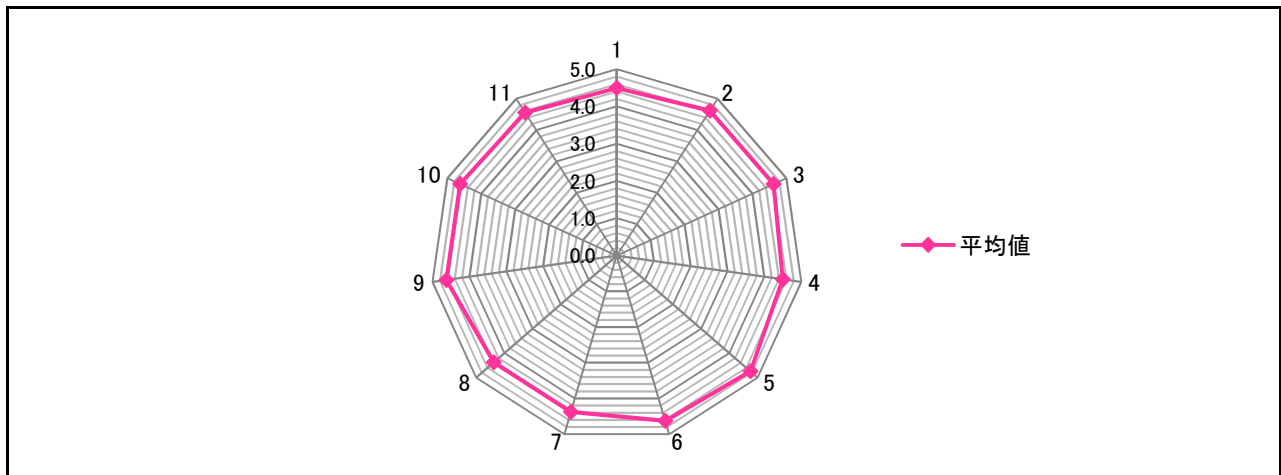
評価実施日 令和元年6月6日

授業科目名	教職基礎力開発演習 I (教員養成)	
授業区分	共通科目	回答者数 16名
担当教員名	若井ゆかり 他, 教職実践高度化系教員23名	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	6	1				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	11	4	1				4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10	6					4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9	6	1				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	12	4					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	11	4	1				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	8	6	2				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	8	6	2				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	6					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	10	6					4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10	5	1				4.6
12								
13								



<分析>

本授業では, 教師としての基礎的な力量を高めることをねらいとして実施しており, 教師を志す受講生の意識も高く, ほとんどの評価項目において4.5以上の高い評価を得られた。受講生も自ら目標設定し, 計画的に学習を進めてきた。また, 今日的な教育課題や教育政策の動向を踏まえて演習を実施することで, より実践的な力を身に付けることができたと考える。

観点別評価では, どの項目においても高い評価を得てはいるが, 7,8の項目について4.4と少し低い数値となっており, 今後も受講者全員が満足のいく授業を目指し, 次年度に向けて更なる改善を進めていきたい。

また, 本授業では, 教員としてのコミュニケーション力の向上, 授業実践力・学級経営力・生徒指導力の育成を目標として, 授業の演習の中に, 教育現場の課題に即した討論や保護者や児童を想定したロールプレイ等を実施してきた。結果的に, 教員採用試験にも活かせる内容でよかったとの意見が聞かれたが, 採用試験を目的としているのではない。受講者自身の教育観の確立や人間的な成長を感じ取れるよう, その主旨について丁寧に説明しておくべきであった。次年度の課題とし, この授業の本来の主旨を踏まえて, 授業に臨めるようにしていきたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

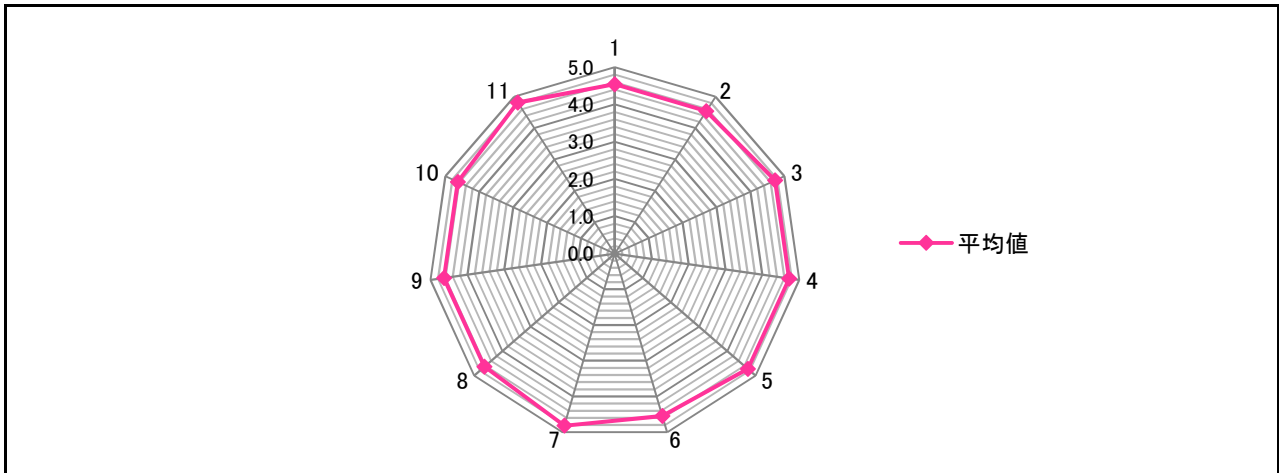
評価実施日 令和 元 年 11 月 28 日

授業科目名	言語コミュニケーション教育(国語)の内容構成演習	
授業区分	専門科目	回答者数 11名
担当教員名	原卓志, 余郷裕次	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	3	1				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	5					4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8	3					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	8	3					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	8	3					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	5					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	9	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	4					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7	4					4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	2					4.8
12								
13								



<分析>

言語コミュニケーション力を養うための授業を構想するという課題を持ちつつ、言語コミュニケーションに関わる問題点について、様々な言語事例に基づき、小グループでのディスカッションと全体発表という形式で進め、最終日には、一人一人が構想した授業を発表し合った。発表内容は、多種多様で、よく考えられた授業構想であった。

2コマ連続という授業は、肉体的には厳しいものがあつたが、話し合いに十分な時間が確保できたことが高評価に繋がったと考えられる。

受講生からは、良かった点として、「言語について理解することができた」「具体的な話題について討議することができたこと」「コミュニケーションについてコミュニケーションしながら学べたこと」「演習が多く、小さいグループで意見を交わして、学びが深くなっていくのが良かった。まさに、アクティブラーニングでした」というコメントが寄せられた。改善すべき点として寄せられたのは「特にありませんが、演習の方向性をもう少し具体的にお示し下さるとありがたいと思います」というコメントがあつた。この意見については、次年度の授業に活かしていきたいと考える。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

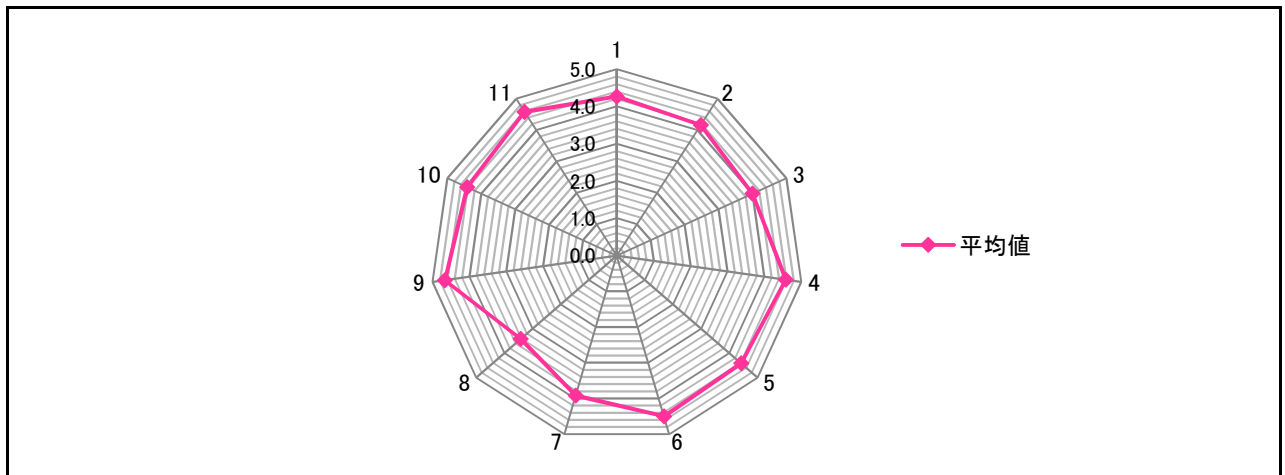
評価実施日 令和元年11月26日

授業科目名	言語文化教育(国語)の内容構成演習	
授業区分	専門科目	回答者数 12名
担当教員名	小島明子, 村井万里子	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	3	1	1		1	4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	4	3				4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	5	2	1			4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	8	3	1				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	7	4		1			4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	4	1				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	5	2	4	1			3.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	5	1	4			3.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2	1				4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6	5	1				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	2		1			4.6
12								
13								



<分析>

教職大学院となって初めて開講する授業科目であったため問題点が多かったことは否めない。以下が反省点である。

- ①授業のねらいが明確でなかった。担当教員2名の意識にもずれがあった。
- ②授業計画が事前に十分練られていなかった。もっと時間をとって熟考するべきであった。
- ③受講者に2回の発表を課したが、準備時間が不足していた。  
また全員に発表をさせたため、発表の時間・議論の時間も短かった。  
グループ発表のかたちなども取り入れると良かったかもしれない。
- ④院生の発表を生かすようなコメントを教員から提示することができない場合もあった。  
自由度の高い発表ではなく、あらかじめ課題を絞りで、それについての見解を発表させた方が教員もコメントしやすい。  
同時に院生同士の議論も活性化したと考えられる。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

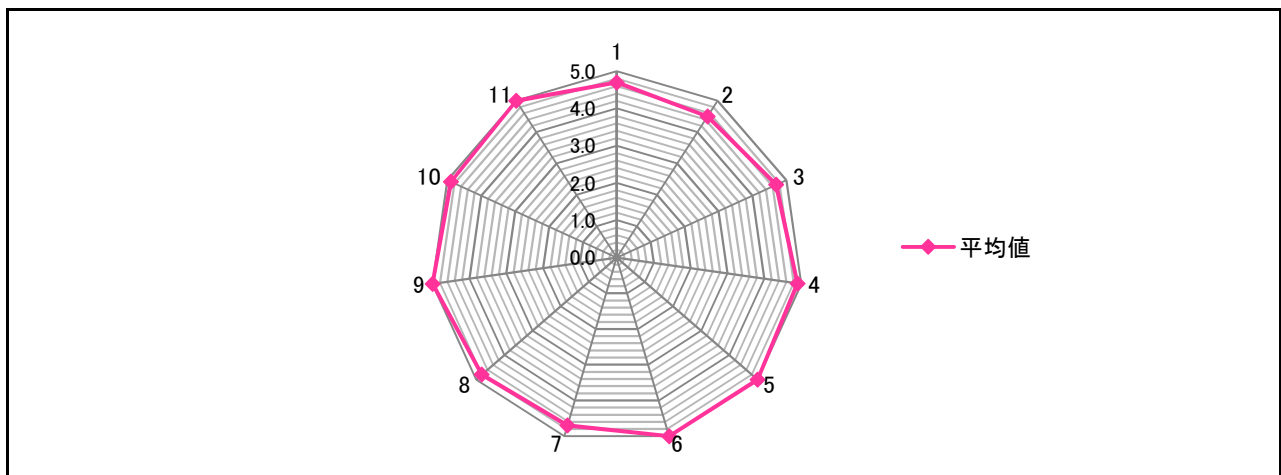
評価実施日 令和 2 年 2 月 13 日

授業科目名	言語コミュニケーション教育(国語)の教材開発演習	
授業区分	専門科目	回答者数 10名
担当教員名	幾田伸司, 原卓志	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	3					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	5					4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	7	3					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	10						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	10						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	7	3					4.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	8	2					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10						5.0
12								
13								



<分析>

項目5, 6, 9, 11で全員が5と回答し、最も低かった項目2の平均値が4.5であったことから、全般的に高い評価を得られました。項目9で受講者全員が主体的・積極的に取り組めたと自己評価しているように、ワークショップを多く取り入れたことが、このような高い満足度に寄与したと考えられます。受講者自身が高い意識を持って授業に参加できたようです。項目1, 2については若干評価が低く、シラバスが授業内容をうまく説明できていない部分があったと考えられます。今年度初めて実施した授業であり、授業内容、進度なども手探りで進めていた感があります。今年度の授業内容を踏まえて、次年度以降の学習課題等、授業設計を見直していこうと考えています。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

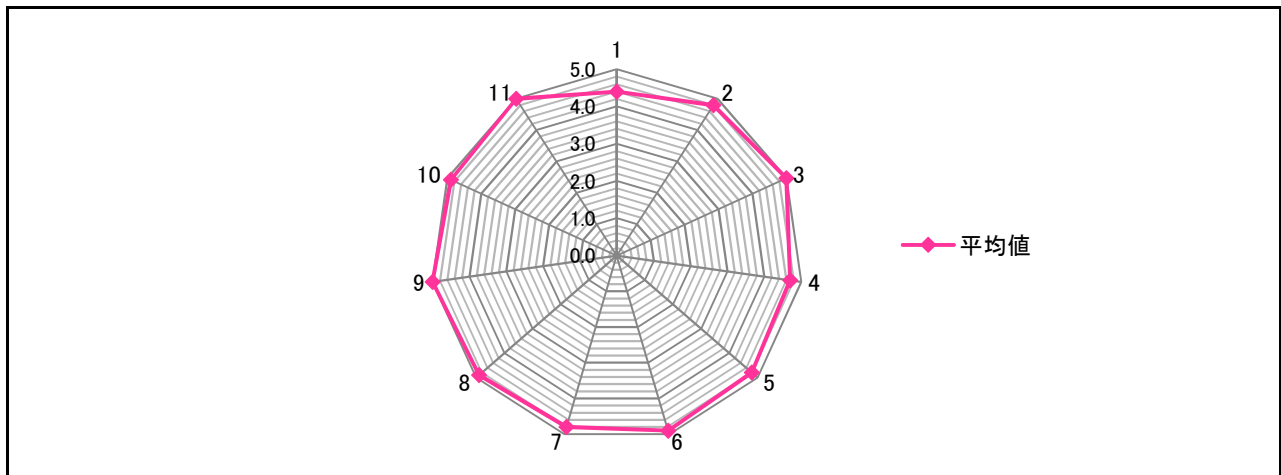
評価実施日 令和 2 年 2 月 10 日

授業科目名	言語文化教育(国語)の教材開発演習	
授業区分	専門科目	回答者数 10名
担当教員名	黒田俊太郎, 余郷裕次	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	4	1				4.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	2					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	8	1	1				4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	8	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	8	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	9	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10						5.0
12								
13								



<分析>

大学院(専門職学位課程)になり、「言語文化教育(国語)の教材開発演習」は、初の授業でありシラバスはあるものの手探りの状態であった。そのような状況から、「2 授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。」の評価が、4.4となっており相対的に低い値であった。これは今後2度3度と授業を実践する中で改善されるものと考えている。

受講生の積極的な受講態度のおかげで、「3 授業の内容は, 分かりやすかった。」「9 授業に主体的・積極的に取り組んだ。」「11 この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。」の3項目で5.0の最高値を得た。これは、言語文化のうち有形のものから、絵本を取り上げ、無形のものから身体論(姿勢・呼吸・発声)を取り上げ、両者をリンクさせた演習形式の授業内容が良かったと考えている。受講者からは、Ⅲ～Ⅳの記述欄に、「絵本のすばらしさについて、本当によくわかりました。ずっと聴講したいです。」「声の出し方, 呼吸の仕方など, 意識して読むことができた。」「絵本の魅力が充分伝わってきた。グループで絵本を読み合ったり朗読したりしたのが楽しかった。」など、授業を評価するコメントが見られた。

今後も、よくわかる内容を心がけ、受講生の積極的な受講態度を引き出し、授業をきっかけに学びやディシプリンが継続するような授業を展開できるように努力を続けたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

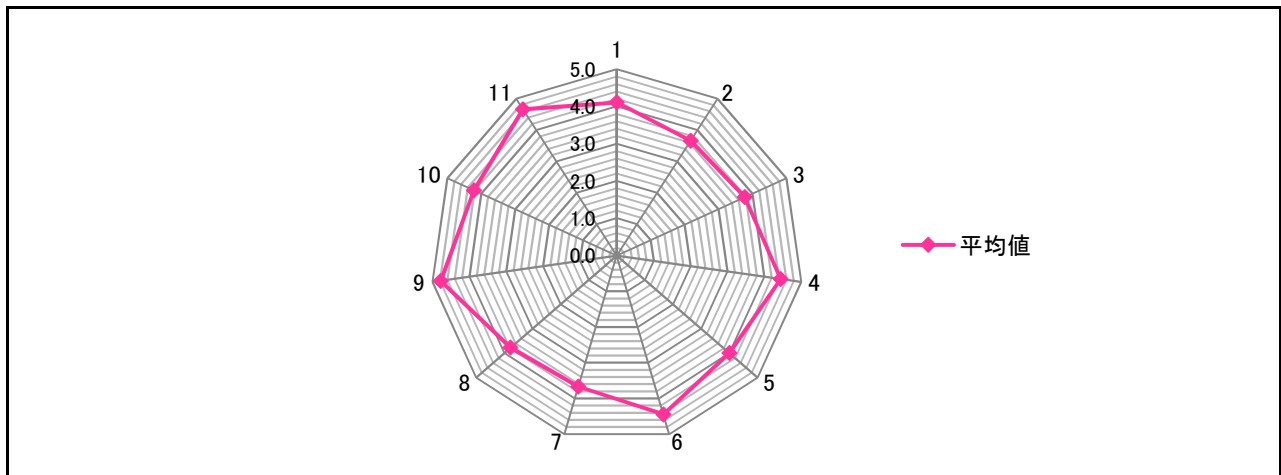
評価実施日 令和 2 年 2 月 10 日

授業科目名	言語コミュニケーション教育(国語)の学習指導と授業デザイン	
授業区分	専門科目	回答者数 9名
担当教員名	村井万里子, 黒田俊太郎	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	6	1				4.1
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	2	2	2			3.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1	2	2			3.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5	3	1				4.4
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	4	1	1			4.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	3	1				4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1	2	1	1		3.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	1	2	2			3.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	2	1	1			4.2
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	7	1	1				4.7
12								
13								



<分析>

初めて開講する授業科目であったこと, 授業担当者にとって手探りの進め方だったため, 問題点が多く見られた。項目2・3, 及び7・8に, 顕著な落ち込みが見られる。

- ①選定したテキストが, 受講者の課題意一般に対してやや専門に偏っていた。
  - ②授業展開では, 教材内容を優先し, 受講者それぞれの理解度を十分に顧慮する余裕がなかった。
  - ③受講者間の協議では, 進行やサポートを現職院生が率先して行った。
  - ④学卒者には, 発言の多い者, 遠慮がちで少ない者があり, これを補う手立てに乏しかった。
- 次年度には, 文学専門と教科教育専門の授業担当者によるTTが行える予定なので, 上記の点を十分踏まえて望みたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

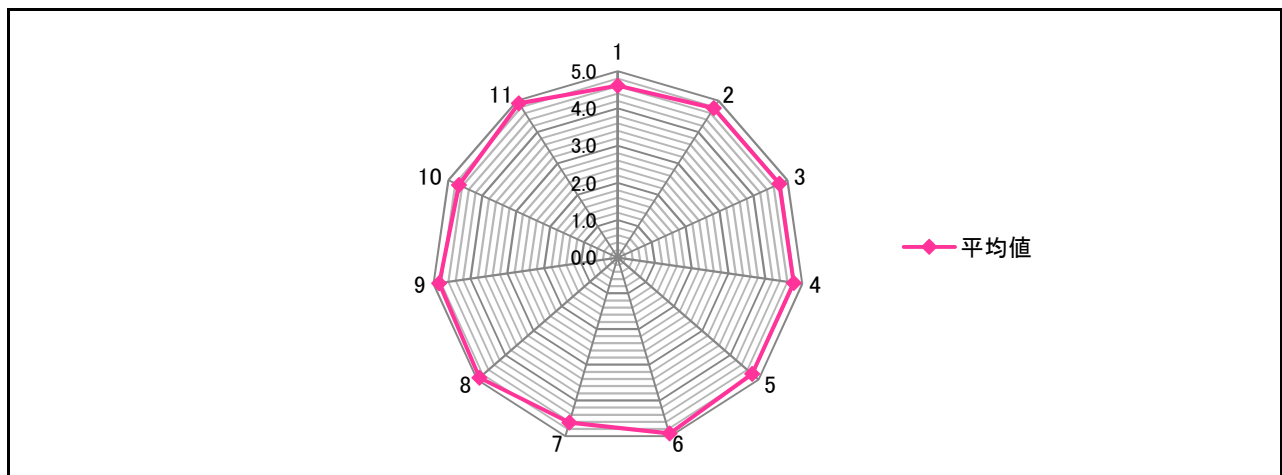
評価実施日 令和 2 年 2 月 4 日

授業科目名	言語文化教育(国語)の学習指導と授業デザイン	
授業区分	専門科目	回答者数 13名
担当教員名	幾田伸司, 小島明子	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	8	5					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	10	3					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10	3					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	10	3					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	10	3					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	12	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	8	5					4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	12	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9	4					4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	12	1					4.9
12								
13								



<分析>

今期は日程の移動などもあり、受講者の皆さんにはかなり迷惑をかけましたが、全項目で平均値が4.6以上であり、全般的に高い評価を得られました。項目9の平均値が4.8であるように、ワークショップを多く取り入れたので受講者が主体的・積極的に課題に取り組めたことがよかったと考えます。このような学習形態は、次年度以降も取り入れていこうと思います。今年度初めて行った授業であり、授業内容や進む速さなど、手探りで行った部分が多くありました。特に、教材分析の対象とした学習材については、今期は授業者が提示しました。コメントでは扱ってほしい教材についての要望もありましたので、次年度からh受講者と相談しながら選定していこうと考えています。また、シラバスについても、今年度の内容を踏まえてよりわかりやすく提示できるように改善していく予定です。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

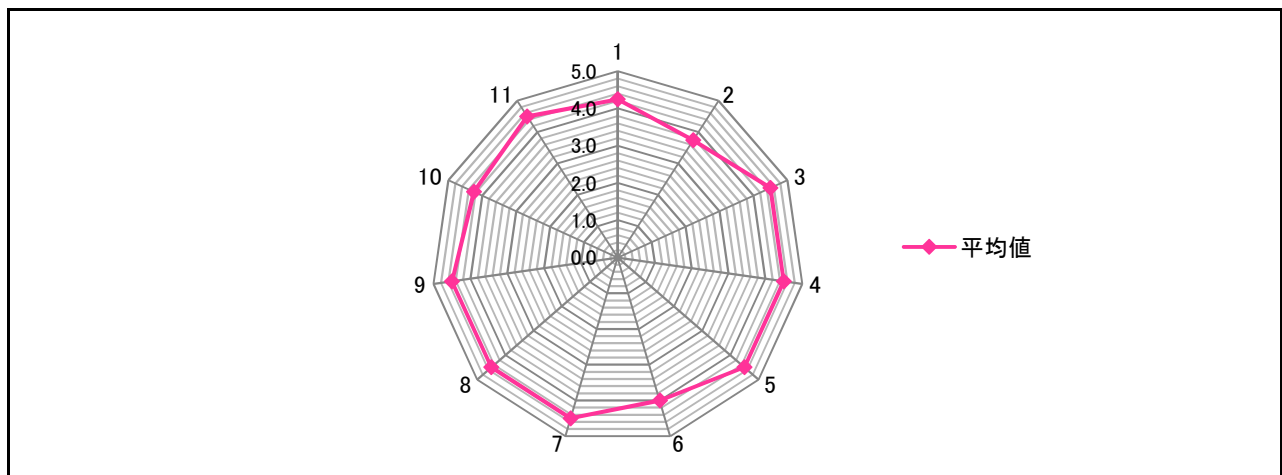
評価実施日 令和 元 年 12 月 12 日

授業科目名	言語文化教育(英語)の内容構成演習		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	太田直也, 山森直人		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	1	1				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	2		1			3.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3		1				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3		1				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3		1				4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	1	2	1				4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	3		1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3		1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	1	1				4.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3		1				4.5
12								
13								



<分析>

2項目(3.8)をのぞき, 4点台の数値を得ていることから, 本授業の内容や方法等は良好であった判断できる。特に, 項目2(授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。)については, 授業の主旨・内容を受講生に説明し, 理解を得たい。  
 今回の受講者は全員が同一校種の現職大学院生であったが, 今後, 勤務校種や希望校種が異なる学生の受講が予測されるため, そのような状況に対応できる授業内容や方法を考えていく必要がある。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

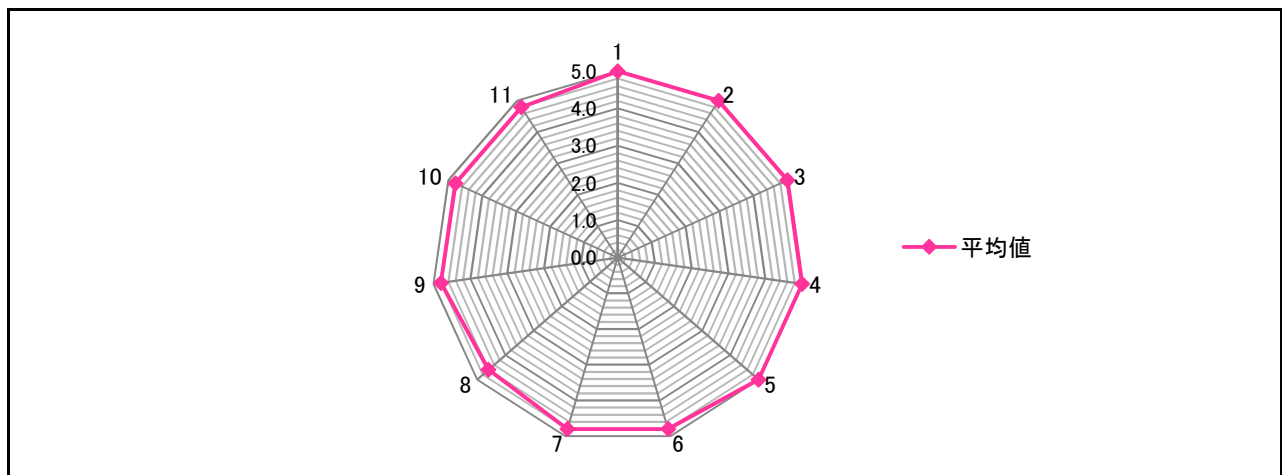
評価実施日 令和 2 年 2 月 14 日

授業科目名	言語コミュニケーション教育(英語)の教材開発演習	
授業区分	専門科目	回答者数 5名
担当教員名	畑江美佳, 眞野美穂	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない, 無: 未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	2					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8
12								
13								



<分析>

初めての授業ということもあり、担当教員二人で内容を検討しながら行った授業であったが、アンケート結果からは満足度の高さが見て取れて、安心した。自由記述からも実践的だったとの感想が得られた。各自が、中学校での英語の教材について、具体的に考え、提案したことがその評価につながったのだと考える。課題としては、今年度は4名だったため、全員の教材をじっくり検討することができたが、人数が増えたときに、どのように検討を行うか、という点がある。限られた時間内でできるだけ、多くの教材開発が行える方法を今後検討したい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

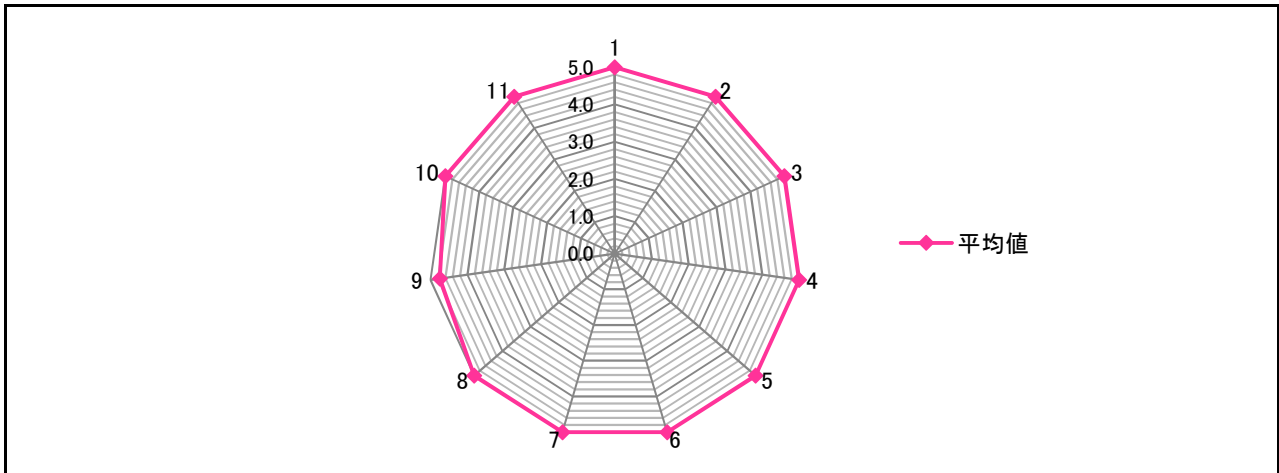
評価実施日 令和 2 年 2 月 18 日

授業科目名	言語文化教育(英語)の教材開発演習		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	山森直人, 喜多容子, 佐藤美智子		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



<分析>

1項目(4.8)をのぞき, 5.0という高い数値を得ていることから, 本授業の内容や方法等は受講生より高評価を得たと判断できる。自由記述からは, 良かった点として, 教材について改めて学び, 教材を作ることができたこと, 教材について複数教員から学べたことなどが挙げられている。授業担当者としては, 8回の授業にもう少し系統性をもたせて授業を展開できたらよかったと考える。また, 今回の受講者は全員が同一校種の現職大学院生であったが, 今後, 勤務校種や希望校種が異なる学生の受講が予測されるため, そのような状況に対応できる授業内容や方法を考えていく必要がある。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

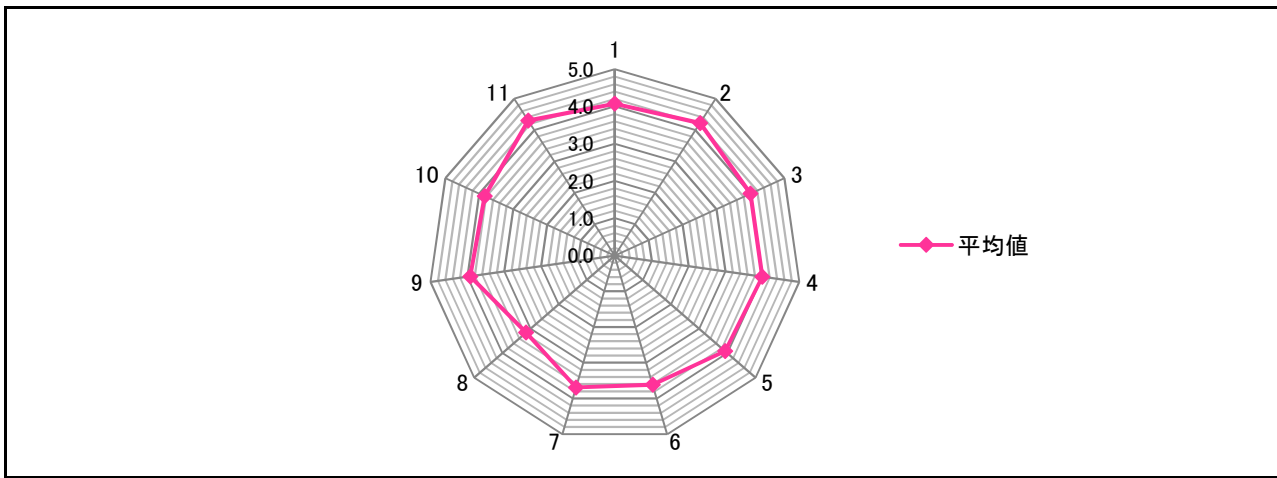
評価実施日 令和 2 年 2 月 12 日

授業科目名	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の構成とカリキュラム	
授業区分	専門科目	回答者数 13名
担当教員名	村井万里子, 原田昌博, 小島明子, 黒田俊太郎, 太田直也, 眞野美穂, 立岡裕士, 町田 哲	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	3	1	1	1		4.1
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	4	1		1		4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5	5	2		1		4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5	5	2		1		4.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5	5	1	1	1		3.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	3	4	1	1		3.6
7	授業の進む速さは適切であった。	5	2	4	1	1		3.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	2	2	2	3		3.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	3		1		3.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	6	1	1	1		3.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	3	1		1		4.3
12								
13								



<分析>

初めての言語・社会分野の横断授業であったため, 事前に2回, 全員で進め方の協議を行った。内容を2, 3のグループに分けて行う案も出たが, 初年度は担当者全員がこの授業を経験することを優先し, 全員によるオムニバス方式を採用した。結局, 「横断」の内容自体は, 受講生の関連させる力を発揮してもらい, その実態を共有することにした。結果として, アンケートの反応は厳しい結果であったが, この状況は半ば予想されたものであった。

<主な自由記述>

- 全然横断してない。(率直な意見。そのとおりである。)
- どの内容もとても興味深く, おもしろかったです。もっと, たくさん, お話が聞きたい。(受講者の7割の意見)
- 短い時間で, 教科指導の示唆となるような学びがあった。レポートの指示が不透明。
- I回ごとに先生がかわり, たくさんの興味深い専門的なお話がうかがえた。1回交代であったため, より詳しいお話を聞きたかった先生もいらっしやいました。
- レポートは懸命にがんばった。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

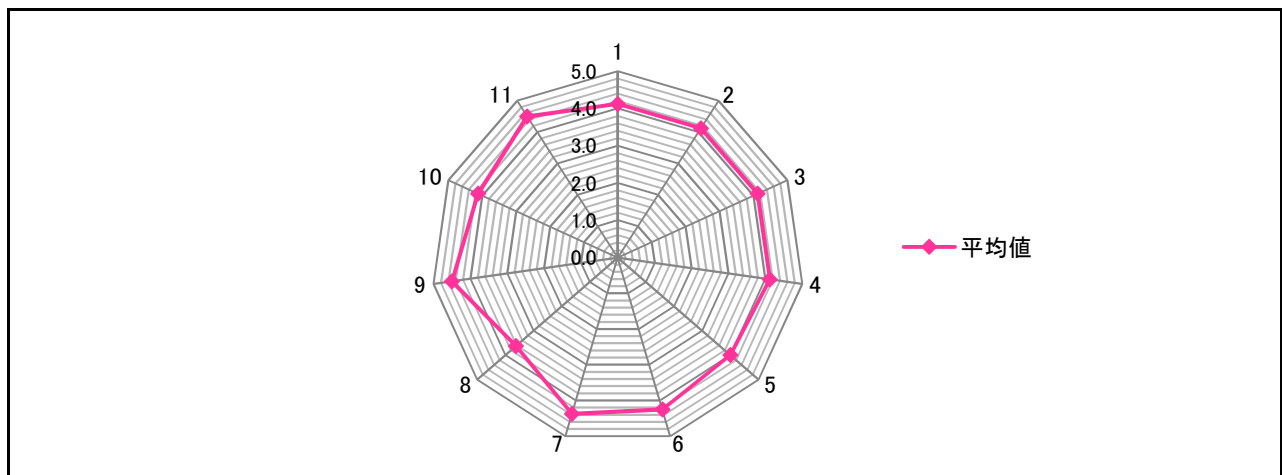
評価実施日 令和 元 年 11 月 28 日

授業科目名	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の学習指導と授業デザイン	
授業区分	専門科目	回答者数 8名
担当教員名	伊藤直之, 藪下克彦, 喜多容子, 余郷裕次, 原卓志	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	5	1				4.1
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	5	1				4.1
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	5	1				4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	3	2				4.1
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	3	1	1			4.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	4	1				4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	4	3	1				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	3	1	2			3.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	2	1	1			4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	2	1				4.5
12								
13								



<分析>

分野を超えた複数教員による実施のため, 事前の打ち合わせを行ったものの, それが不十分であったことを示す結果となった。次年度は, とくに低評価であった8番目の項目に留意し, 提示資料・課題・レポートの適切性について, 教員間で改善検討を行い, 実践したい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

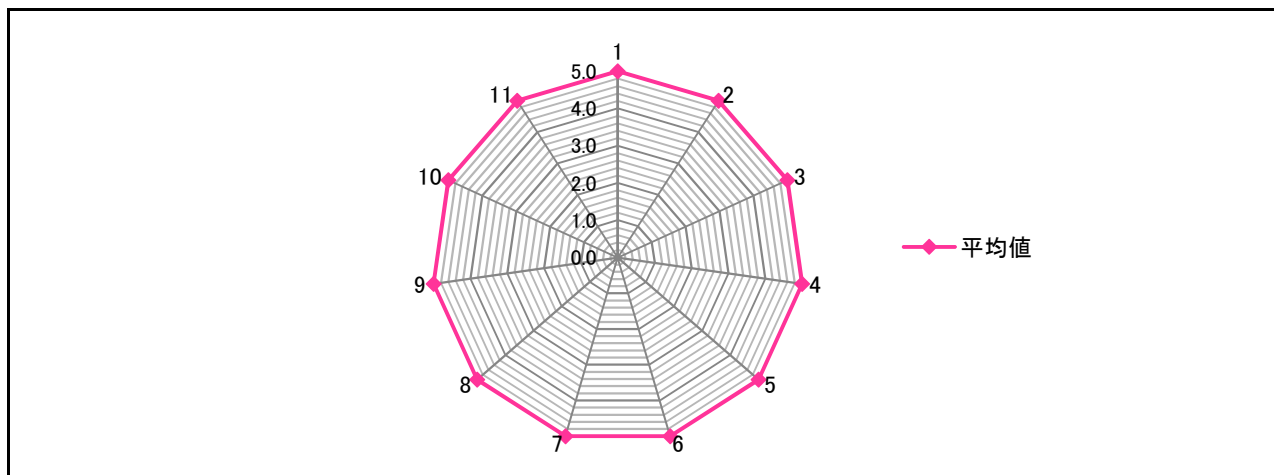
評価実施日 令和 2 年 2 月 6 日

授業科目名	数理認識教育(数学)の内容構成演習A	
授業区分	専門科目	回答者数 4名
担当教員名	松岡 隆, 佐伯昭彦, 秋田美代, 成川公昭, 宮口智成, 早田 透	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



<分析>

本授業の目的は, 児童・生徒の理解が不十分になりがちな教科内容を選び, その本質・意味や見方・考え方に関する授業者からの意見も交えながら, 理解を難しくしている要素や側面を焦点化・明確化した上で, 教科書等での扱い方や構成について考察して授業の改善方法を見出すことである。そのねらいは以下に示す自由記述欄の回答からも分かるようによく実現できていると考える。

自由記述:「楽しく話し合いながら内容の本質にせまるような話し合いができたと思います。深くて面白い学びになりました。」  
 「柔軟に様々なテーマで議論することができた。」  
 「その場で気になった点はすぐに意見を出し, 他の意見と交換することで納得につなげることができた。」  
 「つまづきについてじっくり議論できてよかった。」  
 「数学の本質を問うような問いが多くて生徒に教える際にどのようなことに気を付ければよいのかがわかった。」

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

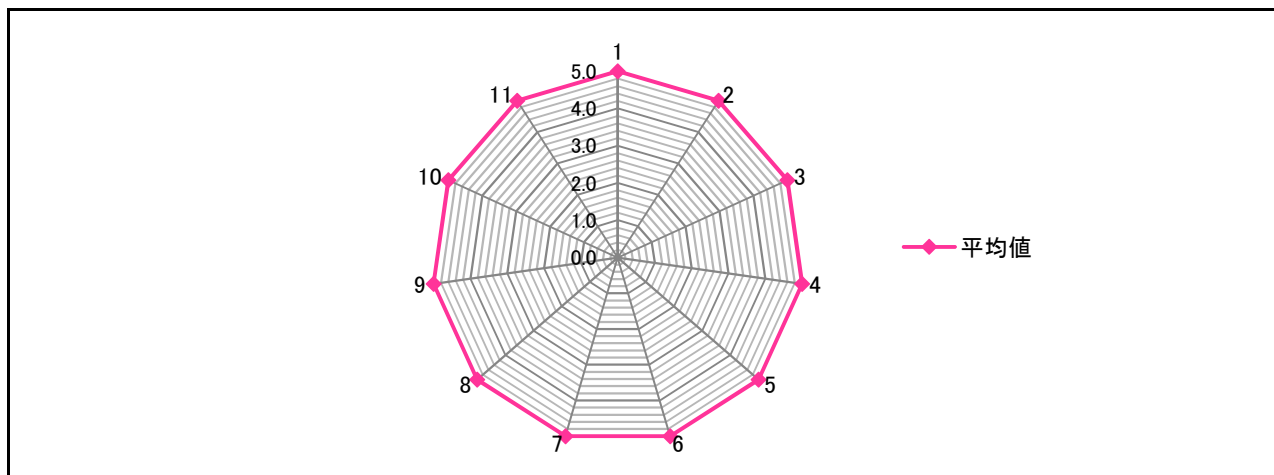
評価実施日 令和 元 年 11 月 25 日

授業科目名	数理解論教育(数学)の学習指導と授業デザインA				
授業区分	専門科目	回答者数	4名		
担当教員名	佐伯昭彦, 秋田美代, 松岡 隆, 成川公昭, 宮口智成, 早田 透				

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない, 無: 未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



## <分 析>

本授業では, 数学の認知特性を踏まえた学習指導理論を基に, 算数科・数学科の目標が実現できるようなICTを活用した代数と幾何に関する授業のデザインと検討を行った。具体的には, ICTを活用して生徒が主体的に代数と幾何の規則や性質等を発見し, それを数学的に論証する内容の授業をデザインし, 模擬授業を行うとともにその評価と改善を行った。授業評価アンケート調査では, 全ての項目において受講生全員が評価5を選択した。この結果, 本授業の目的は概ね達成できたと考える。本授業における授業デザイン-模擬授業-評価-改善の一連の活動は, 数学専門の教員, 数学教育の教員, 学卒学生, 現職学生が議論を通して協働で行った。このことが, 好意的な評価を得た要因になったと考える。これに関しては, 学生の自由記述「教育学, 数学の専門の先生, 学卒生, 小学校の先生, 様々なコラボレーションの中で授業作りができ, それぞれの視点での発見や気づきがあって楽しかった」や「内容, 方法についてアイデアを出し合い考えを深めていけたので面白かったです」といった内容から読みとる事ができる。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

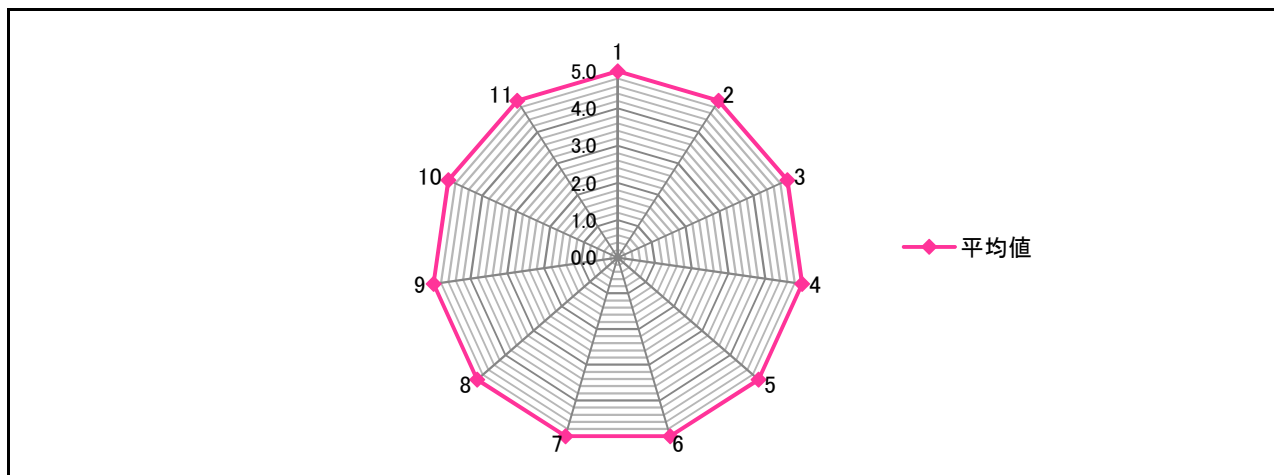
評価実施日 令和 2 年 2 月 18 日

授業科目名	数理認識教育(数学)の学習指導と授業デザインB		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	秋田美代, 佐伯昭彦, 成川公昭, 宮口智成, 松岡隆, 早田透		

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速度は適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



## <分析>

本授業の目的は、数学の認識特性を踏まえた学習指導理論を基に、解析と確率・統計を題材にして、算数科・数学科の目標が実現できる授業のデザインと検討を行うことであった。数学の学習における認知特性に焦点を当て、「教材研究・学習指導案作成」、「模擬授業」、「模擬授業研究会」、「授業改善」のPDCAサイクルを繰り返すことを通して、履修者の「学習課題の分析力」、「学習目標の把握力」、「教材研究力」、「授業設計力」、「授業評価力」を高めること、および算数科・数学科の目標が実現できる授業デザインと学習指導ができるようにすることをねらいとしていた。

全質問項目の評価平均値は5.0であった。受講者からは、授業についてのよかった点に対しては、「実際に話し合い授業をしてみることで、難しさを実感した。先生方と話し合いながら内容理解を深められた。」、「具体的に授業を想定した内容の話し合いと学びができた。」、「代表者の模擬授業、同じ内容についての個人による授業改善というスタイルで、1つの内容を深めることができた。」、「1つのテーマについて考え続けたため、複数のパターンを組み立てることができた点。」が記述されていた。授業についての改善してほしいこと、さらに望む事柄やアイデアについての記述はなかった。これらのことから、本年度の受講生については、教員としての専門性や実践力を高め、授業の目的を概ね達成できたと考えられた。

本年度の受講生は4人であったので、話し合いにおいて受講者が各自の意見を十分に述べて共通理解を図ることができやすかったことが考えられる。次年度の課題としては、履修者が8回の授業において数学における学習者の認知特性に沿った授業デザイン方法を一層深く理解し、授業実践力を高められるように授業の構成を工夫することがある。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

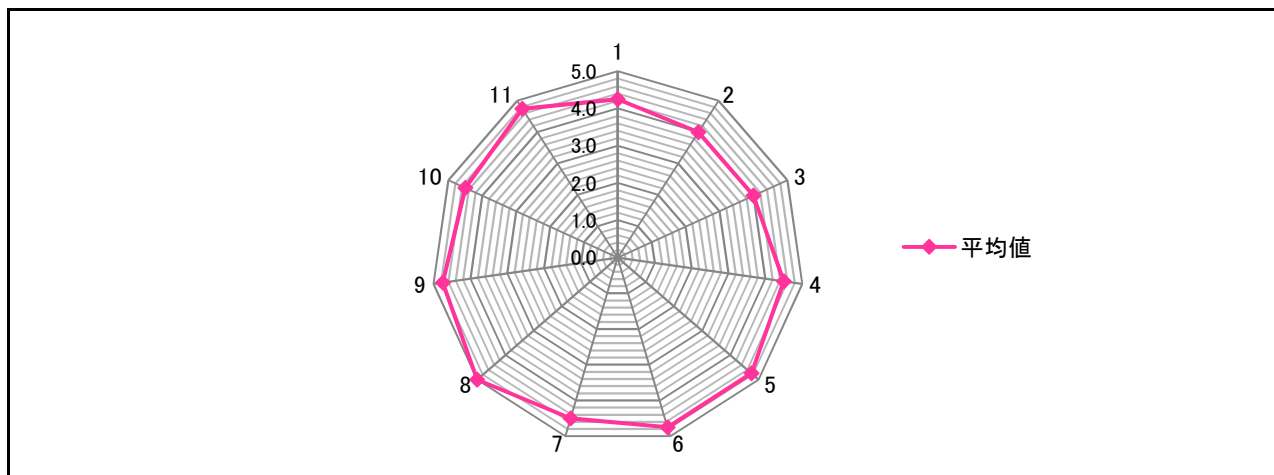
評価実施日 令和 2 年 2 月 5 日

授業科目名	身体・表現・文化を視点とした教科横断型単元の学習指導と授業デザイン		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	山田芳明, 頃安利秀, 山田啓明, 栗原慶, 内藤隆, 木原資裕, 綿引勝美		

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	1	3					4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	2	1				4.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	1	2	1				4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	2					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8
12								
13								



### <分析>

受講者が4名であり, 統計的な分析は行うことができないことから, 回答全般の傾向と顕著な回答項目から授業内容の省察を行いたい。なお分析にあたっては, 評価項目をその内容から便宜上授業の「形式的な側面(項目1, 2, 3, 6, 7, 8)」, 「実質的な側面(4, 5, 10)」, 及び受講者自身の「意欲・態度的な側面(9, 11)」の3つに分けて検討を行い, 必要に応じて受講者の記述内容を参照する。

マーク式回答項目Iの各問いの結果は, 項目2と3で, 4名中1名が「3:どちらともいえない」を選択した以外すべての項目で4または5の肯定的な評価を得ている。このことから, 受講者の本授業に対する印象は概ね良好であったと判断する。

それぞれの回答項目を見ると, 項目1,2,3が平均で4.5ポイントを下回っていることから, 授業の「形式的な側面」については改善の余地があると判断する。記述式回答項目のⅢの改善点に関して, 「授業のゴールがイメージできなかった」という記述があることから, 次年度に向けて改善したい点である。一方, 項目5,6,8,9,11はいずれも4.5ポイントを上回っていることから, 受講者自身の「意欲・態度的な側面」については効果的な授業となっていると判断する。なお, 本授業は, 芸術(音楽, 美術), 体育科の教科横断型単元について扱っているが, 本年度は美術の学生が受講していない。受講者からは, 項目Ⅲにおいて「各教科の専門の方が, 一人は必要だと思った」「各コース一人ずつは最低いるのかなと思いました。」「美術を先行する方が, いなかったの・・・」といった意見が寄せられていた。この点は, 受講生の履修科目の都合もあるために改善点できるかはわからないが, 検討事項である。

以上のことから, 本授業は受講者の視点からも妥当な授業であったと考えるが, 受講者にとってよりよい授業となるように, さらに授業改善に努めてゆきたい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

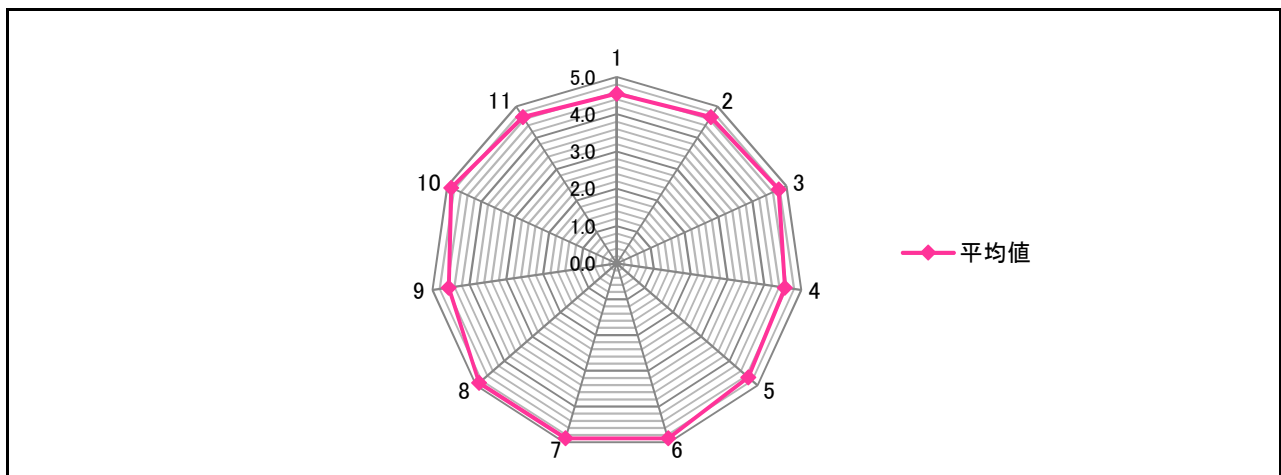
評価実施日 令和 2 年 2 月 19 日

授業科目名	乳幼児期から児童期の発達心理と保育				
授業区分	専門科目	回答者数	9 名		
担当教員名	浜崎隆司, 田村隆宏				

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	4					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	3					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	7	2					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5	4					4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	3					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	8	1					4.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	8	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	8	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	7	1	1				4.7
12								
13								



### <分 析>

全体の評価は、4.6～4.9であり、おおむね授業に対する評価は高かったと考えられる。特に、「授業では、シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた」の項目の評価が、4.9と高く、後半の授業では、教室内の机を寄せて、教員もそこにすわりお互いの距離が近くなるような雰囲気、毎回設問に一度は答えるような設定をした。感想の中で「アクティブ・ラーニングをすることで考えが深まり新しい視点にも気づいた」というコメントがみられた。理論を背景とした実践の在り方に授業の焦点を合わせたこともあって、授業への満足感も4.9と評価が高いものになった。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

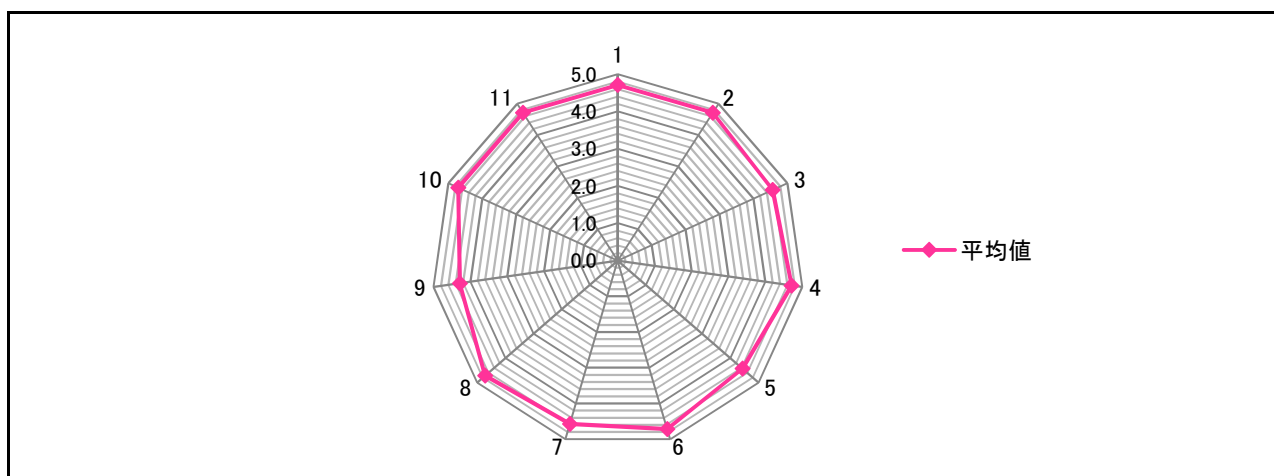
評価実施日 令和 2 年 2 月 19 日

授業科目名	子どもの心理発達の理論と実践				
授業区分	専門科目	回答者数	7 名		
担当教員名	浜崎隆司				

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない, 無: 未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6		1				4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6		1				4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5	1	1				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6		1				4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	2	1				4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6		1				4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1	1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6		1				4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1				4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6		1				4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6		1				4.7
12								
13								



### <分 析>

全体の評価は、4.3～4.7であり、おおむね授業に対する評価は高かったと考えられる。特に、「授業では、シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた」の項目の評価が、4.7と高く、授業では、教室内の机を寄せて、教員もそこにすわりお互いの距離が近くなるような雰囲気、毎回設問に一度は答えるような設定をした。感想の中で「アクティブ・ラーニングをすることで考えが深まり新しい視点にも気づいた」というコメントがみられた。理論を背景とした実践の在り方に授業の焦点を合わせたこともあって、授業への満足感も4.7と評価が高いものになった。今年度初めての開講であったが、評価に対してもっときちんと説明してほしいとの要望と冗談として言った言葉が不適切との感想もあり、次年度はこの点については授業の中で配慮して授業を進めるようにしたい。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

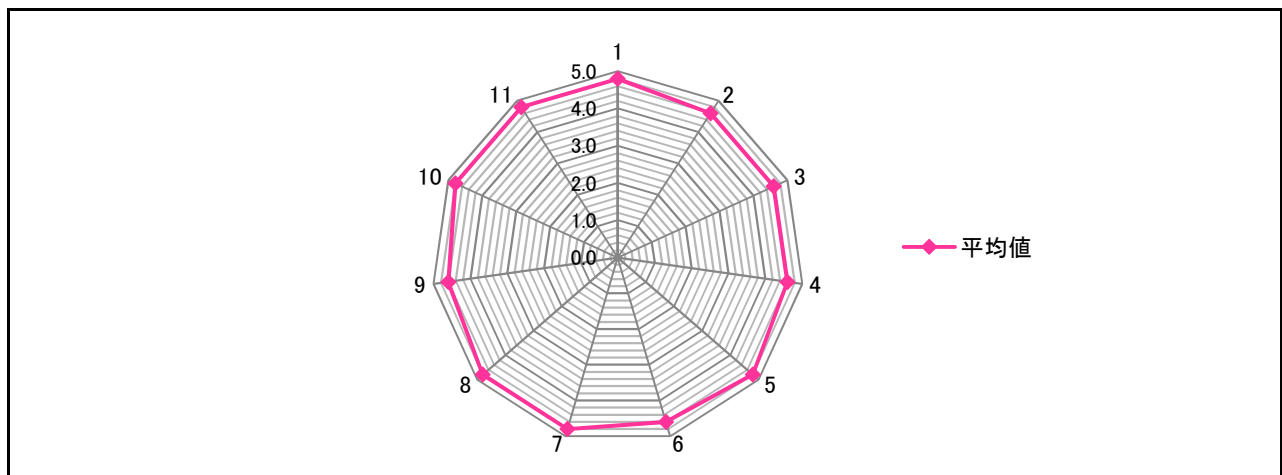
評価実施日 令和元年12月16日

授業科目名	幼児期から児童期の子どもの発達と支援	
授業区分	専門科目	回答者数 5名
担当教員名	田村隆宏	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	2					4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	2					4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	2					4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	2					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8
12								
13								



<分析>

いずれの項目においても評価点が4.6以上であり, 各評価項目で高く評価されているといえる。今後は, さらに授業内容のわかりやすさを高め, 教師の専門性を高める情報を盛り込むことについて工夫をこらす必要がある。加えて, 受講生の授業におけるアクティブラーニングや主体的, 積極的な授業への取り込みを今以上に促す工夫が必要である。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

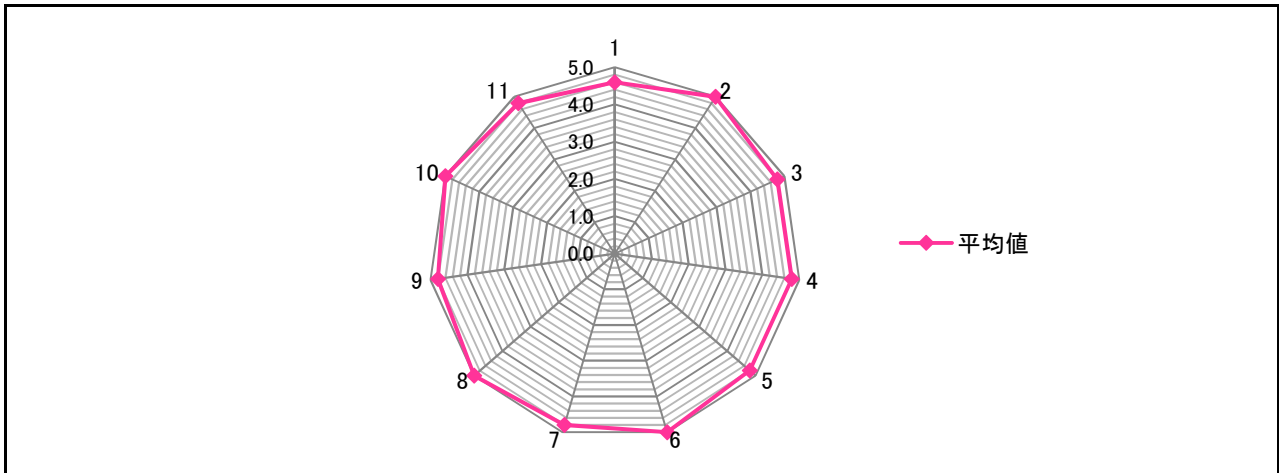
評価実施日 令和 2 年 2 月 6 日

授業科目名	幼児教育の理論と実践	
授業区分	専門科目	回答者数 5名
担当教員名	塩路晶子	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	2					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8
12								
13								



<分析>

本授業は、歴史的視点や、海外の保育の状況をふまえて、環境を通じた保育という現代日本の乳幼児教育について概説し理解を促すことを目的としている。  
 すべての評価項目が4.6以上と高い値であり、この目的はおおむね到達できたと考えている。受講生の自由記述からは、豊富な提示資料についても高く評価されていることがわかった。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

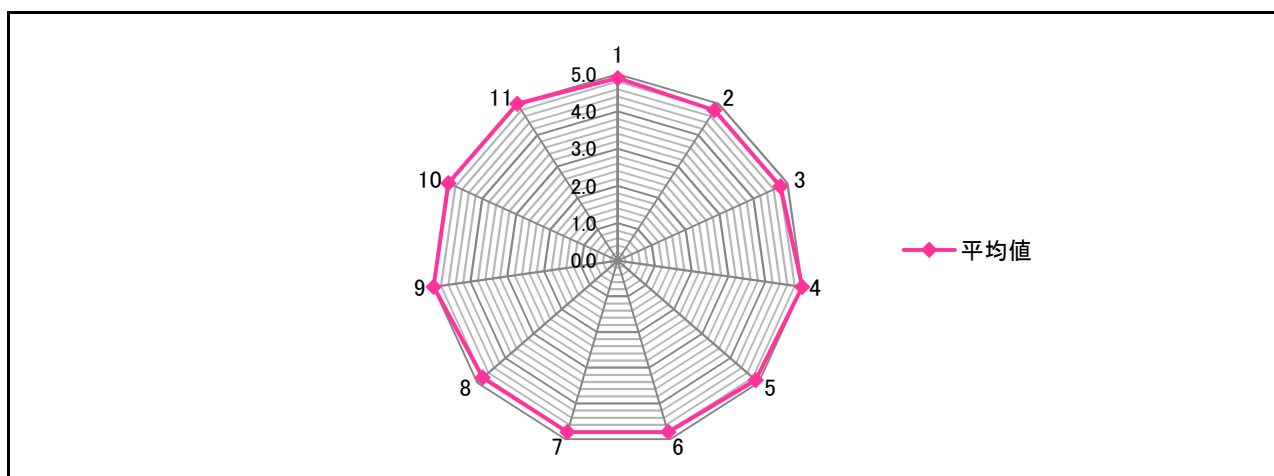
評価実施日 令和 2 年 2 月 10 日

授業科目名	遊びの原理に立つ幼児教育	
授業区分	専門科目	回答者数 10名
担当教員名	湯地宏樹	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	1					4.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	2					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8	2					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	10						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	1					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	2					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	8	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	8	2					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	10						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10						5.0
12								
13								



<分析>

本授業の受講者数は10名中10名の授業評価の結果である。

授業評価に関しては, 常に「5」>「4」を目標としている。今年度は, すべての項目において目標を達成することができた。質問項目「4 授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。」「9 授業に主体的・積極的に取り組んだ。」「10 自分にとって, 満足感を得られた授業であった。」「11 この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい」については全員「5」の評価であった。

自由記述Ⅱのよかった点では, 「分かりやすい内容(2名)」「興味深く学んだ」「しっかり準備して満足度が高い授業」「DVDなどの資料が多くあった」「ビデオの分析がよかった」「実際の現場での事例を見て自分なりに考えることができた」「接したことのない領域を学ぶことができ, 視野が広がった」などの意見がみられた。

自由記述Ⅲの改善点については, 補講にVRゲーム等を体験したことについて, 「ゲームをするより講義がよかった」という意見があった。

自由記述Ⅳ「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」については, 「内容が興味深かったから」「意見を言うようにしたから」「自分であればどう考え行動するかを伝えられたから」「現場に戻ったときに応用できる考え方について学んだから」「校種は異なるが, 役に立ちそうだから」「実践につなげて考えられる内容だったから」などの意見がみられた。

今年度, 教職大学院がスタートした開講1年目の試行錯誤の中で, 当初の計画した授業内容を十分に消化しきれなかった思いが残り, 授業の進め方や授業内容の精選等, 反省も多かった。しかし, 教職大学院としてとくに重要だと考える質問項目「4 教師の専門性」「5 実践力の育成」などが概ね高評価だったのは, 受講者が自分の問題としてどのように考えるかを発問したり, ディスカッションの時間を意識的に取り入れたからではないかと分析している。来年度は授業計画や学修課題を見つめ直し, 受講者が「教師の専門性」や「実践力の育成」を実感できるように工夫していきたい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

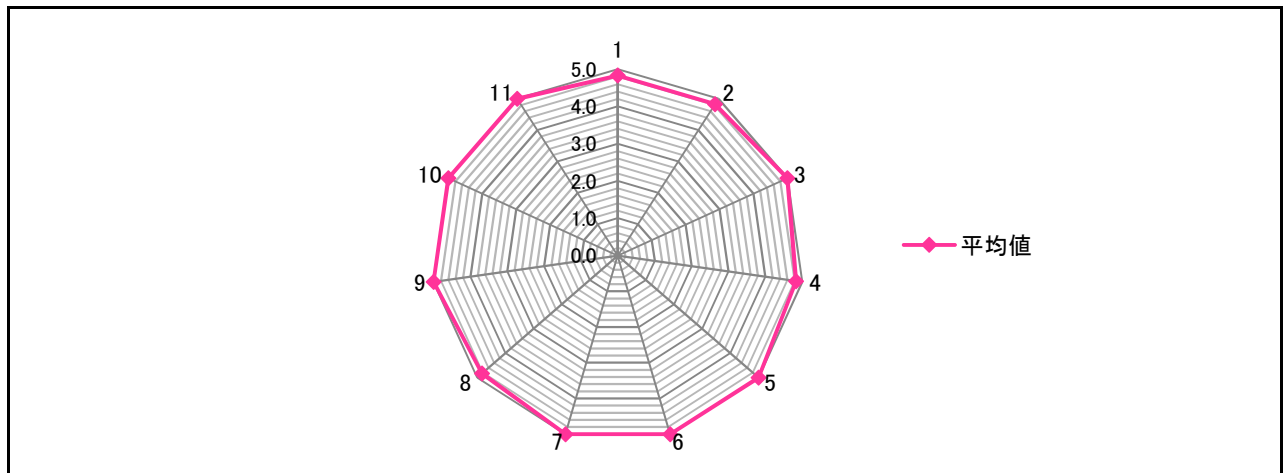
評価実施日 令和 2 年 2 月 7 日

授業科目名	小学校への接続・連携を見通した幼児教育				
授業区分	専門科目	回答者数	6名		
担当教員名	塩路晶子, 湯地宏樹				

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない, 無: 未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	6						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6						5.0
12								
13								



### <分析>

本授業は、幼小の接続・連携について、歴史的観点と共に、海外の教育事例の観点を概観しつつ、幼稚園教育要領の「幼稚園教育において育みたい資質・能力」をふまえて、幼児期のどのような姿が小学校以降の子どもの姿につながっていくのか、また、小学校教育を見通したときに、その基盤となる幼児教育の在り方とはどのようなものか、ということについて学ぶことを目的としている。

すべての評価項目が4.8以上の高い値であり、この授業の目的はおおむね到達できたと考えている。受講生の自由記述からは、授業中のディスカッションも有意義であったとのコメントがあった。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

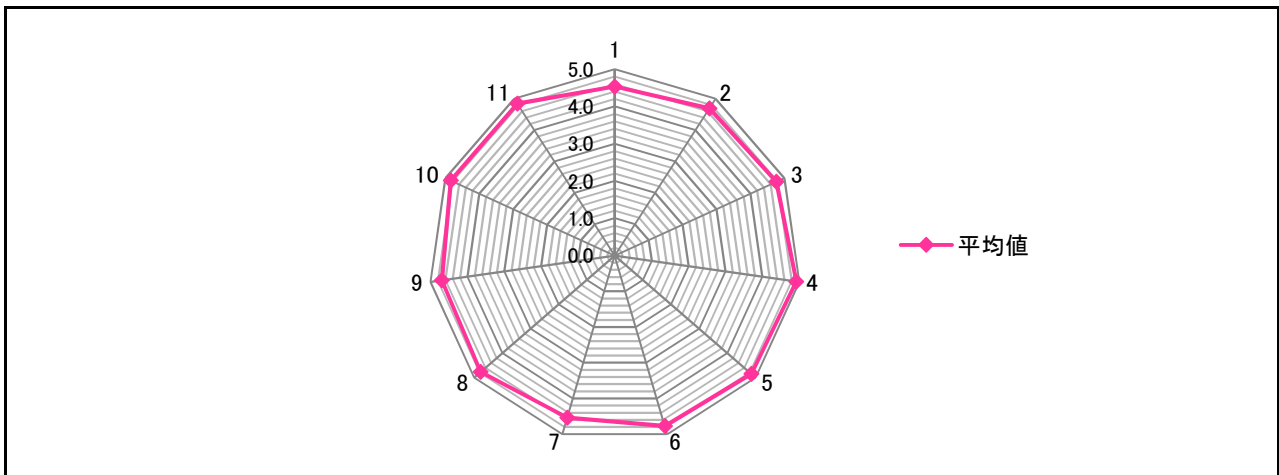
評価実施日 令和 2 年 1 月 31 日

授業科目名	子ども家族支援の実際と課題	
授業区分	専門科目	回答者数 13 名
担当教員名	木村直子	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	6					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9	4					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	11	1	1				4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	12	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	11	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	10	3					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	8	4	1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	10	3					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2	1				4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	11	2					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	11	2					4.8
12								
13								



<分析>

今年度はじまった新しい授業であったが, 様々なコースの方が履修してくださった。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて, 柔軟に対応することができ, そのことが, 総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。また, 対話型の授業を行っており, そのことが「現場に戻って役に立てることが学べた」「授業内で学卒院生や現職の院生のそれぞれの意見を聞く中で新たな視点に気が付き考えを深められた」「授業の中で全員が発言しやすい状況が作られていたので, 参加しやすかった」「事例を通して, 他の人の意見を聞きながら, 一つずつ検討できたことが, とても良かった」といったコメントに繋がったと考える。子ども家庭福祉をベースにした授業は教育学の周辺領域であるが, 受講した院生の多くが, 授業内容を「教師の専門性が高められるものであった」と評価し, 「授業に主体的・積極的に取り組んだ」という点が良かった点である。コメントの中でも「どの回の授業も真剣に考えなければならぬ内容で, 難しい課題だったが, 深く考えた」「グループで話し合う前に自分で調べたり考えたりして話し合いに臨むことができた」といった記述があった。一方, 授業の進め方等詳細に見ていくと, 改善の余地が残る部分もある。とりわけ, 授業の進む速さについては, 他の項目よりは少し低い評価となっている。8時間(1単位)の授業の中で, 必要なトピックスを盛り込もうとした結果, かけ足になることもあり, そのことが進む速さに対する評価に影響を及ぼしたと考える。次年度以降, 授業で扱うテーマと内容, ボリュームについての検討が必要である。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

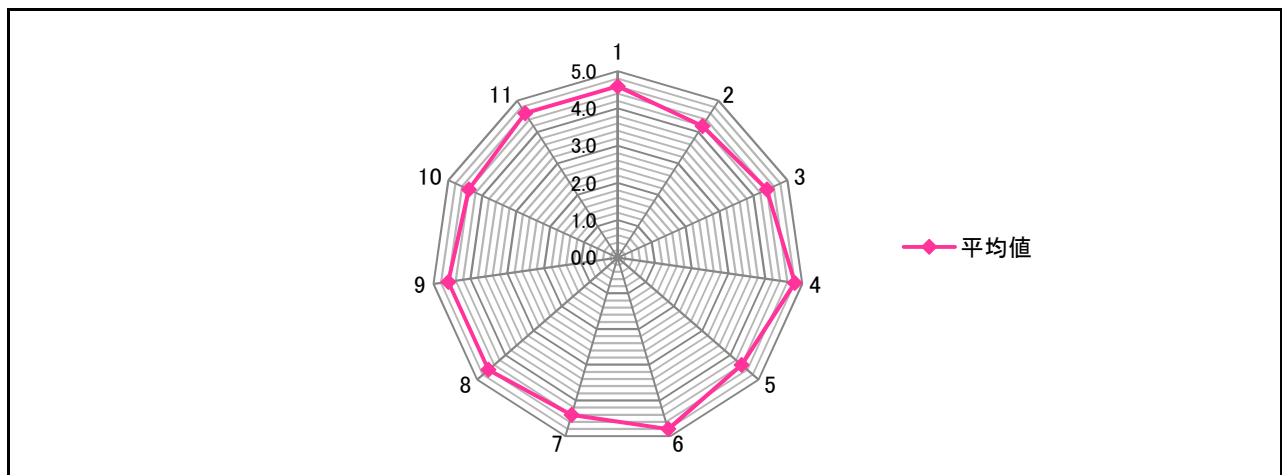
評価実施日 令和 元 年 11 月 28 日

授業科目名	家庭教育支援演習	
授業区分	専門科目	回答者数 5名
担当教員名	木村直子	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	2					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	2	1				4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	1	1				4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	3					4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1	1				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	2					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4			1			4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4		1				4.6
12								
13								



<分析>

今年度より新たにはじまった授業であり、授業者としても戸惑いも多かった。不慣れな教室と、授業の順番(演習と講義の順番)のあべこべさ、受講者数と授業内容など、十分考慮できていない部分もあった。そのような中での授業であったため、少ない受講者の中にも、満足感を得られなかった受講生もあり、不十分な点があったと反省する。院生からのコメントにおいては、「演習がたくさんできたこと」「自分自身が問題意識をもってできた」「他者の意見を受けてさらに自分の考えを深められた」「しっかりと自分で考えることのできる授業内容だった」と肯定的な評価が多いが、次年度以降、シラバスの内容を踏まえつつ、受講者の人数や関心を踏まえて、授業内容を柔軟に再構成し、十分なオリエンテーションを行うことで、受講者の実践力や専門性の向上に資するように心がけたい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

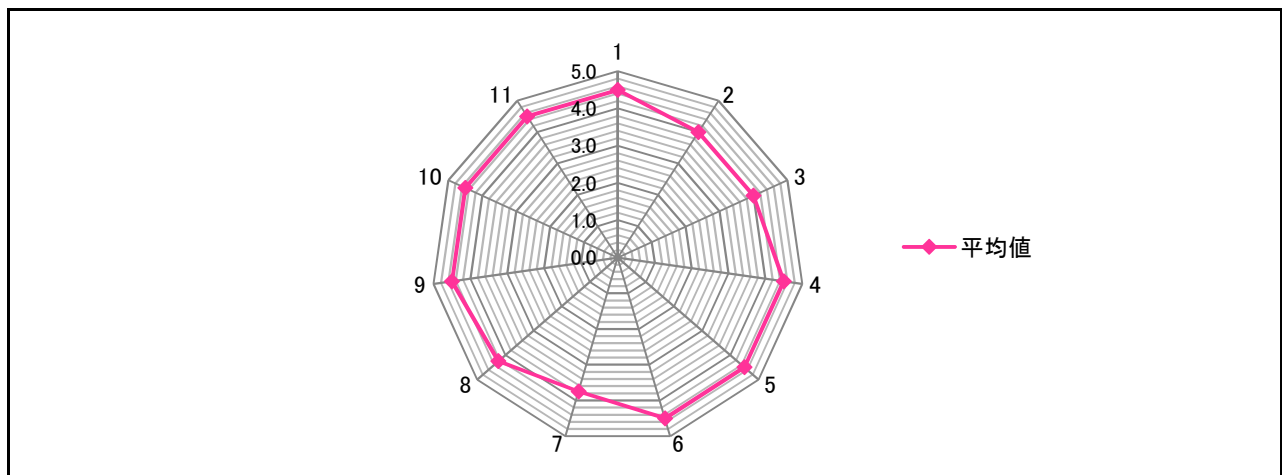
評価実施日 令和 元 年 11 月 26 日

授業科目名	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインA		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	大谷博俊		

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	2					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	2	1				4.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	1	2	1				4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	2					4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。		3	1				3.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	1	1				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	2					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	2					4.5
12								
13								



### <分析>

受講者の半数が「5」という明確に肯定的な評価をし、残る受講者もそれに次ぐ「4」という評価をしているのは、設問 I の項目 1、4～6、9～11 であり、項目の 60% を越えている。本授業の計画、授業方法、授業の成果、受講者の満足感や学びの発展への誘導等は、概ね良好であったと考えられる。

一方、設問 I の項目 7 を見ると、授業の進度については、明確な肯定的評価が選択されておらず、11 項目中最も低い平均値となっている。設問 II 以降の回答に、その根拠は認められないが、1 単位 8 コマの授業であることから、課題の難易度や分量等について、検討の余地があるかもしれない。次年度の課題としたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

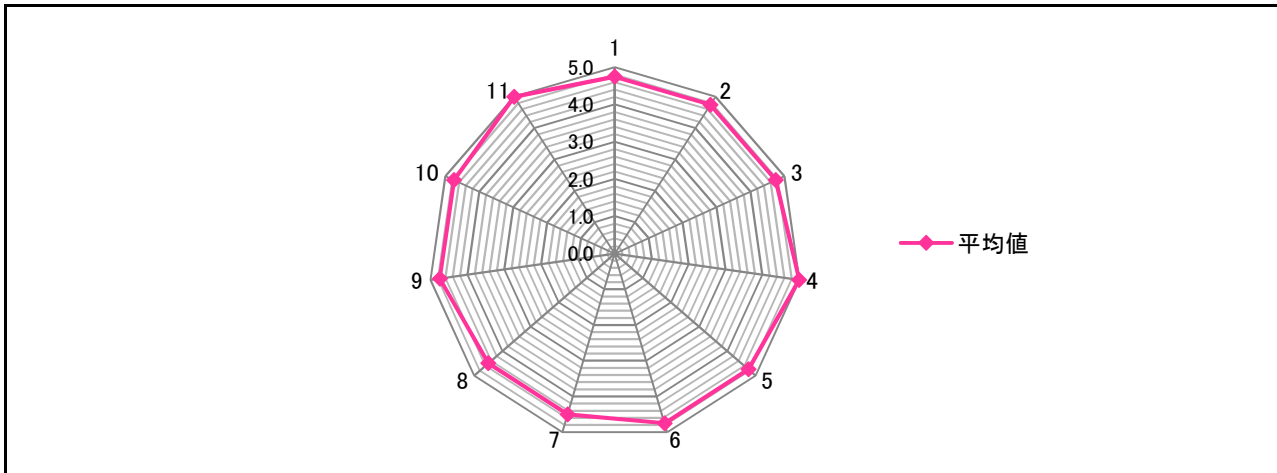
評価実施日 令和 2 年 2 月 20 日

授業科目名	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインB		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	大谷博俊		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	2					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0
12								
13								



<分析>

設問 I の項目 4、および項目 11 では、受講者全員が「5」という明確な肯定的評価が認められた。本授業は、受講者の教員としての専門性を高めるために、そして、学びの進展への誘導という点において、非常に効果的であったと考えられる。また、設問 I の他の項目に対する回答を見ても、全てが「4」以上となっていることから、総じて受講者の本授業に対する評価は高く、肯定的に受け止められていると考えられる。設問 II の回答には「話し合いからの学び」「実践と共に執筆した学術論文」などが挙がっており、本授業において、理論と実践の往還がある程度実現されていたことが伺える。次年度の授業計画、授業方法等に活かしていきたい。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

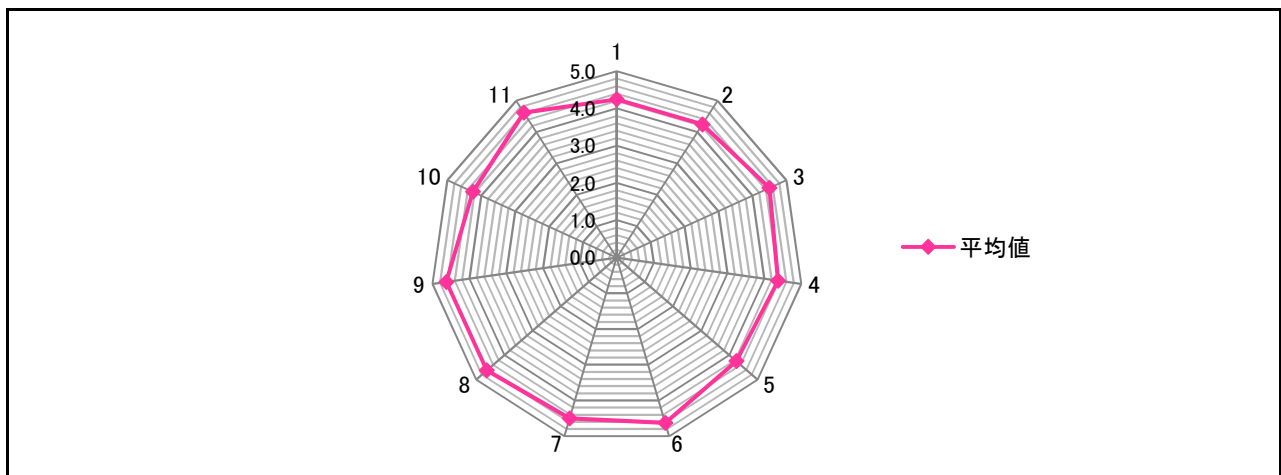
評価実施日 令和元年11月27日

授業科目名	特別支援教育における心理行動支援A	
授業区分	専門科目	回答者数 8名
担当教員名	高原光恵	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	4	1				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	4	1				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	4					4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	3	1				4.4
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	4	1				4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	3					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	5	2	1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	3					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	4	1				4.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	3					4.6
12								
13								



<分析>

評価の平均値は、各項目4点台であり、おおむね肯定的であった。しかしながら、約半数の項目で「どちらともいえない」の選択もみられたことから、各項目で示される授業意図についてより丁寧に、わかりやすく伝える工夫も必要と思われる。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

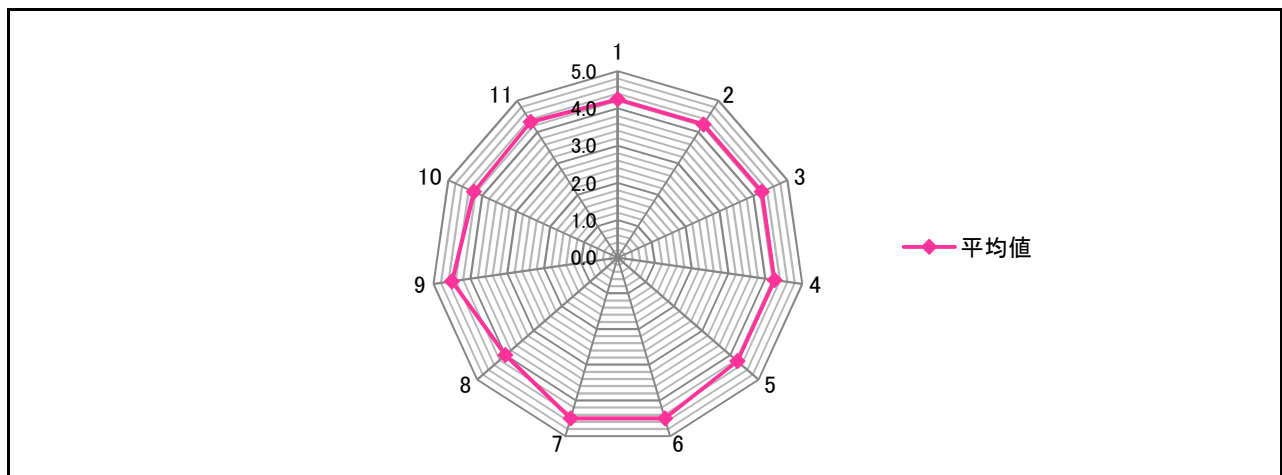
評価実施日 令和 元 年 11 月 28 日

授業科目名	特別支援教育における医療・教育の連携A		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	伊藤弘道, 井上とも子		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	1	3					4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	3					4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	1	3					4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	1	3					4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	1	3					4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	2	1				4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	1	3					4.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	1	2				1	4.3
12								
13								



<分析>

本授業の目的であるが、発達障害児、病弱児、肢体不自由児など特別支援教育の対象となる児について、主として医療の観点から、テーマを毎回決め、少人数のグループにて文献研究を行い、この分野の研究について理解を深め、あわせて、プレゼンテーション、討論などを実践することにより、特別支援教育の対象児に対する医療的観点からのより深い理解をすすめることである。発表にやや負担を感じる学生もいたようであるが、各学生が授業で発表し討論することにより、各テーマ毎の理解をより深めることができたのではないかと考える。今後とも授業の内容、方法について改善を行っていく予定である。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

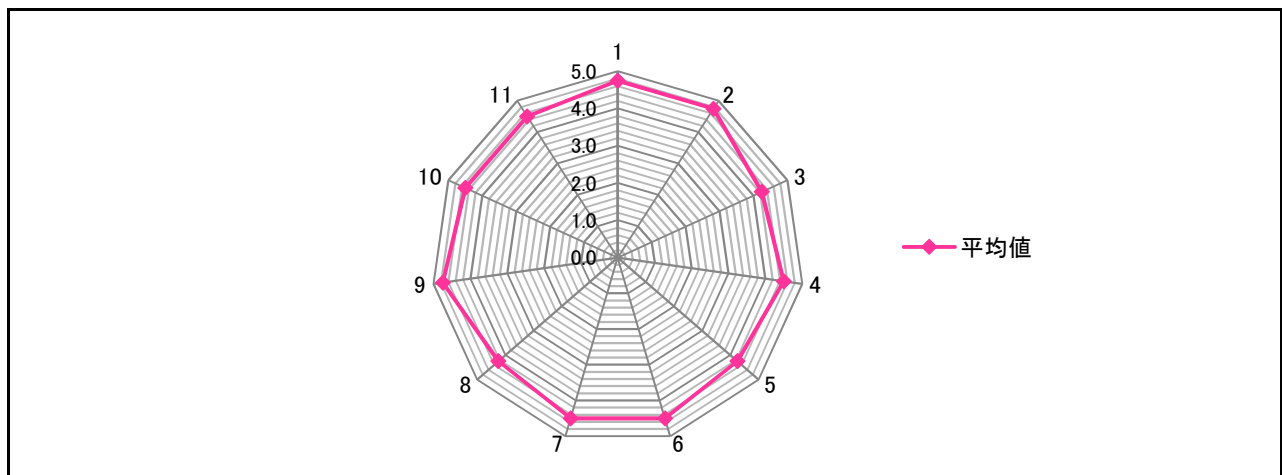
評価実施日 令和 2 年 2 月 14 日

授業科目名	特別支援教育における医療・教育の連携B		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	伊藤弘道, 井上とも子		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	1	1				4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	1	1				4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	1	1				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	2					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	2					4.5
12								
13								



<分析>

本授業の目的であるが、発達障害児、病弱児、肢体不自由児など特別支援教育の対象となる児について、主として医療・教育の連携の観点から、テーマを毎回決め、少人数のグループにて文献研究を行い、この分野の研究について理解を深め、あわせて、プレゼンテーション、討論などを実践することにより、特別支援教育の対象児に対する医療・教育の連携の観点も踏まえたより深い理解をすすめることである。各学生が授業で発表し討論することにより、各テーマ毎の理解をより深めることができたのではないかと考える。今後とも授業の内容、方法について改善を行っていく予定である。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

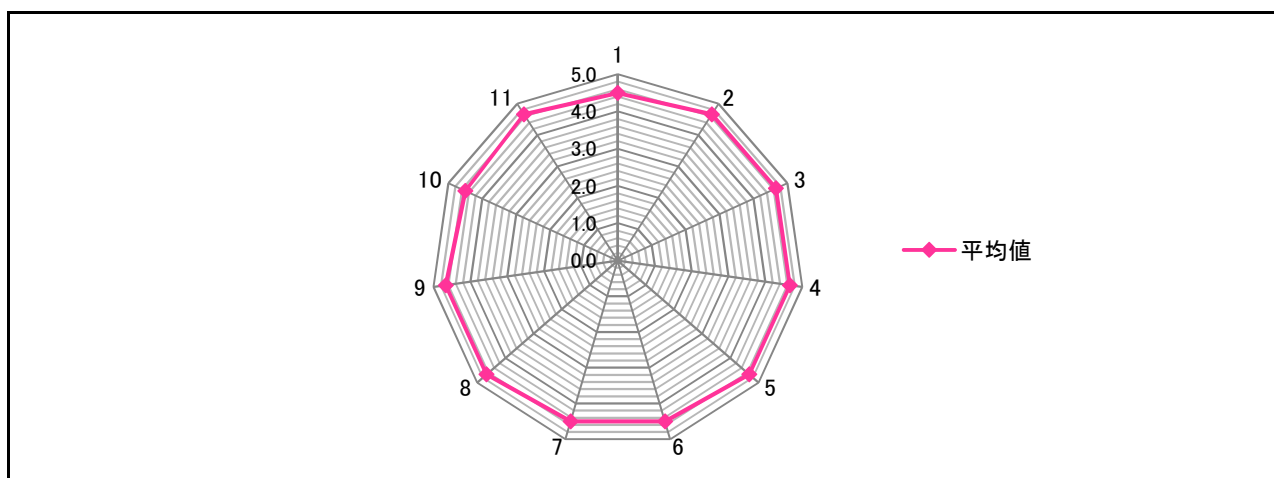
評価実施日 令和 元 年 12 月 5 日

授業科目名	特別支援教育における心理学・教育学の連携A				
授業区分	専門 科目	回答者数	6 名		
担当教員名	島田恭仁				

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1	1				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	2					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	2					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	2					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	2					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	3					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	2					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	3					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	2					4.7
12								
13								



## <分 析>

11項目中7項目で4.7の高い評定値になり、全体の評定値平均も4.63という、高い結果だった。

項目(2)と(3)で受講生全員が5または4の評定を行い、いずれも4.7の高い評定値が得られたことから、「授業はシラバスの主旨に沿って適切で、内容が分かりやすかった」と感じた学生が多かったことが分かった。今年度から初めて開講される科目であったため、授業の冒頭で、特にシラバスの説明を詳しく行ったことが有効だったと思われる。

項目(4)と(5)でも、全員が5または4の評定を行い、いずれも4.7の高い評定値であったことから、「授業の内容は教師の専門性と実践力の育成につながるものだった」と感じた学生が多かったことが分かった。少人数でロールプレーをしながら、検査の実施・集計・解釈と個別指導計画の立案を行う演習を主体にし、児童のアセスメントと指導に関する専門性と実践力を体験的に学習できるようにしたことが、功を奏したと思われる。

また、項目(8)(9)(11)で、全員が5または4の評定を行い、いずれも4.7の高い評定であったことから、「資料・課題・レポートは適切であり、授業に主体的・積極的に取り組んで、もっと学びを広げたいと思った」と答えた学生が多かったと言える。記述回答を見ると「検査器具を実際に扱えたことが良かった」という回答が多く見られたことから、検査器具を教材に用いたことで、資料・課題・レポートの内容を分かりやすく説明でき、主体的・積極的に取り組んで、さらに学びを広げたいと思う学生の意欲を喚起できたのだと考えられる。

以上の諸点から、次年度も今年度と同様の方法を踏襲することにしたい。ただ、1単位8コマの短い授業であるため、「アセスメントの時間・割合がもう少し増えたほうが良い」という記述回答も見られた。次年度は、授業時間以外にグループワークを行う時間を設け、準備学習を充実させることで、より一層満足度の高い授業にしたい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

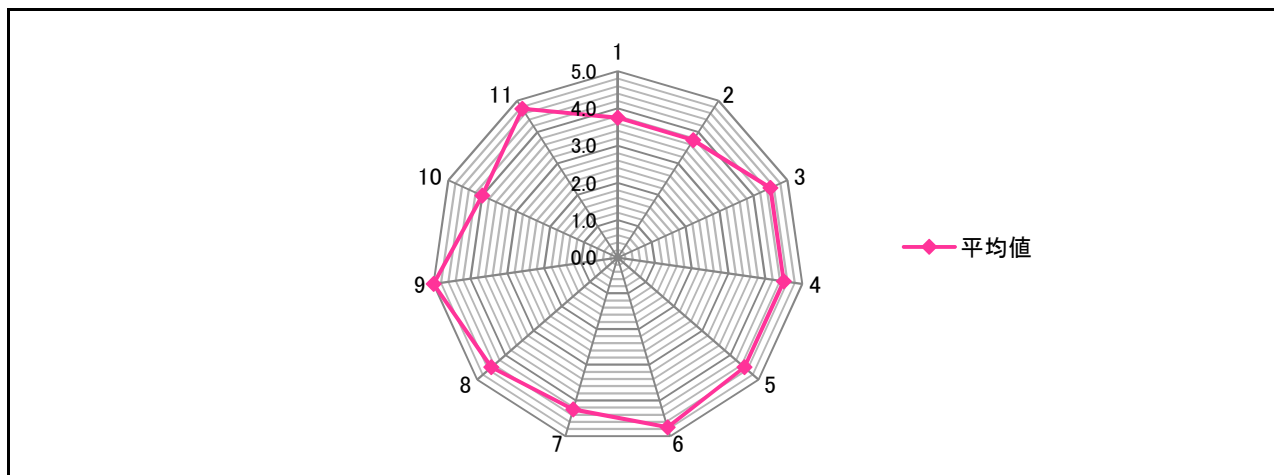
評価実施日 令和 2 年 2 月 20 日

授業科目名	特別支援教育における心理学・教育学の連携B	
授業区分	専門科目	回答者数 4名
担当教員名	島田恭仁, 井上とも子	

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	1			1		3.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	1			1		3.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	2					4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	2					4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3		1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	1		1			4.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8
12								
13								



## <分析>

11項目中7項目で4.5以上の高い評定値になり、全体の評定値平均も4.41という、高い結果だった。

項目(6)(9)(11)では受講生全員が5または4の評定を行い、いずれも4.8以上の高い評定値になったことから、「授業ではアクティブ・ラーニングが実施され、主体的・積極的に取り組んで、もっと学びを広げたいと思うようになった」と答えた学生が多いことが分かった。記述回答を見ると「検査を実施しただけでなく、指導計画まで考えることができ良かった」という回答が見られたことから、グループワークで検査結果と指導法との関連について話し合う機会を提供したことで、個別指導計画の立案のし方を詳しく説明でき、主体的・積極的に取り組んで、学びをさらに広げてゆきたいと思う意欲を喚起できたと考えられる。

項目(3)(4)(5)でも、全員が5または4の評定を行い、いずれも4.5の高い評定値であったことから、「授業の内容は分かりやすく、教師の専門性と実践力の育成につながるものだった」と感じた学生が多かったことが分かった。グループの1人が小学校3年生の子ども役を、別の1人が教師役を演じて検査場面のロールプレーをし、検査の実施・集計・解釈に関する体験学習を行ったことが、学生の専門性と実践力の向上に功を奏したと思われる。また、項目(8)も4.5の評定値であったことから、授業の資料・課題・レポートはほぼ適切だったと言える。

以上の諸点から、次年度も今年度と同様の方法を踏襲することにしたい。ただ、項目(1)と(2)で評定値が比較的低く、シラバスが理解しにくいと感じた学生もいることが分かった。教員2人によるオムニバスの授業であったため、シラバスや授業内容の一貫性に欠ける点があったことは否定できない。次年度には担当者間で、心理学的指導法と教育学的指導法の連携・融合について、さらに意思統一を深めるようにしたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

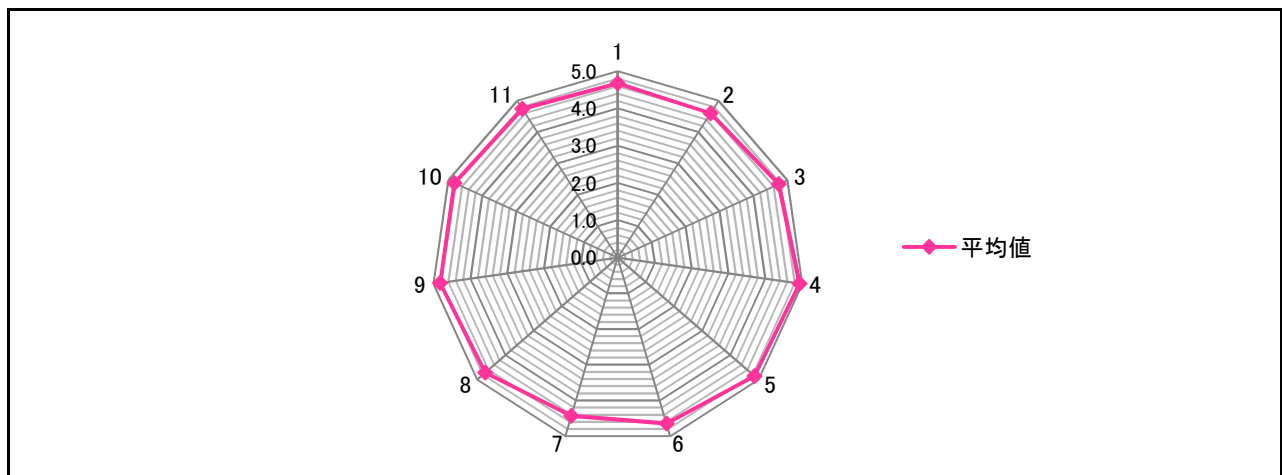
評価実施日 令和元年6月6日

授業科目名	リーダーシップとコミュニケーション	
授業区分	専門科目	回答者数 28名
担当教員名	前田洋一	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	20	7	1				4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	20	5	3				4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	22	5	1				4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	26	2					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	24	4					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	22	2	4				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	15	10	3				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	23	3	1	1			4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	5					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	24	3	1				4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	23	4		1			4.8
12								
13								



<分析>

本授業は、院生が修了後にスクールリーダーとしての機能を発揮できるよう、能力形成を目標としたものである。ほとんどの項目の平均値が4.4点以上であり、受講生の満足度がうかがえる。  
 評価項目4「専門性」、評価項目6「実践力」、評価項目9「積極性」、評価項目10「満足感」、評価項目11「もっと学びを広げたり深めたりしたい」など本授業の目的と合致した評価項目に関して、評価「5」を与えている受講生がほとんどであることから授業の目的を達成することができていると考えることができる。  
 ただし、本授業は旧カリの「同僚性とリーダーシップ」の授業の改正版であり、これまで、現職院生を対象に行っていたものを、現職院生以外にも解放したものである。その結果、教職経験のない受講生には経験不足から、理解が難しい部分もあったと考えられる。今後は、その点を踏まえて授業を進めたいと考える。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

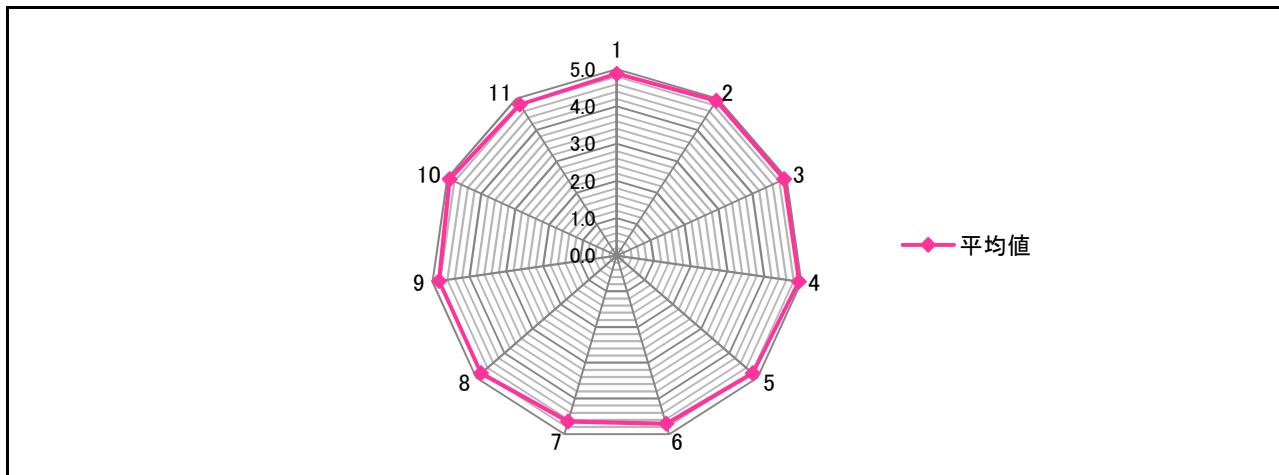
評価実施日 令和 2 年 2 月 4 日

授業科目名	地域の教育課題と教育行政の実務	
授業区分	専門科目	回答者数 17名
担当教員名	藤井伊佐子, 前田洋一, 栗洲敬司	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	15	2					4.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	16	1					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	16	1					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	16	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	14	3					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	13	3	1				4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	12	4	1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	14	3					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	3					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	16	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	14	3					4.8
12								
13								



<分析>

各項目の5件法の評価の平均値は4.6~4.9であり、履修者17名の内10名が11項目全てを積極的肯定の評価「5」とするなど、学生による授業評価は高い。シラバスに沿って教師としての専門性が高められる授業が実施できたと考える。

一方、一人の学生が2項目に「3:どちらともいえない」と評価し、11項目平均でも4.1の評価をつけていたことからアンケートの自由記述に注目した。しかしながら、そこには「県議会や教育委員会の見学が良かった。学校でいるだけでは学べないことが学べて良かった。内容が良かったので楽しく学べた。」とあった。

以下に示す他の学生の自由記述や、前述の学生の自由記述からも鑑みて、次年度も基本的にはこのシラバスに沿った内容で進め、アクティブラーニングや授業の進度に改善を加えて実施していきたいと考える。

【自由記述】

- ・法令のことや教育委員会(行政)のことを、普段知ること知らうとすることもなかったので、今回の学びでたくさん知ることができて良かった。行政の方も立場は違うが、同じ教育を推進する仲間として協力・連携が必要であり、県教育レベルを上げていくようにしていく必要があると感じた。
- ・実際の事例を紹介していただいたり、教育委員会の見学に行くことができたことが良かった。今まで考えてこなかった「行政」「予算」ということについても考えることができた。
- ・今までお金のことを考えていなかった、勝手だったと反省。フィールドワークなどあり、学びが深かった。
- ・課題に対して、グループで意見を出し合ったり、考えて交流することができた。
- ・自分がまだ現場に出ていないこともあり、少し実感が湧かない部分もあったが、周りの先生方やそれらを見てきた教授方の話を聞くことで教員になってからどんな問題にぶつかるのか、いまだどんな問題を抱えているのかが分かったので、何も知らないでいくよりもいい体験ができた。教育委員会に実際に見に行けたので、学校のきまりの裏側をみられて楽しかった。
- ・主体的に参加しやすい状況を、授業内で先生方がつくってくださっていたので大変ありがたかったです。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

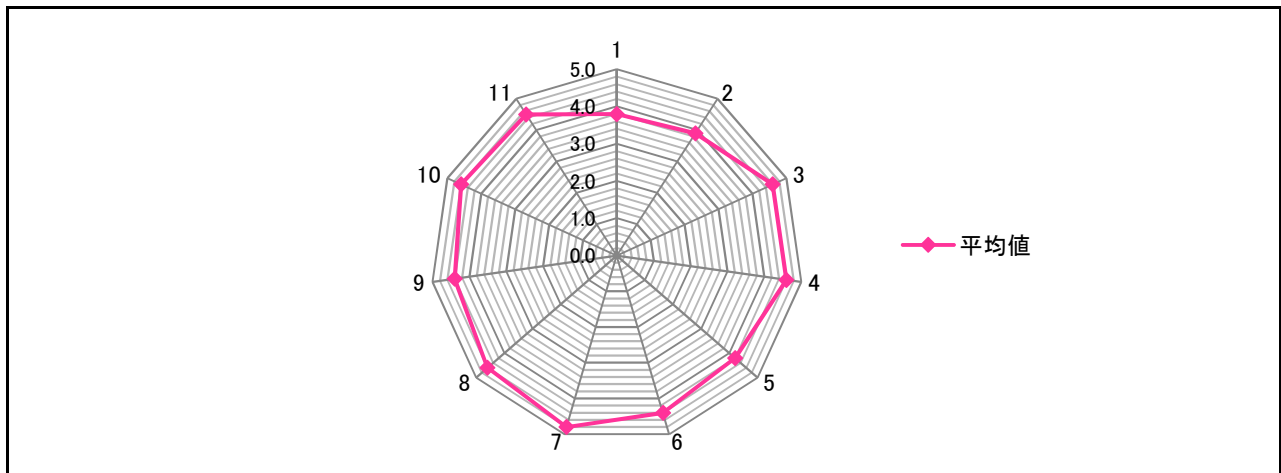
評価実施日 令和元年6月4日

授業科目名	教育法規実践演習		
授業区分	専門科目	回答者数	10名
担当教員名	石村雅雄		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	4	1	2			3.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1	2	2			3.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6	4					4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6	4					4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	4	2				4.2
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	2	2				4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	8	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	4					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	1				4.4
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6	4					4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	5					4.5
12		6	4					4.6
13		5	4	1				4.4



<分析>

本授業の特性は、法規という大きな分野について、いかに受講生の文脈に応じて、対象を見つけ、分析していくかということであった。この点、自由記述にあり、授業をしていても、確かに手応えを得ることが出来た。4から11までの回答はまさにこれを裏付けるものであると考える。しかし、1及び2については、事前にシラバスで内容を提示するという形は取りにくく、仕方がないものであったと考えている。シラバスに縛られると、受講生の文脈を飛ばして一方的に授業を展開せざるを得ず、本授業の特性を失わしめてしまう。半期で、かつ演習という形のこの種の授業では、シラバスのあり方を再考してほしい。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

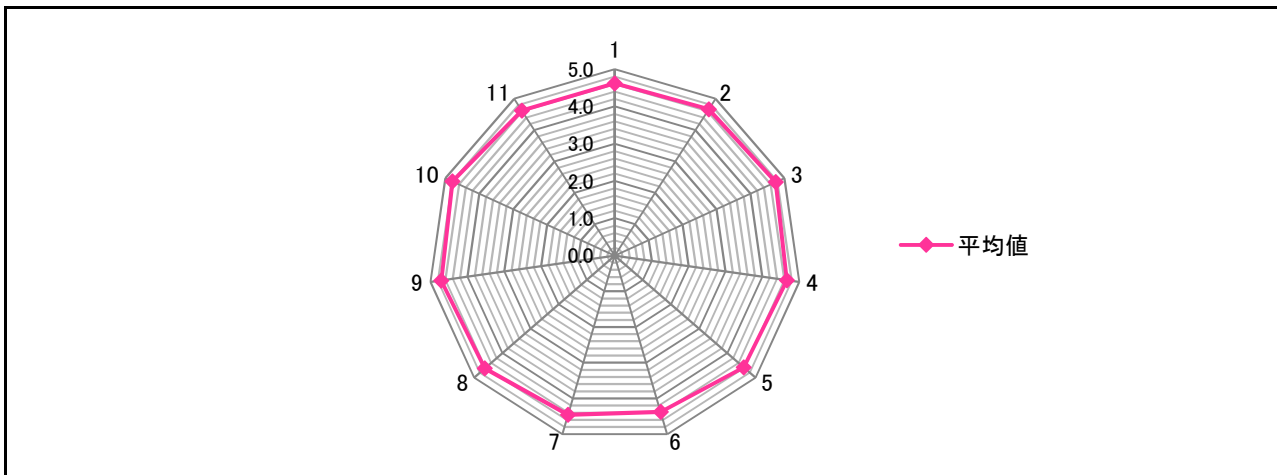
評価実施日 令和元年6月4日

授業科目名	学校危機管理の実践	
授業区分	専門科目	回答者数 24名
担当教員名	阪根健二	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	16	7	1				4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	18	4	2				4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	19	4	1				4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	19	3	1	1			4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	17	5	1	1			4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	13	7	4				4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	16	5	1	2			4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	17	5	2				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	2	1	1			4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	20	3	1				4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	17	5	2				4.6
12		9	8	7				4.1
13		15	7	1	1			4.5



<分析>

総じて高い評価であり, 現職院生にとって, 一定の満足感を得たものであろう。その中で, 特に高い評価が得られたのは, (2), (4), (9), (10)の項目であり, これはシラバスや到達目標などの授業構成や, 現場に生かすという内容という点であり, 十分に目標が達成できたものと思われる。受講生自身の授業態度も良好で, 授業への満足感や今後への期待と結びついていたためだと思われる。

自由記述からは, 「危機管理について, この授業を受ける前は何となく起きた時にどう対応するかを学ぶのかなと思っていて, 起こらないようにするため, どう考えてどう対策しておくかだということが分かった。現在の自分に出来ることから取り組みたいと思う。», あるいは「具体的なSHELLモデル分析, 法律に基づく講義と, 視野が広がり, 資料も豊富でよかった。», 「大阪教育大学附属池田小学校事件の話など具体例がたくさんあってイメージが持ちやすく, 危機管理意識の甘さに気付かされた。知らない情報・視点に気付くことができた。」等と, これまで危機管理にやや距離を感じていたが, 現在の学校現場に照らし合わせてみると, 身近な問題であることに気づいたようである。ここに大きな成果があった。特に, 資料提示等に工夫を重ねており, 演習を多く盛り込んだことが有意義であったと思われる。

ただ, 時間が少ないことで, やや説明不足になったり, 駆け足になったりしたことが, 反省点である。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

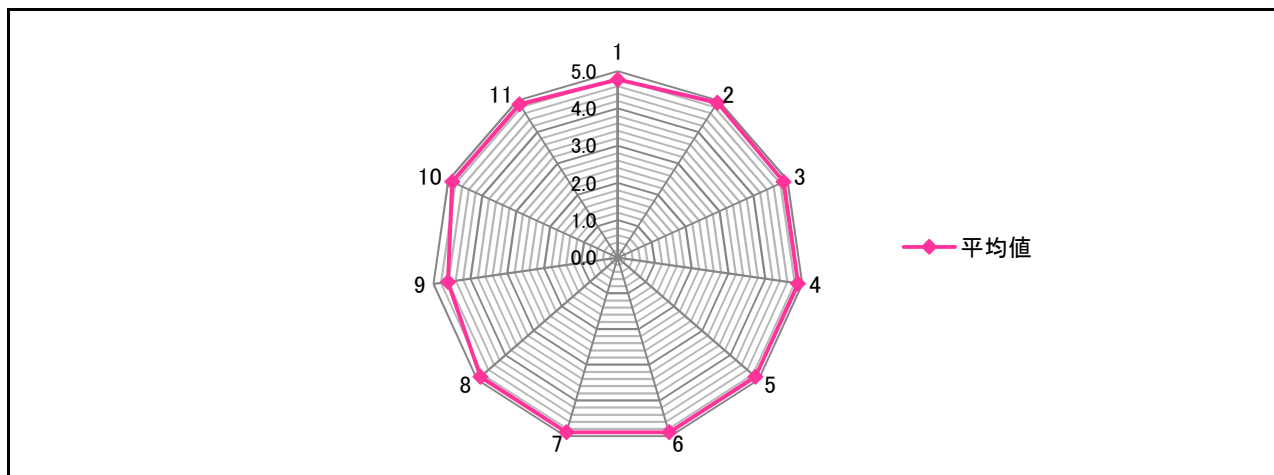
評価実施日 令和元年11月22日

授業科目名	学校防災教育の開発	
授業区分	専門科目	回答者数 18名
担当教員名	阪根健二	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	14	4					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	17	1					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	16	2					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	16	2					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	16	2					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	16	2					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	16	2					4.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	16	2					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	7					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	16	2					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	16	2					4.9
12								
13								



<分析>

総じて高い評価が得られた。遠隔システムを活用し、愛媛大学教職大学院と接続した形態での授業であったことから、授業手法に制約があり、その点を勘案しても、当初の目的はほぼ達成できたものと思われる。ただ今回の授業は、「防災・減災」という専門性が高い内容のため、講義形式が主となっており、その点で、「主体性や積極性」という項目は低くなったものと思われる。自由筆記の中にも、「もっと交流したかった」、あるいは「演習の評価がもっと欲しかった」という指摘もあり、これについては今後の工夫が必要であると考えている。また、動画配信が必要な内容が多く、この点では資料共有対応が難しく、今回はスクリーンをそのままカメラで写すという手法で行ったが、その結果、鮮明さに欠けた点に注文がついている。また、講師への照明の問題も課題となった。こうした点は、次年度には改善していく方針で対応したい。いずれにしても、今日的な課題について、使命感をもって取り組んでくれたのではないかと考えている。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

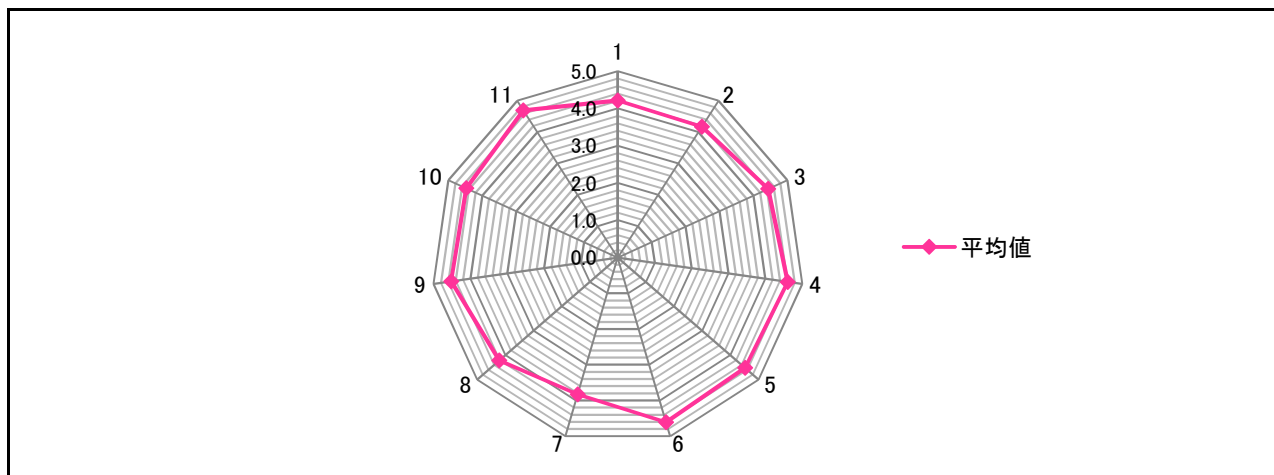
評価実施日 令和 元 年 6 月 1 日

授業科目名	学校におけるカリキュラムマネジメントの推進	
授業区分	専門科目	回答者数 23 名
担当教員名	村川雅弘	

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	8	12	3				4.2
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9	10	3	1			4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	14	6	2	1			4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	16	6		1			4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	14	8		1			4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	16	5	2				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	6	9	6	2			3.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	9	11	2	1			4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	6	1	1			4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	12	10	1				4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	17	5	1				4.7
12								
13								



## <分析>

全体的には、高い評価を得ている。「具体的な方法や手順が理解できた」「これからの自分の実践と関連付けて考えることができた」「様々な実践校の取組を知りヒントをたくさんいただいた」「実習にむけて何をすべきか、どんな手法を取るべきか、ヒントがたくさん見つかった」「他の人と調べたことを確認し合ったり議論できた」「事例をカリマネ分析しとことが勉強になった」などのコメントが多かった。理論面の理解を深めるために小中高の実践事例を多く取り入れたこと、置籍校等の具体事例を習得した知識や技能を活用して分析させたこと、学卒と現職を混合して協働的な学習を取り入れたことは有効だったと考える。しかし、項目7の授業の進度に関しては、平均3.8であった。概ね、分かりやすかったとのコメントをいただいているが、「もう少し説明していただける時間があればよかった」「少し進度が速く、付いていくのが精いっぱい部分があった」「時間的な余裕がもう少しあればよかった」という意見もある。全体的に足早に進めた感がある。カリキュラム・マネジメントは新しい概念であり、守備範囲が広く、現職教員でも理解が困難とされている。また、受講生は小・中・高と多様であるが、各校種にあった事例紹介も必要である。特に、学卒院生にとっては難解であったと考えられる。せめて従来のように学卒院生と現職院生とを分けて講義を行うことが必要と考える。ただし、現職院生と一緒に学ぶよさを述べている学卒院生も存在し、また、「学卒への課題のフォローがあったのがよかった」という意見もあった。また、各校においてカリキュラム・マネジメントを実現する上で校内研修が重要であるために「ワークショップ型研修」と関連させて説明することが多かった。この科目を受講する上での条件にすることが求められる。なお、教室の機器トラブル(遠隔授業の設定)があったので、土曜日ということもあり、事務の方に事前のチェックをお願いしたい。

## 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

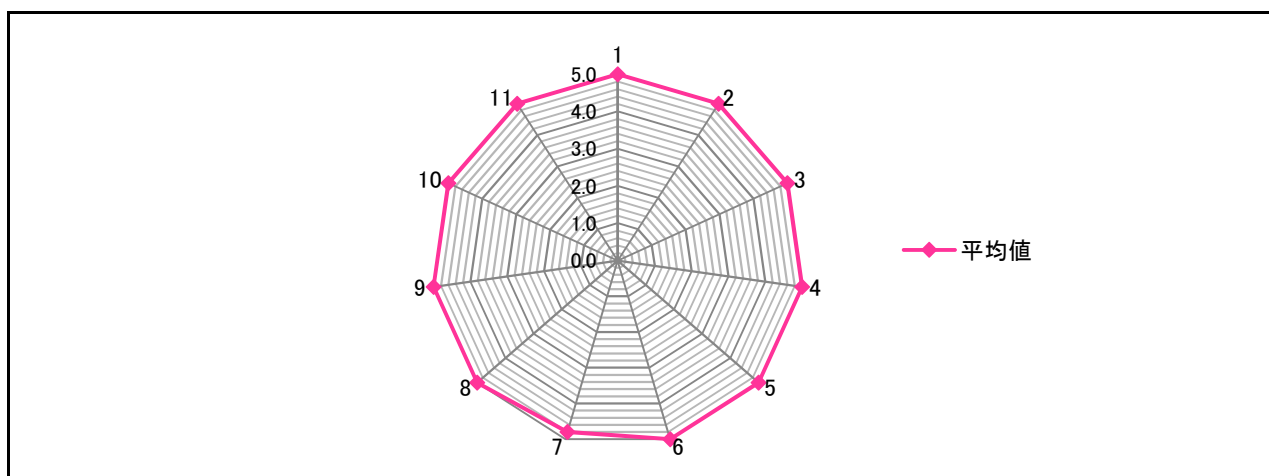
評価実施日 令和 元 年 11 月 29 日

授業科目名	家庭・地域・学校の連携構築				
授業区分	専門科目	回答者数	5名		
担当教員名	大林正史				

### 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5						5.0
12								
13								



### <分 析>

各項目の平均値は4.8~5.0であり、授業の目的はかなりの程度達成されたと考える。

本授業では、事前に、私自身が読んで面白かった各授業のテーマに関する文献を読んでもらい、ミニレポートを事前にも書いてもらっている。授業では、院生は、ミニレポートをもとに、小グループで、簡単なディスカッションを行い、発表している。その後、私がテーマについて、発表を踏まえて解説を行い、最後に院生は、コメントカードに、授業についての質問や意見を書いている。そして、翌週の最初に、コメントカードについて、私が言及するという流れで授業を行っている。

上記の学習過程により、現職院生は、自身の経験と、他者の経験、文献の記述内容を自分なりに結びつけて認識するようになったことがうかがえた。その上で、本授業の最後に、院生は、それまでの学習を踏まえ、置籍校の地域連携の改善プランを立案し、発表することを通して、学術上の理論と、各院生の今後の実践を結びつけて認識するようになっていたように思われる。

これらのことは、本授業の意図するところである。アンケート結果から、この過程での学習による教育効果は、少なくないことがわかる。そのため、次年度も、この基本的な学習過程を踏襲したいと考えている。

また、本年度の本授業では、愛媛大学の教職大学院の現職院生も、遠隔教育システムで受講していただいた。愛媛側と、鳴門側の発表の内容は、視点が異なることもしばしばあり、そのことが、両側の院生のよい学習につながったのではないかと考えている。

次年度については、院生に読んでいただく文献の再検討を行い、さらなる学修効果の充実を図りたい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

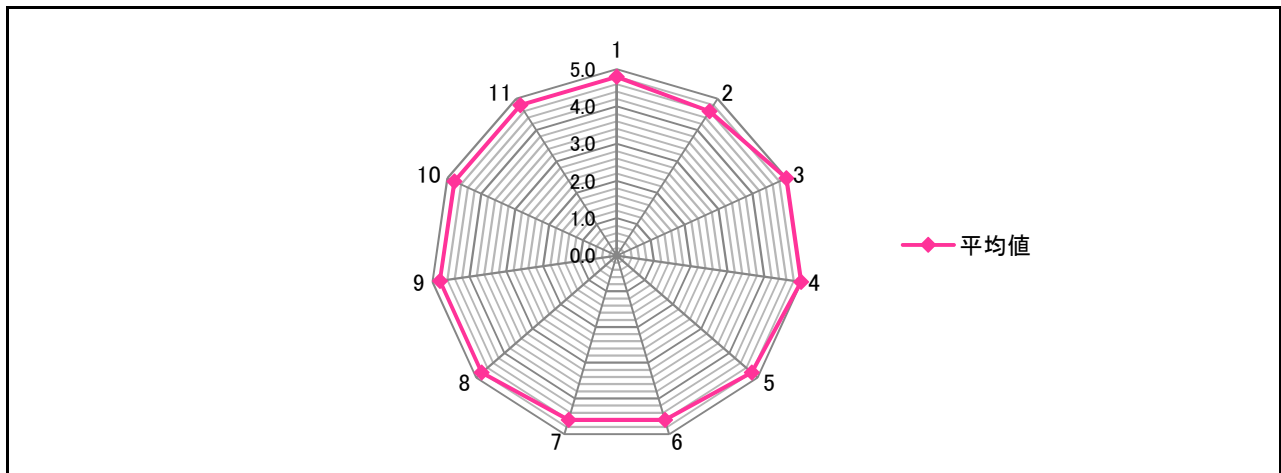
評価実施日 令和 2 年 2 月 14 日

授業科目名	学校ビジョンの構築と教職員の組織化				
授業区分	専門科目	回答者数	5名		
担当教員名	久我直人				

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	2					4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	2					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	3	2					4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8
12								
13								



### <分析>

全ての項目で高い評価を得ることができた(全ての項目が4.6以上であった)。  
 その理由として、学校組織マネジメントにかかる実践事例を多く取り上げると共に、事例に内包される教育理論を可視化し、組織化しにくい学校の組織化のメカニズムを理論的に組み上げる思考を促したことが、受講者の理解と納得につながったと考える。  
 さらに、学校ビジョンの形成等、具体的なマネジメントの手続きについて、事例を用いて講義することで受講者の学びにつながったと考える。  
 また、今日的な課題である働き方改革のあり方と学校組織マネジメントの関係を構造的に講義したことも受講者の理解を深めることに繋がったと捉える。  
 一方、授業方法において、事例に対する受講者の質問に答える等、応答的なやりとりの中で授業を展開したが、さらに、具体的な作業課題を設定したグループワーク等を通して、院生同士の交流の場を多く設定することを次年度への課題とする。  
 今後、授業展開にかかる時間配分等について再検討し、次年度の授業設計に生かしたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

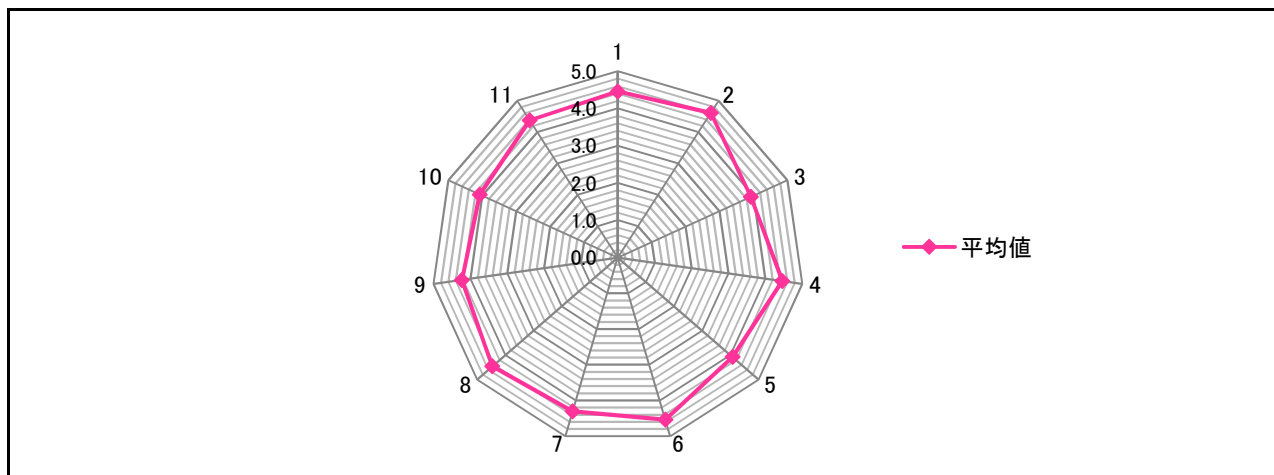
評価実施日 令和元年8月6日

授業科目名	教職員の人材育成と校内研修	
授業区分	専門科目	回答者数 13名
担当教員名	芝山明義	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	7					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	5					4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	7		1	1		3.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	8	3	2				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	7	1	1			4.1
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	4	1				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	6	5	2				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	5	1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5	1	1			4.2
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	6	1		1		4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	3	1	1			4.4
12								
13								



<分析>

全体として各項目の平均値は3.9~4.6の範囲にあり, 11項目中10項目で平均値が4.0以上と, 比較的高い評価を得ることができたと受け止められる。ただし, 11項目中5項目でマイナスの評価, ならびに8項目で中間的な評価が示された。

授業の内容については, 主として「講義」では教職員の人材育成と教員の専門性及びその教員研修との関連の考察, 校内研修の計画と運営の前提としての校内研修の意義や今日的課題の検討と理解を, さらにそれらを基盤として, 主として「演習」(グループ討議等)では教職員の必要性に対応しかつ有効な校内研修のあり方の提案, 各現職院生の現任校園等を事例とした現状の検討を, 受講生に求めた。授業の手続については, アクティブ・ラーニングを考慮した授業展開を工夫し, 「演習」とともに「講義」においても質疑を導入した授業の構成・進め方をめざした。これらの内容と手続から, 全体をとおして受講生には従来の校内研修の捉え直しを促し, 現職院生には現職経験(現任校園等の種別, 教職経験年数や担当・専門教科, 勤務してきた校園等の特性や担当した校務分掌等のキャリア等)の振り返り等によっても, 人材育成の必要性と課題の理解や校内研修の実践への活用への可能性・展望につながったと考えられる。

ただし, 本授業の受講生には現職院生とともに学卒院生もいること, 現職院生についても現職経験の差異を背景とした個別の課題意識が多様であること等から, これらに関連する課題として, 「講義」の内容とりわけ理論的検討とその実践との関連について, 各受講生の理解の水準や範囲, 実践との関連づけの必要性や期待等への配慮と対応が十分でなかったこと, また「講義」の展開・進め方では配付資料の使い方やプレゼンテーションとの対応等への配慮が行き届かなかったこと等が, 上記のマイナス/中間的な評価に示されたと考えられる。

以上の検討をふまえて, 実践力の育成によりつながるように, 受講生にとって十分に理解しやすく満足感の得られる授業の内容や展開をきめ細かく検討して対応を考えるとともに, プレゼンテーション等の授業方法や資料の構成・活用等についてもさらに改善・工夫に努めたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

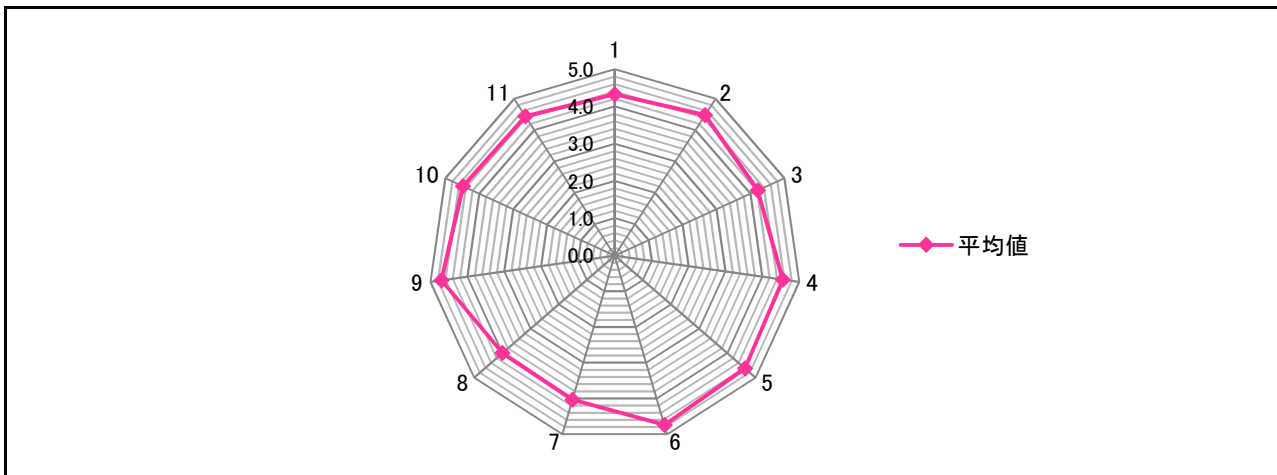
評価実施日 令和 2 年 2 月 20 日

授業科目名	子ども理解と支援	
授業区分	専門科目	回答者数 27 名
担当教員名	末内佳代, 池田誠喜	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	15	8	2	2			4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	17	6	4				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	14	7	5		1		4.2
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	17	9		1			4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	19	7		1			4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	21	5	1				4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	13	6	5	2	1		4.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	13	7	3	2	2		4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	8					4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	17	7	2	1			4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	16	8	2	1			4.4
12								
13								



<分析>

11の質問項目の平均値は4.4であった。  
 特に, 専門性の獲得を問う質問項目<4教師の専門性を高められる内容>と, 実践での活用を問う質問項目 <5実践力の育成につながる>では, 平均値4.6という結果を得られており, 到達目標である, 「通常学級における, 支援を必要とする児童生徒の可能性に光を当てた, 授業改善に関する知識と技能の習得」は, 概ね達成されたものと思われる。  
 演習形式の授業を展開する中で受講生の主体的・対話的で深い学びを目指した。それを問う質問項目<6アクティブラーニングの実施>と質問項目<9主体的・積極的な取組>は平均値4.7という結果を得られたことや自由記述からも, 学部卒学生と現職学生の異年齢交流が活発に行われ, ねらい通りの授業であったことが明らかである。  
 実践事例の関する計画, プレーゼンテーション, 期待される成果と課題の検討と盛りだくさんの授業内容であったために, 質問項目<7授業の進む速さ>, <8授業で示された課題の量>が課題として挙げられる。平均値は4.0であった。次年度は今年度の成果物の提示等により, 具体的イメージを提供し, 授業内容の焦点化と明確化を図ることで授業改善を行う。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

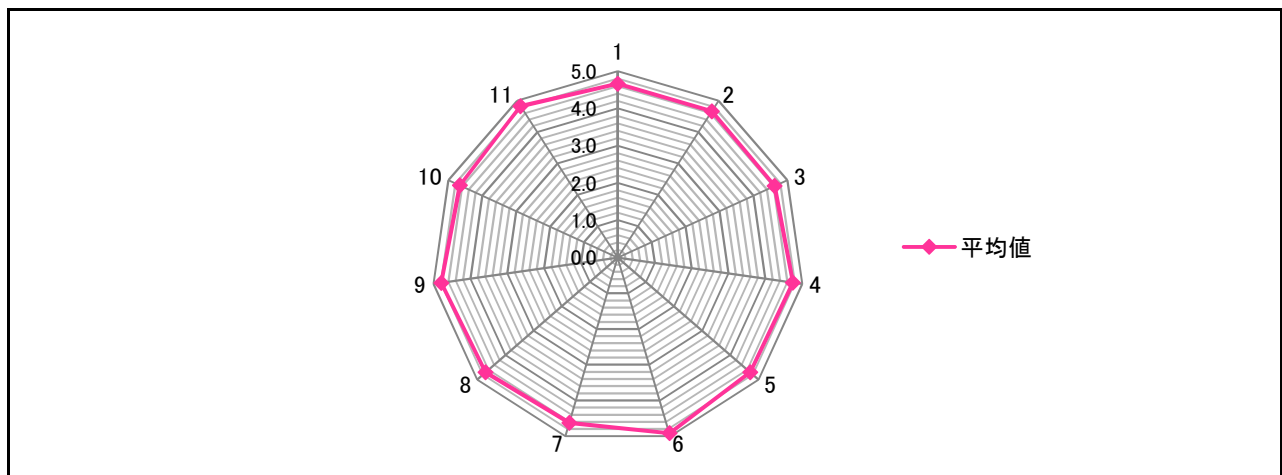
評価実施日 令和 2 年 2 月 14 日

授業科目名	いじめ・不登校等事例検討	
授業区分	専門科目	回答者数 24 名
担当教員名	小坂浩嗣, 阿形恒秀, 末内佳代, 池田誠喜	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	16	8					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	16	8					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	17	5	2				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	18	6					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	17	7					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	22	2					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	17	5	2				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	18	5	1				4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	5					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	18	4	2				4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	21	2	1				4.8
12								
13								



<分析>

回答を求めた11項目全体の平均は4.7であった。カテゴリー別では、<シラバスの内容について> 1項目は4.7, <授業の内容について>4項目は4.7, <教員の授業の進め方について>3項目は4.7, <授業に対する姿勢について>1項目は4.8, <授業に対する意義について>2項目は4.7であった。すべての分析項目において4.6以上の結果を得たことから、総合的に高い評価を得たと考えられる。

以上の高い評価を得た理由としては、まず受講生同士のラポール形成のもとで、院生自身が真摯に事例に臨んだこと、受講者のグループ編成について校種を混合させたことにより、多様な事例に触れ検討できたことが挙げられる。課題としては、学卒院生に対して経験の少なさを配慮した授業の進度、検討会でのコメントや解説に参考資料を提示するなど、工夫の改善余地がある。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

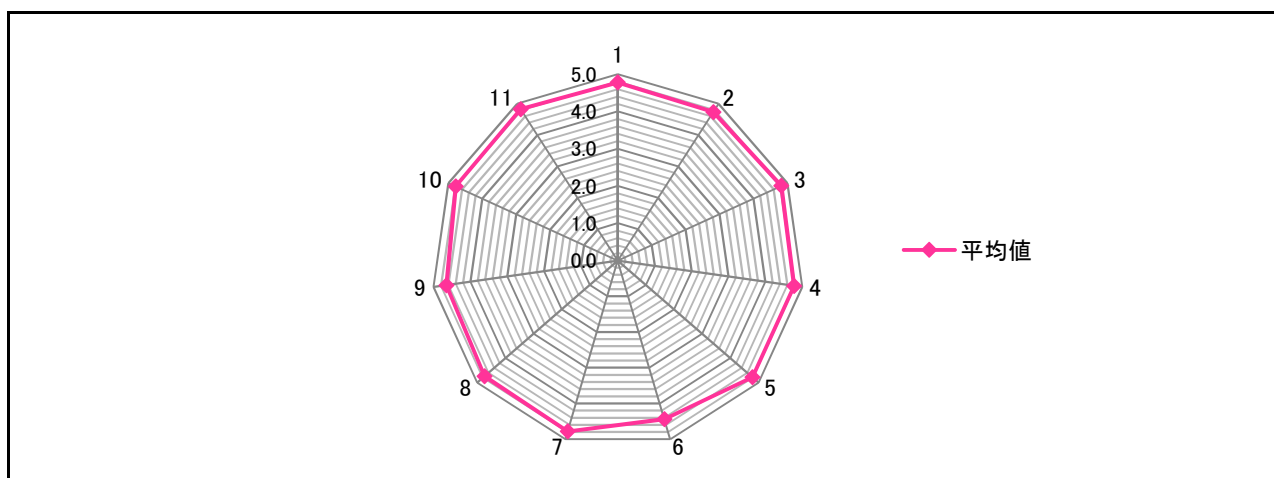
評価実施日 令和 元 年 11 月 25 日

授業科目名	いじめ・不登校等チーム支援とコーディネート	
授業区分	専門科目	回答者数 23 名
担当教員名	池田誠喜, 阿形恒秀	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	18	5					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	17	6					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	19	4					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	18	5					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	18	5					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	14	5	4				4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	18	5					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	17	6					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	6	1				4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	18	5					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	19	4					4.8
12								
13								



<分析>

授業評価アンケート項目全体の平均は4.7で、授業構成や進め方などについては一定の評価が得られたものと考えられる。その中で、シラバスに示した内容でアクティブラーニングが実施されていたかという設問について、数名が「どちらともいえない」と回答していることから、その点について授業構成や進め方を改善する必要があると考える。

受講者のコメントから、他の関係機関の訪問をしたいという声が寄せられている。カリキュラムの関係で、本年度及び来年度は2時間連続の授業時間割となっており、訪問できる日が以前より少なく受講者の希望に応えられていない状況となっており、この点について改善したい。

本授業では、関係機関に実際に足を運び、法的な権限や支援サービス及び施設環境など、それぞれの機関の役割について理解を深めるとともに、受講生が学校と関係機関を能動的にコーディネートする力を身につけることを目的としており、さらに実際的な力となるよう授業を工夫することが必要である。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

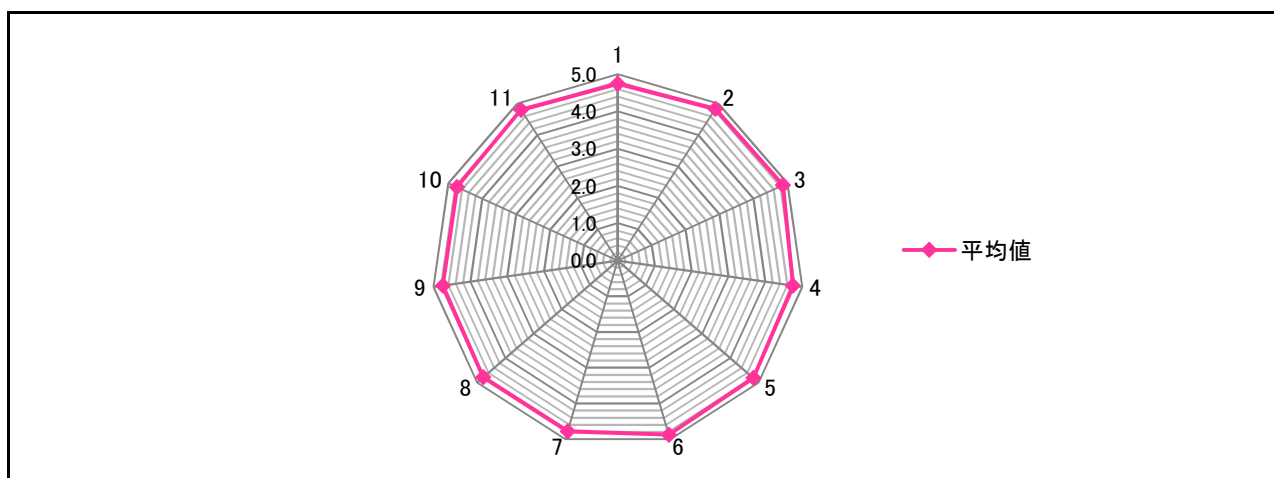
評価実施日 令和 2 年 2 月 14 日

授業科目名	集団づくりとグループアプローチ	
授業区分	専門科目	回答者数 32名
担当教員名	小坂浩嗣, 阿形恒秀	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	24	8					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	27	5					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	28	4					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	25	6	1				4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	28	3		1			4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	28	4					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	25	7					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	25	7					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	26	5		1			4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	27	4			1		4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	27	4	1				4.8
12								
13								



<分析>

回答を求めた11項目全体の平均は4.8であった。カテゴリー別では、<シラバスの内容について> 1項目は4.8, <授業の内容について>4項目は4.8, <教員の授業の進め方について>3項目は4.8, <授業に対する姿勢について>1項目は4.8, <授業に対する意義について>2項目は4.8であった。すべての分析項目において4.8以上の結果を得たことから、総合的に高い評価を得たと考えられる。

以上の高い評価を得た理由としては、本授業が受講生を主体にした演習形態であったこと、学級指導や集団づくりなどに役立つ具体的内容であったこと、受講生が積極的に取り組み満足度も高かったことが高い評価を得た要因と考える。特に、授業に対する意義に高い評価を得たことから、受講生および学校現場のニーズに合致していたものとする。課題としては、3項目に対して否定的回答があったことは謙虚に受け止め、レポートや授業記録を検証し、授業改善の契機にしたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

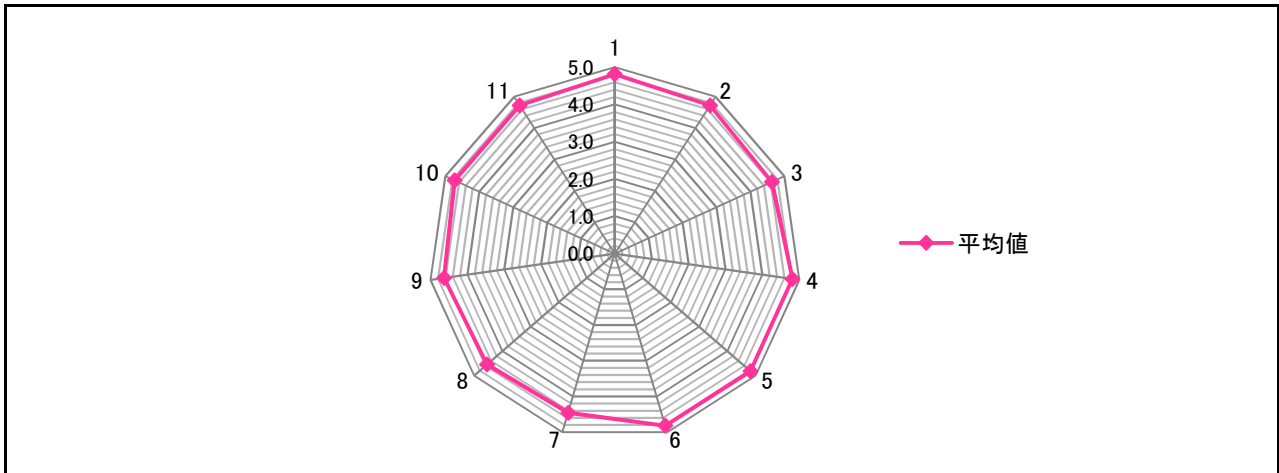
評価実施日 令和元年10月25日

授業科目名	道徳教育の理論と実践	
授業区分	専門科目	回答者数 11名
担当教員名	金野誠志, 木内陽一, 谷村千絵	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	2					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	3					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	7	4					4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9	2					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	2					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	6	4	1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	5					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	8	3					4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	3					4.7
12								
13								



<分析>

全体的に高い評価となっていると考える。本授業は、研究部分と実践部分とを明確に分け、両者の有機的な接続を意識した構成にしていることが評価されたと考える。受講者からのコメントには、以下のようなものがあったことからそういえる。

- ・道徳の歴史や道徳観などの捉え方がよく分かった。
- ・道徳には解決のないか大があることがわかった。
- ・ジレンマ問題に一生懸命取り組んだ。
- ・グループでの話し合い活動が多くありよかった。
- ・発表し、質問も行った。
- ・道徳授業を作るための根本が解った。
- ・資料を用いての具体的な授業の在り方がわかった。現場で使える。面白かった。
- ・授業についての具体的な話を聞けたし、ワークショップで確かめたりできてよかった。
- ・現場にいる生徒他との姿と授業の内容が重なり、これからの道徳評価について考えることができた。

受講者の中でのレディネスが異なるが、ワークショップ等の活用で、それを意識させないで進めることができたのも成果であったと考える。今回の評価をもとに、次年度も継続していきたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

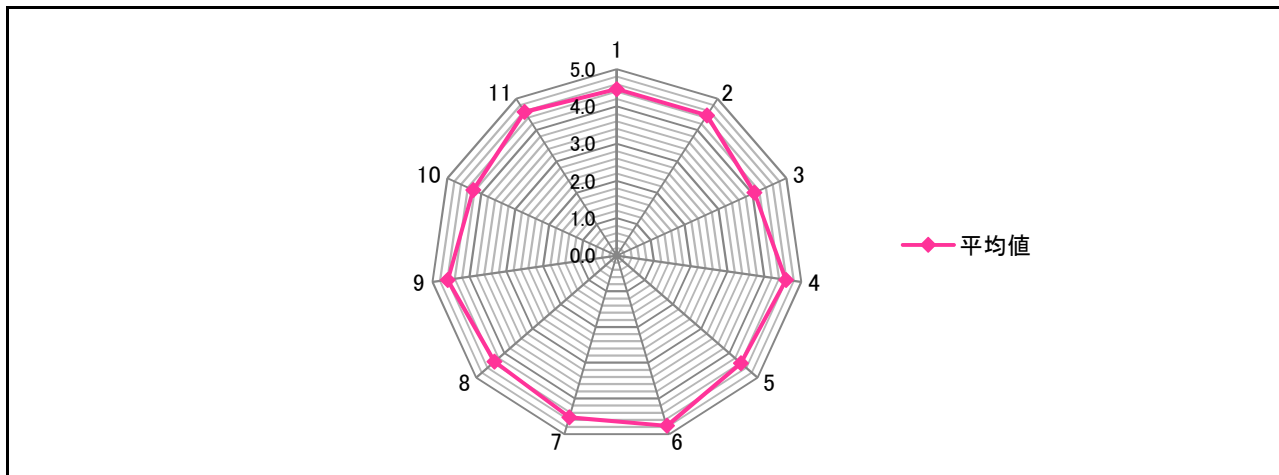
評価実施日 令和 2 年 2 月 6 日

授業科目名	教育評価の実際と事例分析	
授業区分	専門科目	回答者数 17名
担当教員名	皆川直凡, 金児正史, 西村公孝	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	7	1				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	10	5	2				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	7	5	4	1			4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	12	3	2				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	11	3	2	1			4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	13	4					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	11	4	2				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	11	2	3	1			4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	7					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9	4	3	1			4.2
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	11	5	1				4.6
12								
13								



<分析>

11項目のそれぞれに対する評価の平均値を見ると, 4.1~4.8となっており, うち7項目では4.5以上となっていることから, 学生による授業評価はかなり高いと考えられる。とりわけ項目4と6の平均値の高さから判断すると, シラバスに沿って教師の専門性を高めるアクティブラーニングが実施されていたと考えられる。また, 項目9と11に対する評価の平均値も高水準であり, 学生の多くは, 授業に主体的・積極的に取り組み, この授業をきっかけとして, 学びを広げたり深めたりしたいと感じていたと考えられる。

一方, 項目6と9を除いては, 評価を3とした学生も, 1~4名いる。また, 評価を2とした学生が1名いる項目が4項目(3, 5, 8, 10)あり, これらの項目では, 平均値が4.4以下となっていた。授業のわかりやすさ, 実践力の育成とのつながり, 資料等の適切さについては, 改善の必要があるかもしれない。

受講生の自由記述からは, 評価の高さを裏づけその理由を明示するコメントと共に, 授業改善の方向性を示すコメントが得られたと考えられる。すなわち, 授業の主題である「教育評価」に関して, 少しずつわかるようになった, 今まであいまいにしていたことをある程度明確にできた, これからのあり方について考えることができた, 講義や話し合いをとおして理解や思考を深めることができた, といった趣旨のコメントが多くみられた半面, 基本的なことをもっと教えてもらいたかった, 具体例を示してほしい, 話し合った後のまとめや解説がもう少しあればよかった, といった趣旨のコメントも多くみられた。「授業に主体的・積極的に取り組んだ理由」については, ほぼ全員が具体的かつ明確な理由を書いていた。その他のコメントとしては, 教室環境への要望(暗い, 寒い, 受講者数からみて狭い, 等)もあった。

高く評価された授業の内容とその水準を維持し向上させつつ, やや不十分なところを補完していくという意味において, 来年度に向けた重要な指針が得られたと考えられる。これらのことを実践していきたいと考えている。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

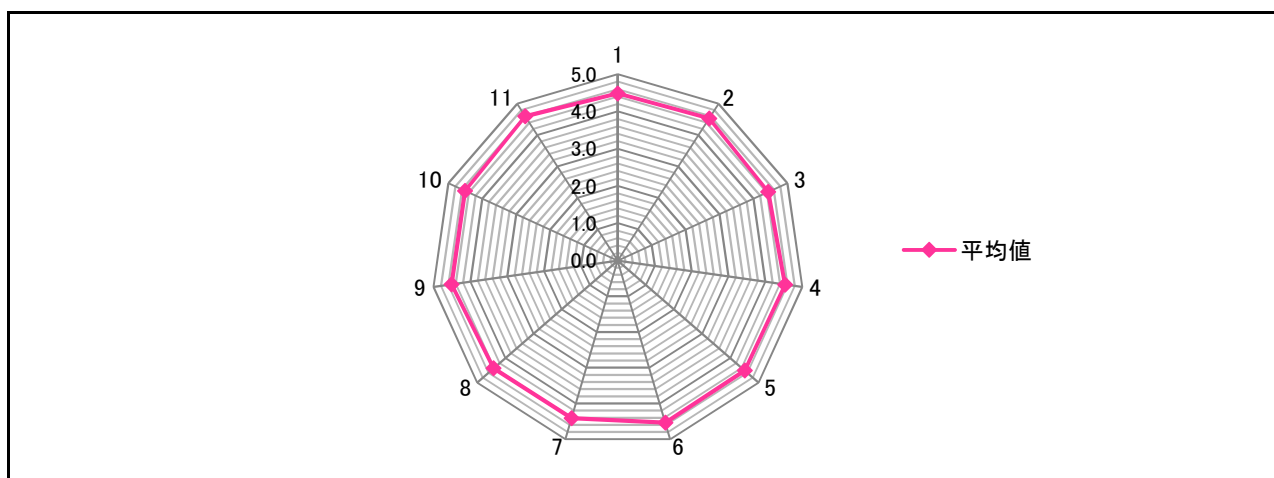
評価実施日 令和 元 年 7 月 31 日

授業科目名	学校教育におけるICT活用と情報デザイン	
授業区分	専門科目	回答者数 41名
担当教員名	藤原伸彦, 泰山裕	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	24	13	4				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	26	11	4				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	22	15	4				4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	26	11	4				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	25	12	4				4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	26	11	4				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	22	14	5				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	22	15	3	1			4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	25	13	2	1			4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	26	10	5				4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	28	8	4			1	4.6
12								
13								



<分析>

いずれの項目でも評定平均値が4.4~4.6と高く, よい評価を得られたと考えられる。従来同様, 情報デザインという観点から伝わる表現について講義したこと, 創造的に考える手法としてデザイン思考を取り上げ, それを体感するためのワークショップを実施したことに加えて, 本年度は, 来年度から(特に小学校で)プログラミング教育が始まることから, その内容を追加した。自由記述の数は多くないが, これら3点について良かったとする意見がほとんどであった。数人から, 「ICTのスキルがないためにプログラミング等が難しかった」という意見が出ていた。自由に創造することを大切にしてい, テンプレートとなるプログラムを示してそれを真似る, という方法は避けたのだが, 来年度は配慮したい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

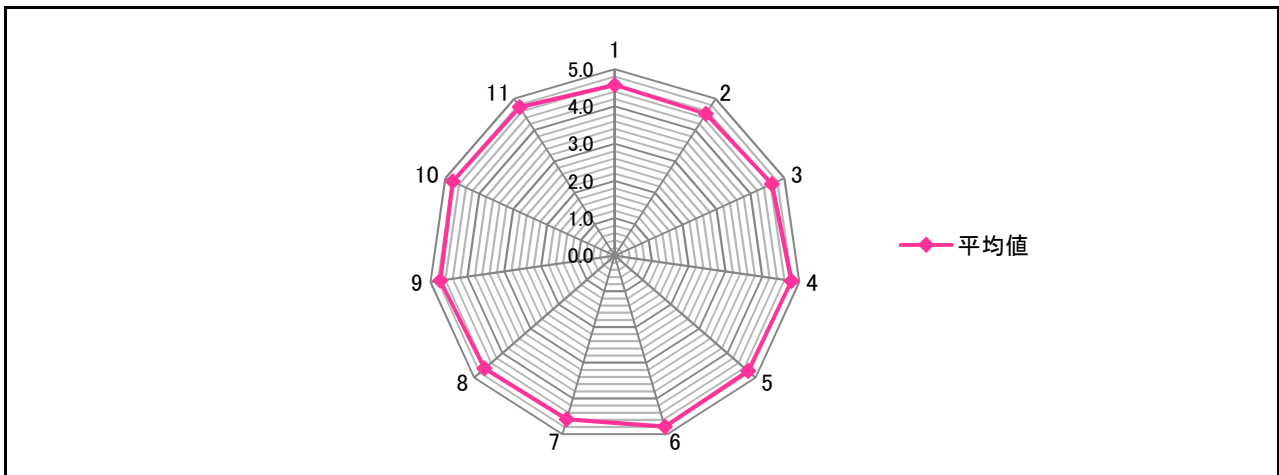
評価実施日 令和 元 年 10 月 26 日

授業科目名	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	
授業区分	専門科目	回答者数 19名
担当教員名	村川雅弘	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	11	8					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	11	7	1				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	13	5	1				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	15	4					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	14	5					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	15	4					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	12	6	1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	13	5	1				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	5					4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	15	4					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	15	3	1				4.7
12								
13								



<分析>

11項目全てが平均4.5以上で、全体的に高い評価を得ている。特に、項目4「授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。」と項目6「授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。」、項目10「自分にとって, 満足感を得られた授業であった。」は平均4.8と極めて高い。総合的な学習の時間の意義や考え方、取り組み方、新学習指導要領における改訂のポイントを説明する際にも、小中高の具体的な事例を数多く取り上げたこと、特に、解説や事例分析で習得した知識や技能を活用して、各置籍校で活用するための手引きを協働的に作成させる課題を提示したことは有効であった。基本的には今年度の内容や構成を次年度も踏襲したい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

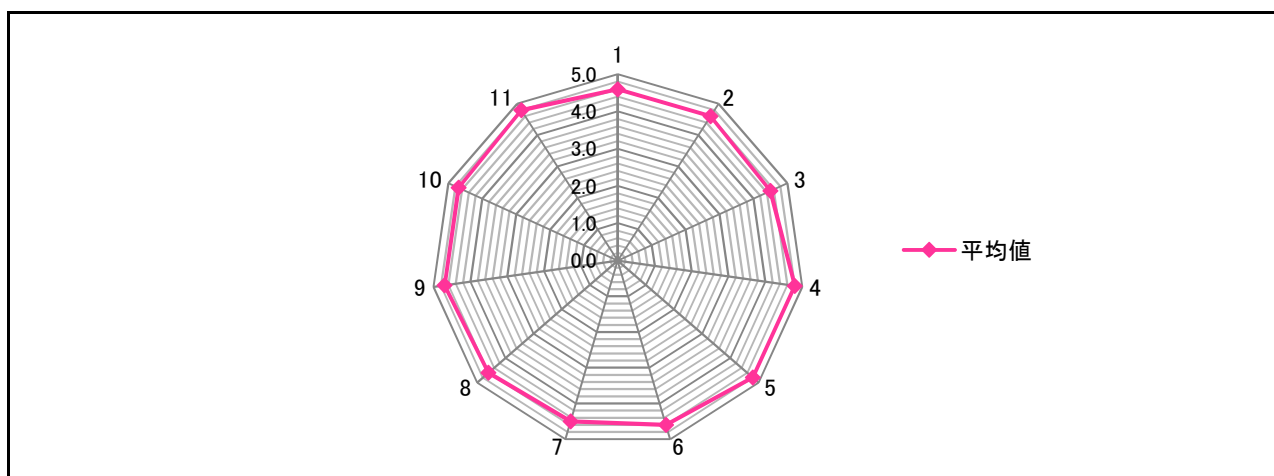
評価実施日 令和元年12月4日

授業科目名	校種間連携に視座した教材・教具の開発演習				
授業区分	専門科目	回答者数	10名		
担当教員名	金児正史, 泰山 裕, 西村公孝				

## 1 アンケート[I]の集計と分析について

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない, 無: 未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	2	1				4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	2	1				4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6	3	1				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	8	2					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	8	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	4					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	8		1	1			4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	2	1				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3					4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7	3					4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	2					4.8
12								
13								



### <分析>

受講生が10名の授業だったが, 11項目いずれも, 平均値が4.5を超える評価である。ばらつきも少ない。シラバスも含めて, 予定通りに授業ができていたと考えられる。

学生からのコメントにはFDの関係で授業時間の変更が起きたことについてのコメントが集中している。そもそもFDの説明も不足していたことが読み取れる。そのほかは「自由に取り組めて面白かった」「接続という視点で指導案や教科書を調査作成できてよかった」「校種間を超えて学習内容を系統的に見返せてよかった」「自分が使う教科書という思いで取り組めた」といった肯定的な評価が多い。

一方, 「見開きの教材作りに限定しているのはどうか」「もっと校種間教科間を意識して教材教具開発してもいいのではないか」「後期に開発や改良作成の授業が多すぎるのではないか」「レポートで何を求められたのか分からなかった」「スマホや手帳をいじる授業態度がよくない学生が気になった」などのコメントもあった。来年度以降の改善のための視点が明確になったと考えている。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

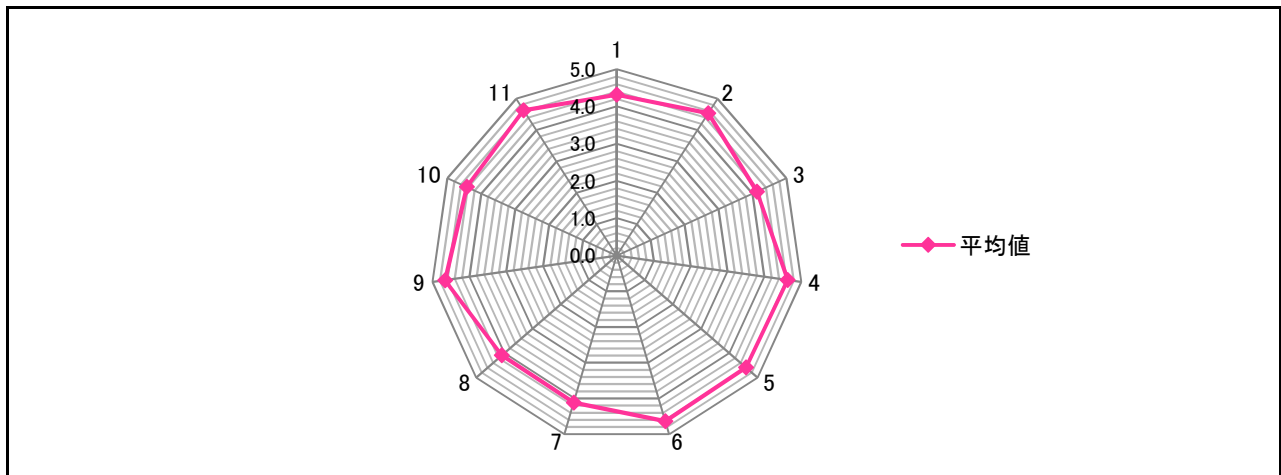
評価実施日 令和 元 年 6 月 4 日

授業科目名	学習者の心理とアクティブラーニング		
授業区分	専門科目	回答者数	44名
担当教員名	泰山 裕, 皆川直凡, 金児正史		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	18	22	4				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	26	16	2				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	15	21	7	1			4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	30	12	2				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	29	12	3				4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	30	12	2				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	15	21	6	2			4.1
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	11	27	5	1			4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	32	9	3				4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	23	17	4				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	31	10	3				4.6
12								
13								



<分析>

アンケート結果は全ての項目で平均を4点を超えており, 概ね良い成果であると思われる。特に「授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった」「授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった」「授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた」「授業の進む速さは適切であった」「授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」「自分にとって, 満足感を得られた授業であった」「この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい」の項目は他の項目よりも高い得点となっており, 授業の目標はある程度達成されたと考えられる。しかし, 一番低い項目は4.1となっており, 2点をつけた学生がいる項目は「授業の内容は分かりやすかった」「授業の進む速さは適切だった」「授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった」の3つの項目であった。これらの項目は授業運営に関係する項目であるため, 次年度以降は授業の全体構造を事前に示した上で授業内容をより具体化する等して, これらの課題の解決に取り組みたい。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

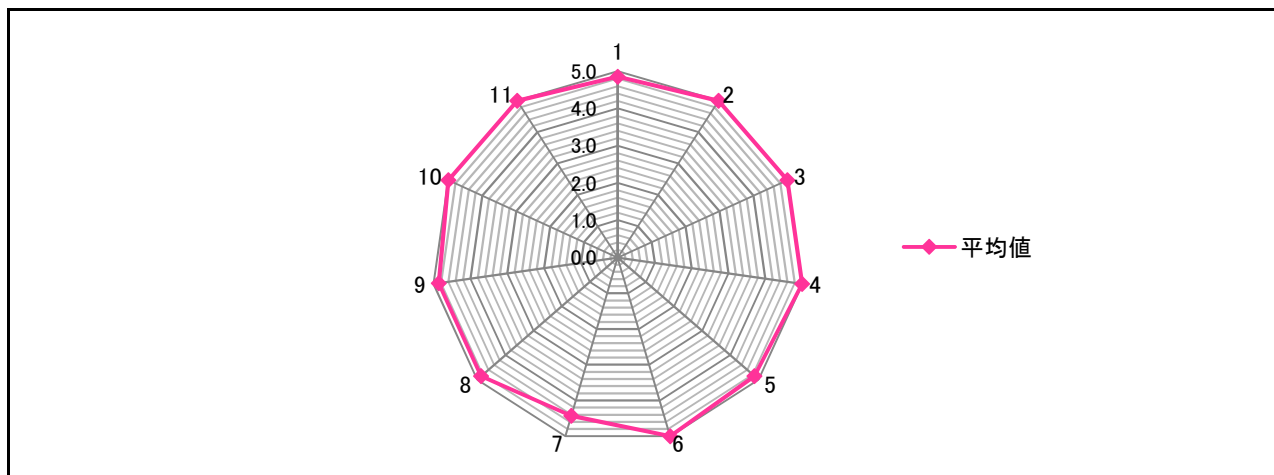
評価実施日 令和元年4月20日

授業科目名	ワークショップ型研修の技法	
授業区分	専門科目	回答者数 7名
担当教員名	村川雅弘	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	1					4.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	7						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	7						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	1					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4	2	1				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	7						5.0
12								
13								



<分析>

授業実施時にアンケート作成が間に合わなかったため回答者は7名にとどまっている。全体的には高い評価を得ている。アクティブラーニングを多く取り入れたこと、講義で習得した知識や技能を置籍校の実習や修了後校内研修等で活用できるようなパワーポイントを協働的に作成させたことが有効であった。研修課題が多様でかつ小・中・高と受講生や多様なためにどうしても盛り込みすぎた点に課題が残る。一部、個人課題に回して集中講義では少しゆとりを持たせ、基本的には次年度も基本的には同様の内容・展開で進めていきたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

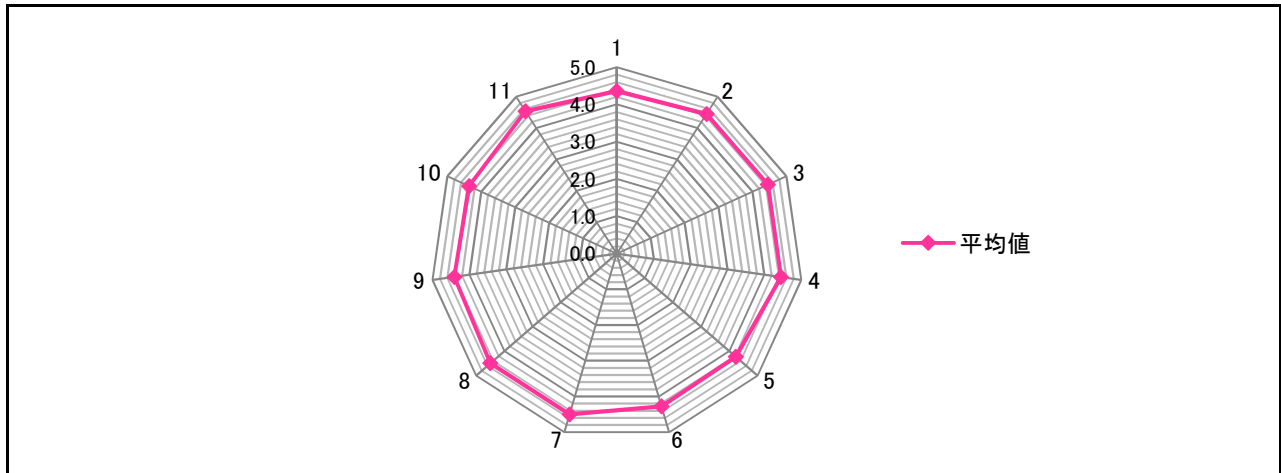
評価実施日 令和元年6月4日

授業科目名	学習指導要領と教育課程A	
授業区分	専門科目	回答者数 22名
担当教員名	藤原伸彦, 中妻佳代	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	10	10	2				4.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	12	8	2				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	12	8	2				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	12	8	2				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	15	1				4.2
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	10	9	2	1			4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	13	7	2				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	12	9	1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	11	1				4.4
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	10	10	2				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	13	8	1				4.5
12								
13								



<分析>

いずれの項目でも評定平均値が4.2~4.5と高く, 高い評価が得られたと言える。自由記述からは, 学習指導要領を読み解くことに加えて, それをどのように授業設計, 授業実践につなげていくかもわかったところが良かったとする意見が見られた。単なる座学にとどまらず, 実践につながる講義として機能していたこといえる。来年度も, 同様に実施していきたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

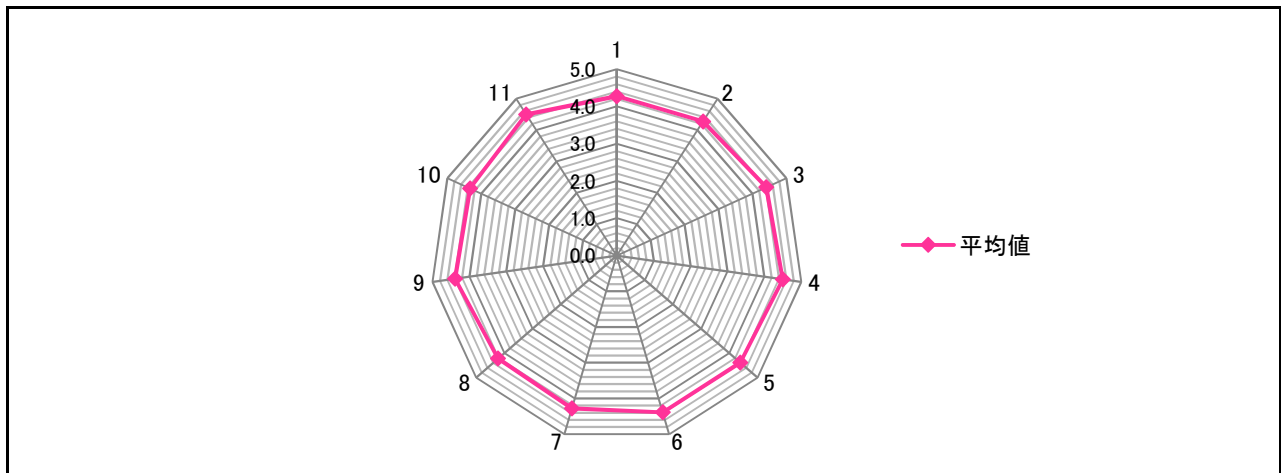
評価実施日 令和 2 年 1 月 7 日

授業科目名	学習指導要領と教育課程B	
授業区分	専門科目	回答者数 18名
担当教員名	藤原伸彦, 中妻佳代	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	9	2				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	9	2				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	9	6	2			1	4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	11	5	2				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	7	2				4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	11	3	4				4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	8	7	3				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	9	4	5				4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	7	2				4.4
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	8	8	2				4.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	11	5	2				4.5
12								
13								



<分析>

いずれの項目においても, 評定平均値が4.2以上と, 非常に高い評価を得ている。高評価になった理由としては, やはり基礎インターンシップに向けて, 学習指導要領と授業作りの関連について実践的な内容を具体的に示したことがあると推測される。項目11「この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。」の評定平均値が4.5と高いことから, 学生がさらに学んでくれることも期待できる。  
来年度も同様に授業を進めたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

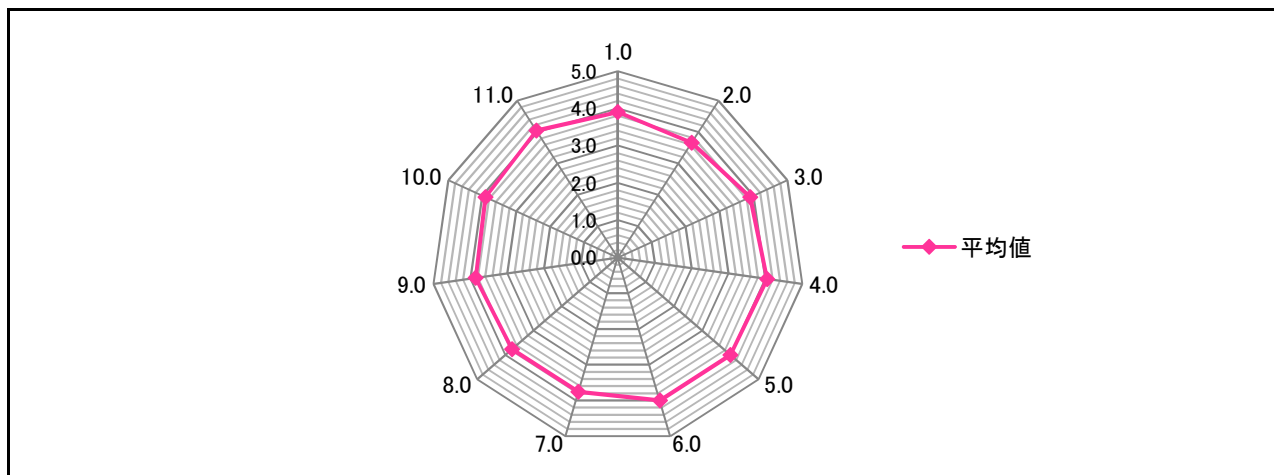
評価実施日 令和元年6月22日

授業科目名	教育実践の事例研究A	
授業区分	専門科目	回答者数 21名
担当教員名	木下光二, 川上綾子	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	12	4	1			3.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	7	9	1			3.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6	8	6	1			3.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	7	8	6				4.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	10	4	1			4.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	11	5				4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	10	8				3.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	10	8				3.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	8	5	2			3.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	11	6				3.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	7	8	6				4.0
12								
13								



<分析>

質問項目全ての平均値が3.9であることから、全体的には概ね満足度の得られた授業であったことがうかがえる。質問項目11のうち、最も評価の低いのが、質問2「授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。」で、3.7という評価である。このことは、授業内容の附属幼小中学校保育・授業観察が中心であるため、4月当初にはその予定が組みにくく、訪問日程が多少流動的になってしまうことが考えられる。ただ、それそさしいひても、幼小中での学校現場を観察できるという機会を提供できるのが、本授業であるので、次年度以降も、附属学校園との日程調整を密に図りながら、授業が円滑に進められるように努めたいと考えている。

また、質問項目11のうち、評価2を付けた学生二人いたのが、質問項目9「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」であった。これは、学生自身の課題となるだろうが、特定できないため、事後指導等ができない現状がある。そのことを考えても、記名式の授業アンケートであってもよいのではないかが正直、思うこともある。子どもに直接観察できる授業なので、ぜひ、積極的な関わりを期待しているものである。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

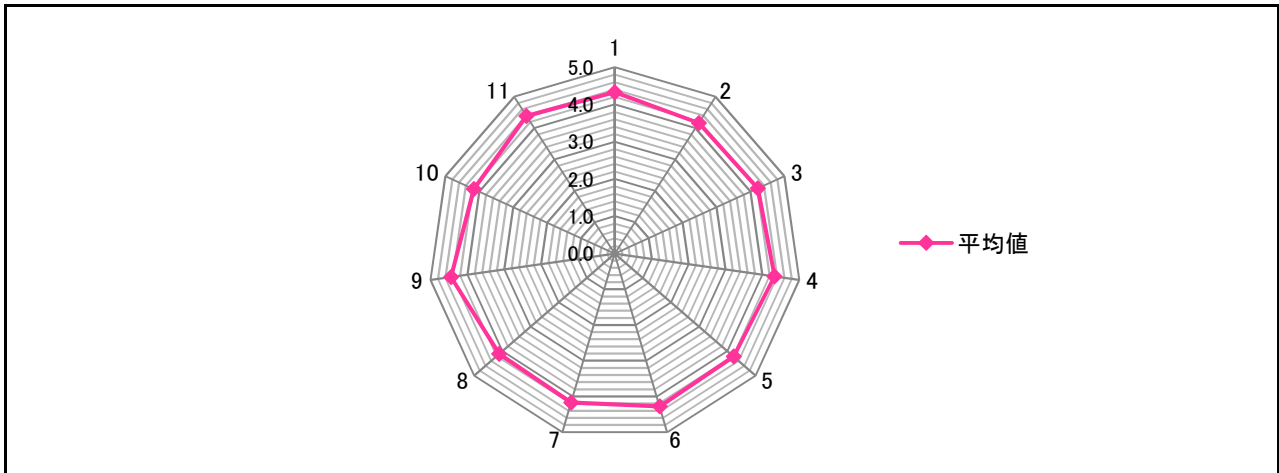
評価実施日 令和元年12月9日

授業科目名	教育実践の事例研究B	
授業区分	専門科目	回答者数 18名
担当教員名	木下光二, 川上綾子	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	8	8	2				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	7	4				4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8	6	4				4.2
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9	6	3				4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	8	6	4				4.2
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	5	4				4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	8	5	5				4.2
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	7	3	1			4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	5	1	1			4.4
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7	8	2	1			4.2
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	7	2				4.4
12								
13								



<分析>

- ・質問項目全ての平均値が4.25であることから, 全体的には満足度の得られた授業であったことがうかがえる。
- ・質問項目11のうち, 最も評価の低いのが, 質問8「授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。」である。課題としたレポートは, 4回の保育授業観察等, 一律としたが, 本授業は学校教育現場での保育や授業の観察が中心となり, 資料等の配布はほぼ行っていない。このような理由で, 4.1という評価になったことが考えられる。それでも4.1という数値を考えると, 妥当であったのではないかと考える。
- ・質問項目11のうち, 評価が高かったのが, 質問9「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」と質問項目11「この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。」である。いずれも4.4という高評価である。実際の保育や授業を目の当たりにすることで, 幼児や児童の実態がつかめたことや, 自身の授業イメージの形成につながったのではないかと考える。次年度以降も, 附属学校園との日程調整を密に図りながら, 授業が円滑に進められるように努めたいと考えている。
- ・また, 質問項目11のうち, 評価2がつけられていたのが, 質問項目8. 9. 10であった。いずれも平均値がそれぞれ, 4.4, 4.2, 4.4と高評価であることから, 評価2をつけた院生の考えを推察することは難しいところである。それ故に, 次年度の向けの授業改善や授業評価も難しい状況である。あくまでも希望になるが(前回の分析にも書いたのだが), このような事態を避けるためにも, 授業評価アンケートを記名式にするのもよいのではないかと考える。院生の個別指導も重要であると考える。

・自由記述

良かった点: 「幼稚園に実際に行くことができた。」「実際に現場が見れてよかった。」「授業の記録の仕方など, 事例について学ぶことができた。」「弾力的なシラバスと学習」

改善点: 「実習中のスケジュールを考慮してほしい」「実習中の観察」

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

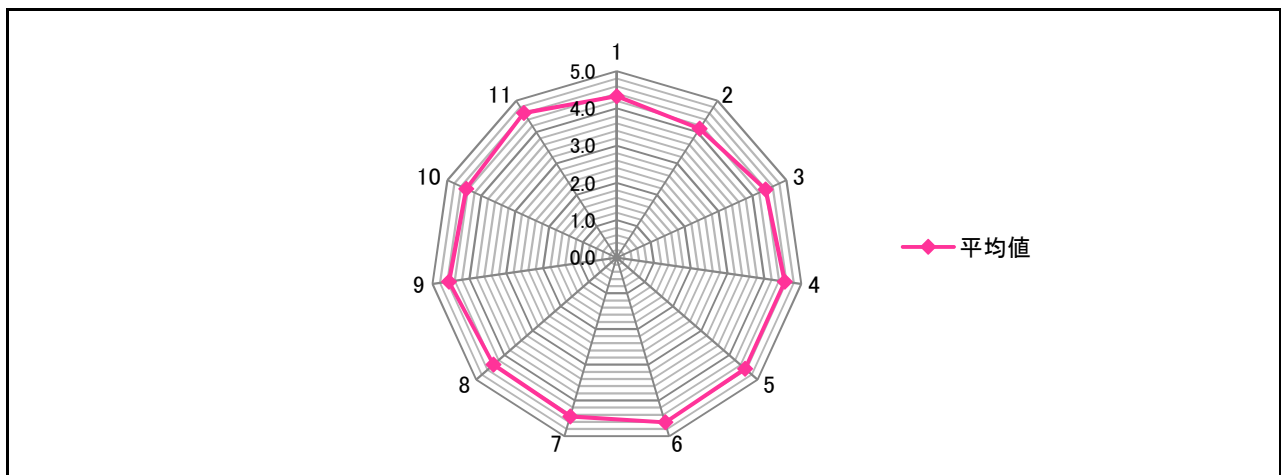
評価実施日 令和元年6月5日

授業科目名	生徒指導実践演習A		
授業区分	専門科目	回答者数	18名
担当教員名	森康彦, 小坂浩嗣, 池田誠喜		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	6	3				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	8	4				4.1
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10	5	3				4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	13	2	3				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	12	4	2				4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	13	3	2				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	11	4	3				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	11	3	4				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	4	2				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	10	6	2				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	13	3	2				4.6
12								
13								



<分析>

どの項目においても平均値4以上の結果が得られており、授業に対する評価は高かったと言える。評価得点5が多い中で、唯一4が多数を占めた項目(2)は、特徴的な2つの事例にしばって扱うとしたシラバスの事例から広げて学習対象としたことから判断だと考えられる。この点については、裏面の自由記述で「数多くの事例について考えることができた」「授業に合わせて柔軟にシラバスを変更しよかった」という意見もあり、今後のシラバスの記述について、ねらいを明確にししながら、学生のニーズに柔軟に対応できるよう検討していきたい。自由記述に「時間的に窮屈だった。」という意見があったが、ロールプレイをさらに体験しながら授業を進めていくためには、担当教員3名の集団指導について工夫しながら、学習を進めていく効率的な指導体制について検討する必要があると考える。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

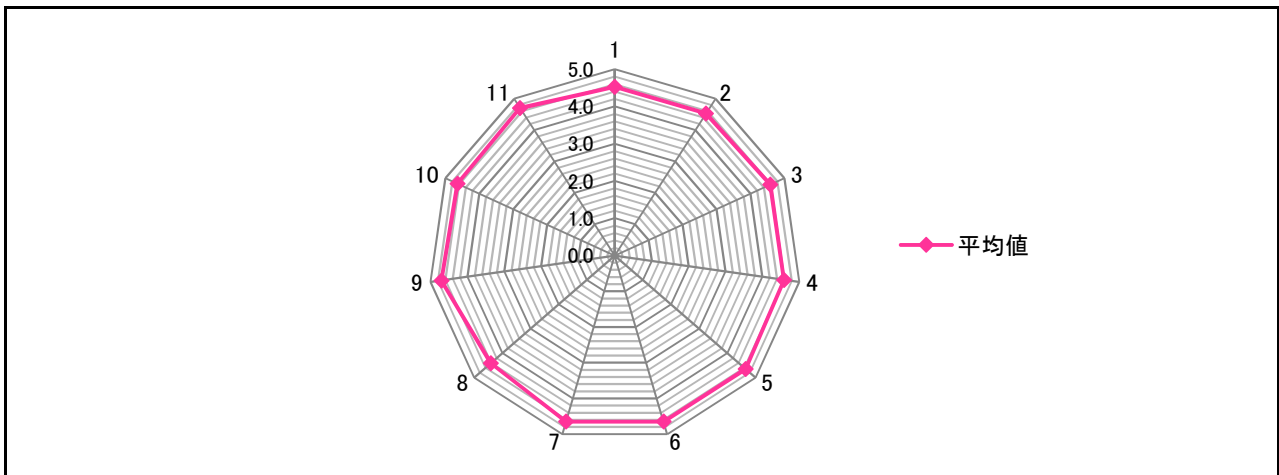
評価実施日 令和 2 年 2 月 12 日

授業科目名	生徒指導実践演習B	
授業区分	専門科目	回答者数 17名
担当教員名	森 康彦, 小坂浩嗣, 池田誠喜	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	11	4	2				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	11	4	2				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	11	5	1				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	11	5	1				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	12	4	1				4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	12	4	1				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	12	4	1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	10	4	3				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	3	1				4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	12	4	1				4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	13	3	1				4.7
12								
13								



<分析>

本授業は, 小学校で直面する生徒指導に関する実践的な課題に関して, 具体的な問題事例の検討をもとに分析, 実践することで, 教師として求められる生徒指導の力量形成を目指しており, 授業では, 基礎インターンシップにおける事例の報告について, 院生同士のディスカッションを通して生徒指導についての考えを深めるものである。授業評価アンケートの結果, 質問項目の平均値が4.4~4.7となっており, 授業への参加意欲や取り組みの状況は一定の評価ができるものとなった。

特に, 番号⑨の「授業に主体的・積極的に取り組んだ」, 番号⑪の「この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい」といった, 学びに対する意欲が高まっている点が本授業の効果を示しているものと考えている。

一方で, 学校現場で必要とされる生徒指導に係る力量形成は, 日々変化するニーズに対応できるようになることが求められており, この点についての力を育成できるよう授業を改善していく必要があると考えている。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

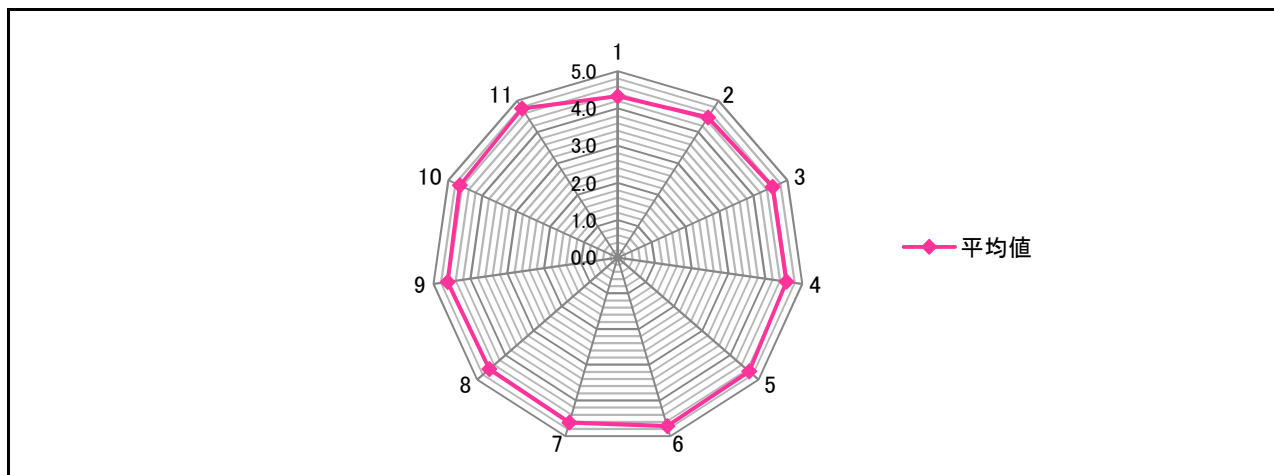
評価実施日 令和元年6月7日

授業科目名	学級経営実践演習A	
授業区分	専門科目	回答者数 21名
担当教員名	江川克弘, 若井ゆかり	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	10	2				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	12	7	2				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	14	5	2				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	13	7	1				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	15	5	1				4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	16	4	1				4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	15	4	2				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	14	5	2				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	4	2				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	15	5	1				4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	17	3	1				4.8
12								
13								



<分析>

全評価項目において評定値の平均が4.3~4.8であり, さらに, 評定値2以下(当該の評価項目において否定的な評価結果を示す値)の評価をした院生は1人もいない。よって, 本授業は院生にとって概ね有益であったと考えられる。

評価項目(11)における評定値の平均は4.8と, 他の評価項目に比べて高くなっている。院生は本授業において学級経営の実際について現場経験のある大学教員から話を聞いたり, 自分なりの理想の学級経営について深く考えたりしたので, 学級経営の奥深さに触れたと考えられる。そのため, 学級経営について更なる学びを求める院生が多くいると考えられる。

評価項目(1)における評定値の平均は4.3と, 他の評価項目に比べて低い。よって, 次年度はシラバスの主旨を詳細に説明したり, 院生の学習の進捗状況に応じて授業の進め方を変えたりするなどの工夫が必要であると考えられる。

本授業では「学級経営」を一貫して実践の文脈で取り扱い, かつ, 院生に「学級経営」について具体的に考え抜くことを求めたため, 学級経営についておぼろげな考えしか持っていなかった院生にとっては具体的に考えられるきっかけになったと推察される。また, 院生が学級経営について具体的に考える際には, グループを形成し, 成員同士が話し合っって理想の学級像や具体的方策について議論しながら考えるよう求めた。そのため, 自由記述に何例も書かれていたように, 他者の考えに触れて自身の学級経営についての考えが深まったと考えられる。以上のことから, 本授業が教育現場で学級経営を実践していくうえで有益であると考えられる。



大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

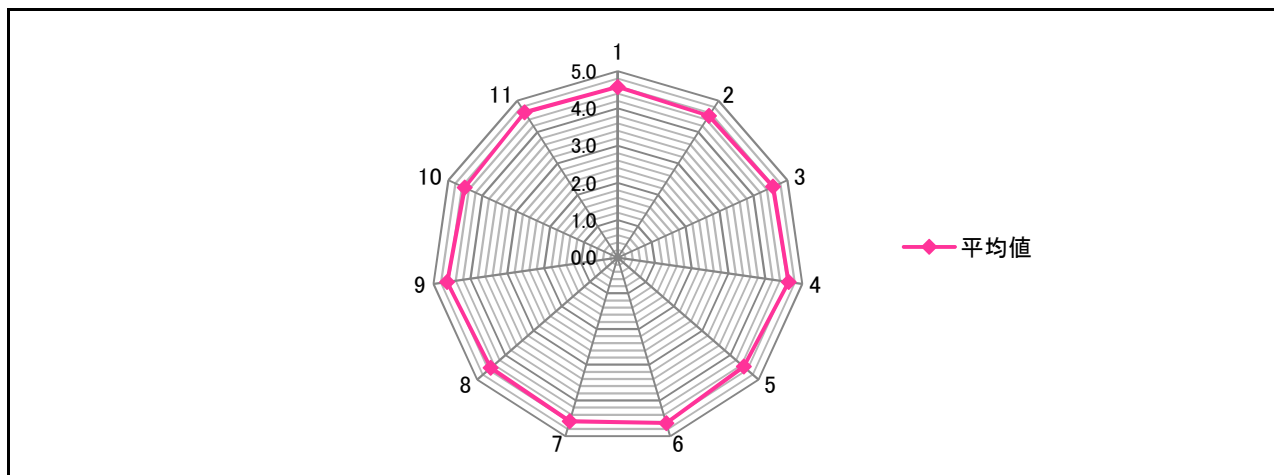
評価実施日 令和 2 年 2 月 14 日

授業科目名	学級経営実践演習B	
授業区分	専門科目	回答者数 19名
担当教員名	江川克弘, 若井ゆかり	

1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	12	6	1				4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	11	7	1				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	12	6	1				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	14	3	2				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	11	6	2				4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	13	5	1				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	12	6	1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	12	5	2				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	5	1				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	12	5	2				4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	13	5	1				4.6
12								
13								



<分析>

いずれの評価項目においても評定値の平均が4.5以上と高い評価を得ている。また、全ての評価項目で評定値2以下の否定的な評価を示す院生が全くいない。これらのことから、本授業がどの院生にとっても満足度の高いものであったことが認められる。特に評価項目(4)においては19名中14名の院生が、設定値5の最も高い評価の値を示しており、院生にとって本授業が教師としての専門性を高める上で有益なものであったことを示している。これは本授業が実践レベルでの考えを追求していく授業内容である点に起因すると考えられる。具体的には、院生が学級経営について考えていく際、基礎インターンシップの配属学級における学級の実態やメンター教員の方策について観察してきたこと、メンター教員の学級経営の方針等の事実を基に考えていく。よって院生自身が現場を想定して具体的、実践的な取組を立案することができる。このことから、院生にとって教育現場で実際に学級経営に取り組む上で有益なものであり、教員としての専門性を高める授業だとの評価に至ったと考えられる。さらに、(6)(9)の評価項目が高い評価を得ている。これは、院生が立てた学級経営案についてグループによる話し合いをもち、互いの考えを深めた後、各自学級経営案を練り上げ、プレゼンテーションを用いて発表する場を設けたことで、院生が能動的に本授業に取り組むことができたと考えられる。記述欄にもプレゼン発表や他の院生との話し合い等によって考えが深まったとの記載があった。但し、1名難しかったとの記述があった点については、この院生の設定項目における設定値は低いものではなかったことから、詳細は確認できないが、授業内での更なる個別の対応の必要性も考えられる。このように、本授業は院生が教育現場で学級経営を実践していくうえで有益な内容を保証していると考えられる。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

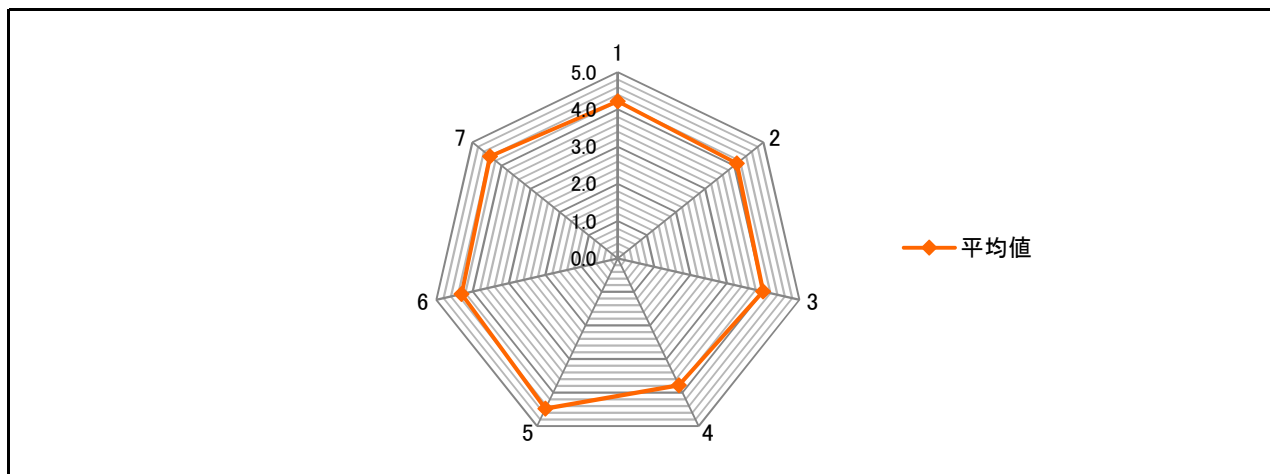
評価実施日 令和 2 年 11 月 15 日

授業科目名	教科教育課題設定フィールドワーク	
授業区分	実習科目	回答者数 23名
担当教員名	山森直人 他, 教科実践高度化系教員66名	

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	実習の手引は, 実習を進めていくのに適切な内容であった。	10	9	3	1			4.2
2	共通科目と専門科目で学んだことは, 実習を進めていくのに役立った。	9	8	5	1			4.1
3	実習時間数は, 実習を進めるのに適切であった。	11	5	4	2	1		4.0
4	実習の指導体制は, 実習を進めるのに適切であった。	8	7	3	5			3.8
5	実習に主体的・積極的に取り組んだ。	12	10	1				4.5
6	自分にとって, 満足感を得られた実習であった。	13	5	4	1			4.3
7	この実習をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	11	11		1			4.4
8								
9								



### <分析>

7つの質問項目の平均値は4点前後であり, 概ね満足の結果であったのではないだろうか。ただし, 回答にバラツキのある項目3(実習の指導体制)については, 今後, 状況を精査し改善の方向性を検討する必要がある。

自由記述からは, 良かった点として, (異校種実習を体験した)現職大学院生からは, 異校種の目的・子どもの成長・指導のあり方・実態, 勤務校種に生かせること, 勤務校種と異校種との共通点, などを学べたことや, 自分自身の勤務校種について改めて考えることができた, 内容が充実していた, などが挙げられていた。(附属学校, 公立学校で実習を体験した)学卒大学院生については, 実際に授業をしたこと, 教科指導だけではなく学級指導について学べたこと, 専門的な教員のともで学べたこと, 様々な指導法を学べたこと, などが挙げられていた。改善点については, 現職大学院生からは, 自身の教科の授業について観察する機会がもっとあったらよかった, 教科系と教職系で壁を感じた, どの先生の授業も観ることができる体制にしてほしい, 自分の勤務校種の子どもの反応が見たかった, 学校行事の時期と重なり授業観察の日が少なかった, 実習に関する説明がもう少し早い段階であつてもよかった, など, また, 学卒大学院生からは, 副実習とフィールドワークの違いが不明確/両者を分けてほしい, 附属学校と大学との連携ができていない, 授業を実施するなら事前に連絡してほしい, などの意見があった。

教科教育課題設定フィールドワークの主旨を再確認するとともに, 本フィールドワークの主旨や内容の教員と学生への周知徹底, そして指導体制の検討が今後の課題と考える。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

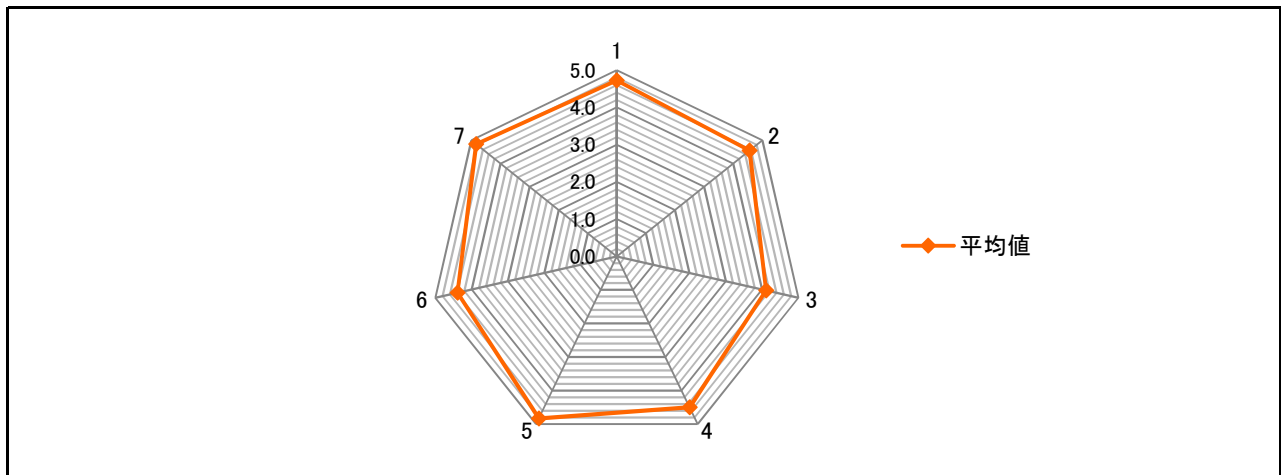
評価実施日 令和元年10月4日

授業科目名	地域プロジェクトフィールドワーク	
授業区分	実習科目	回答者数 18名
担当教員名	藤井伊佐子 他, 教職実践高度化系教員20名	

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	実習の手引は, 実習を進めていくのに適切な内容であった。	14	3	1				4.7
2	共通科目と専門科目で学んだことは, 実習を進めていくのに役立つ。	13	3	1	1			4.6
3	実習時間数は, 実習を進めるのに適切であった。	11	2	2	2	1		4.1
4	実習の指導体制は, 実習を進めるのに適切であった。	11	5	2				4.5
5	実習に主体的・積極的に取り組んだ。	15	3					4.8
6	自分にとって, 満足感を得られた実習であった。	10	5	3				4.4
7	この実習をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	16	1	1				4.8
8								
9								



<分析>

- 各項目の評価の平均値を見ると, 4.1~4.8の結果となっている。
- 評価が2又は1が含まれている項目は番号2と番号3である。
  - 番号2の「専門科目で学んだことは, 実習を進めていくのに役立つ」に評価2を選択した院生1名の記述を見ると, 別の授業の「チーム総合演習」で進めている「一貫校をつくろう」という内容との繋がりについて戸惑っていることがうかがわれる。来年度は授業の中で明確にしておく必要を感じている。
  - 番号3の「実習時間数は, 実習を進めるのに適切であった」に評価2又は1を選択した院生の記述を見ると, 「1週間で十分」が2名, 「日数を減らしてほしい」が1名であった。今後, 事前・事中指導において, 実習の意義や目的, 期間等を一層明確にすることで改善していきたい。
- 番号5の「実習に主体的・積極的に取り組んだ」並びに番号7の「この実習をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい」については, 評価平均が4.8であるとともに, 番号5は83%, 番号7は89%の院生が評価5を選択している。
- 自由記述からは, 自分が勤務している校種以外の学校での勤務により, 小・中・高等学校それぞれの児童生徒の様子や先生方の勤務を目の当たりにすることで, 新たな学びがあったことを感じている院生が多いことが分かる。

以上の結果から, 本実習の評価は高かったといえる。

本実習は, 板野郡の5町の教育長をはじめ各小・中学校教職員の理解と協力なしでは, 成り立たないものであることから, 今後も郡内5町との連携を密にし, 異校種で学ぶことのできる貴重な機会である本実習の改善に努めていきたい。

# 大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

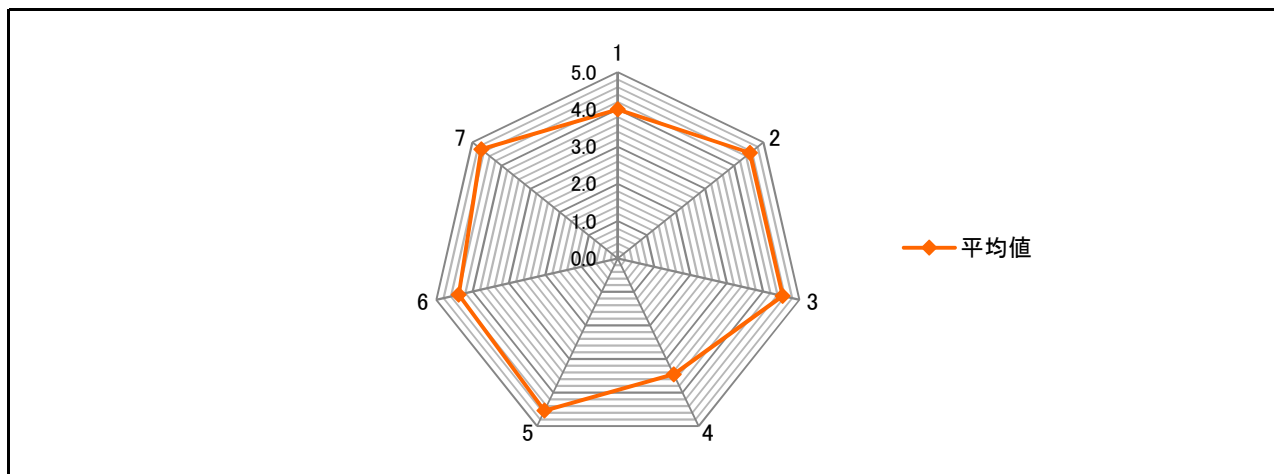
評価実施日 令和 2 年 12 月 20 日

授業科目名	基礎インターンシップ(教員養成特別)	
授業区分	実習 科目	回答者数 13 名
担当教員名	江川克弘, 川上綾子, 木下光二, 藤原伸彦, 若井ゆかり, 森 康彦, 中妻佳代	

## 1 アンケート[ I ]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	実習の手引は, 実習を進めていくのに適切な内容であった。	5	4	3	1			4.0
2	共通科目と専門科目で学んだことは, 実習を進めていくのに役立った。	8	4	1				4.5
3	実習時間数は, 実習を進めるのに適切であった。	8	4	1				4.5
4	実習の指導体制は, 実習を進めるのに適切であった。	4	1	5	3			3.5
5	実習に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4	1				4.5
6	自分にとって, 満足感を得られた実習であった。	8	2	3				4.4
7	この実習をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10	2	1				4.7
8								
9								



### <分 析>

いずれの項目においても評定値の平均が3.5から4.7と, おおむね良い評価であった。特に項目7では, 実習を通して受講生が, 自分の現状を理解し, さらなる学びの必要性を感じることができたと思われる。自由記述からは「たくさんの授業経験がすることができた」「長期間の実習で子どもの成長や変化を見ていくことができた」「実践力の向上につながった」「自分の課題が明らかになった」という意見が多数見られた。

一方, 項目4は評定値の平均が3.5であった。長期の実習での金銭・体力面での負担や, 大学と実習校との連携, 変更への対応等の意見があった。本実習はカリキュラムに沿って行われていることや, 学校現場においては様々な状況が起こり得ること等, 丁寧に説明し理解を促していきたい。今後も受講生全員が満足のいく授業を目指し, 次年度に向けて改善を進めていきたい。

大学院(専門職学位課程)授業評価アンケート調査結果の集計・分析

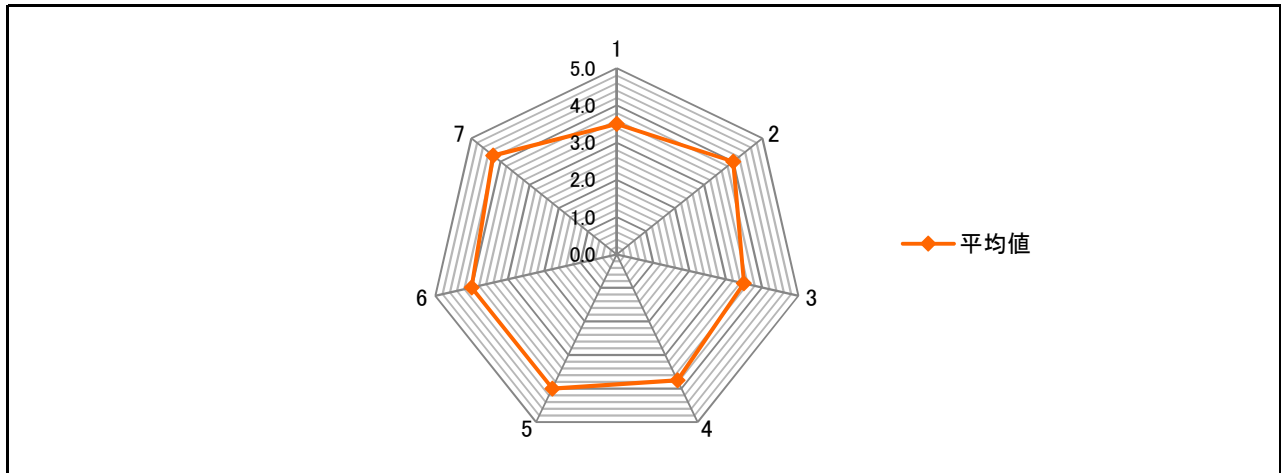
評価実施日 令和 2 年 2 月 19 日

授業科目名	特別支援・通級指導実習		
授業区分	実習科目	回答者数	4名
担当教員名	井上とも子, 大谷博俊, 伊藤弘道, 高原光恵, 尾関美和		

1 アンケート[I]の集計と分析について

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない, 無:未記入)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A.	
1	実習の手引は, 実習を進めていくのに適切な内容であった。	1	1	1	1			3.5
2	共通科目と専門科目で学んだことは, 実習を進めていくのに役立つ。	2	1		1			4.0
3	実習時間数は, 実習を進めるのに適切であった。	1	1	1	1			3.5
4	実習の指導体制は, 実習を進めるのに適切であった。	1	1	2				3.8
5	実習に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1		1			4.0
6	自分にとって, 満足感を得られた実習であった。	2		2				4.0
7	この実習をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	1	1				4.3
8								
9								



<分析>

設問Ⅰの平均値を見ると、項目番号1, 3, 4が「4」を切っており、評価もばらついている。設問Ⅲを合わせてみると、他の授業との兼ね合いで移動が負担であること、実習時間が長いこと、ほぼ1年間毎週あること、特に通級指導実習に関して実習中以外に協議等、時間をとられること等々が負担感としてあげられている。他、時間割上の課題で1週間に2回実習が入ることに改善が求められている。記録の取り方に関しては、月録の記入方法にも意見が寄せられており、仕組みや時間枠などに工夫や改善を要するといえよう。設問Ⅰ項目5は「4.0」であり、肯定的な評価であるが、グループ協議は設問Ⅲにおいて負担であった旨が書かれており、複数担任制の中での協働体制、姿勢の重要性については事前指導において、明確に目標の一つとして挙げておく必要性を感じた。設問Ⅱでは1年間通すことによって子どもの変化をとらえることができたことについて満足感を示すなど、毎週の実習は負担も大きいけど成就感もあることがわかる。また、教育現場から直接学べることについてもよかった点として数人が挙げている。今後、事前指導の内容や体制に関して、工夫を加えることによって、取り組みやすい実習、実践力が培える実習となるよう、考えていく必要があると感じる。

指導側からのもう一つの反省点として、教育実習そのものが、実習生の受け身的とらえに終わった感が否めない。実践力向上をねらいとするならば、事前指導において教育実習に対する目標を個々に明確に持ち、主体的に取り組める教育実習になるような工夫や指導が必要であると考え。